市内遺跡発掘調査報告12
日田市埋蔵文化財調査報告書第110集

吹上V

－1・2次調査の記録－

2013年

日田市教育委員会

吹上V －1・2次調査の記録－ 市内遺跡発掘調査報告12・日田市埋蔵文化財調査報告書第110集 2013年 日田市教育委員会

吹上台地西側遠景（東から）※1・2次調査の中心部

吹上台地東側遠景（東から）※1次調査Ⅲ区周辺

2次調査1号甕棺出土鉄刀

1次調査住居跡出土ガラス小玉

序　　文

本市に所在の吹上遺跡は、県内でも古くから大規模な弥生時代集落遺跡として知られ、今でも遺跡のあります畑では土器や石器を拾うことができます。

遺跡はこれまでに当委員会が11回の調査を行い、当時の住居や墓などが発見されると共に多くの遺物が出土しています。

今回報告いたします１・２次調査は、吹上遺跡で初めて実施する本格的な発掘調査として、大分県教育委員会の協力のもと、昭和54・55年度に実施いたしました。調査では、多くの弥生土器や甕棺墓などが出土したことによって話題となり、大変注目を集めました。この調査を契機に、遺跡の重要性が理解され、当時吹上遺跡に計画されていた農業基盤整備事業は、関係者の理解と協力によって見直され、遺跡は現状保存されました。

調査から30数年が経過し、出土した資料は、現在、日田市埋蔵文化財センターで展示や保管を行なっており、その活用・普及に努めています。

本書はこれまで吹上遺跡で発掘調査を行なった記録報告の第５巻にあたり、今後の埋蔵文化財保護や地域の歴史、学術研究等にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、遺跡の保護にご理解頂くとともに甚大なる協力を賜りました地元地権者の皆様方、調査から報告書作成に至るまで、多大なるご指導を賜りました関係機関の方々と、調査への協力をいただきました皆様方に対し、心から厚くお礼を申し上げます。

平成25年３月29日

日田市教育委員会

教育長　**合　原　多賀雄**

例　　言

1. 本書は、日田市教育委員会が国庫・県費の補助を受けて実施した吹上遺跡１・２次調査の発掘調査報告書である。
2. １・２次調査にあたっての調査組織及び調査協力者については『吹上Ⅰ』第１章第４節に記し、本報告においては報告書作成にかかる組織及び協力者について記載している。
3. 調査現場での実測・写真撮影は調査担当者等が行った。
4. 本書の調査報告の記録に用いた航空写真は、平成７年度に株式会社スカイサーベイに撮影委託した成果品を使用し、遺物写真は雅企画有限会社の撮影による。
5. 本書に掲載した遺物実測は調査員が行ったほかは、雅企画有限会社、株式会社九州文化財研究所への委託によるものを使用した。製図は調査員が行ったほかは雅企画有限会社の委託によるものを使用し、一部武石和美（文化財保護課整理作業員）の協力を得た。
6. 第12・13章第１図で使用した地形図は株式会社写測エンジニアリングに委託した成果品を使用した。
7. 事実報告中に記載している土器形式など、出土遺物の時期比定には、Ｐ105に記載の文献を参考にした。
8. 写真図版中の番号は、全て挿図番号と一致する。
9. 方位はすべて磁北を示し、墳墓の主軸に関しては、360°表記とする。（北0、東90、南180、西270度）
10. 出土遺物及び記録類（図面、写真等）は、平成16年までは大分県教育委員会文化課（発掘調査協力・指導）が管理保管していたが、以後は日田市埋蔵文化財センターに保管している。
11. なお、膨大な出土遺物や資料などの一部には、長期の保管のなかで所在不明となっているものも見られる。これらのうち、内容の把握できる資料を元に本記録は作成した。
12. 本書の執筆と編集は渡邉が行った。
13. 題字は、元日田市文化財調査員である武石邦男氏の揮毫によるものである。

日田市の位置

14. 吹上遺跡の調査報告書については全６分冊を予定している。これまでに４分冊を刊行しており、本書では第５分冊「吹上Ⅴ」として１・２次調査の報告を行う。第１～５分冊が調査報告編となっており、今後刊行予定の第６分冊においては、全11次の調査に伴う出土人骨や自然科学調査などの分析の記録と調査総括の２章の報告を予定している。

なお、これまでの４分冊の目次と内容については下表のとおりである。

第１分冊	書　名：	「吹上Ⅰ-３～５次調査の記録-」
	発行年：	2003年
	ｼﾘｰｽﾞ名：	日田市埋蔵文化財調査報告書第42集・日田地区遺跡群発掘調査報告３
	内容：	第１章　調査の経緯
		第２章　遺跡の立地と環境
		第３章　３次調査の記録
		第４章　４次調査の記録
		第５章　５次調査の記録
第２分冊	書　名：	「吹上Ⅱ-９～11次調査の記録-」
	発行年：	2004年
	ｼﾘｰｽﾞ名：	日田市埋蔵文化財調査報告書第52集・日田地区遺跡群発掘調査報告５　2004年
	内容：	第６章　９次調査の記録
		第７章　10次調査の記録
		第８章　11次調査の記録
第３分冊	書　名：	「吹上Ⅲ-７・８次調査の記録-」
	発行年：	2005年
	ｼﾘｰｽﾞ名：	日田市埋蔵文化財調査報告書第57集・日田地区遺跡群発掘調査報告６
	内容：	第９章　７次調査の記録
		第10章　８次調査の記録
第４分冊	書　名：	「吹上-６次調査の記録-」
	発行年：	2006年
	ｼﾘｰｽﾞ名：	日田市埋蔵文化財調査報告書第70集・日田地区遺跡群発掘調査報告８
	内容：	第11章　６次調査の記録

※このほか、吹上遺跡１・２次調査に関しては概要報告書が発行されており、今回の報告の基本的部分は概要報告書に従うものとする。概要報告書は以下の２冊である。

・『吹上遺跡-大分県日田市小迫所在弥生遺跡調査概報-』日田市教育委員会　1980

・『吹上Ⅱ』日田市教育員会　1981

目　　次

第12章　1次調査の記録 …… 1
第1節　調査の概要 …… 3
第2節　調査の内容 …… 7
(1)　Ⅰ区の調査 …… 7
(2)　Ⅱ区の調査 …… 31
(3)　Ⅲ区の調査 …… 34
(4)　Ⅳ区の調査 …… 34
(5)　そのほかの出土遺物 …… 39
第3節　小結 …… 40
第13章　2次調査の記録 …… 71
第1節　調査の概要 …… 73
第2節　調査の内容 …… 75
(1)　BⅡ区の調査 …… 75
(2)　D・E01・02区の調査 …… 76
(3)　F・GⅡ・Ⅲ区の調査 …… 86
(4)　HⅠ区の調査 …… 99
(5)　Ⅰ・J01区の調査 …… 100
(6)　そのほかの出土遺物 …… 100
第3節　小結 …… 104

挿　図　目　次

(第12章　1次調査の記録)
第1図　吹上遺跡調査区位置図 (1/2,500) …… 2
第2図　調査区配置図 (1/2,000) …… 4
第3図　1次調査区配置図 (1/2,000) …… 5
第4図　Ⅰ・Ⅱ区グリッド配置図 (1/700) …… 7
第5図　Ⅰ区グリッド平面図 (1/200) …… 9-10
第6図　E5Ⅰ00グリッド実測図 (1/40) …… 11
第7図　E5Ⅰ・E6Ⅱグリッド出土遺物実測図 (1/4) …… 11
第8図　E5Ⅱ00グリッド実測図 (1/50) …… 12
第9図　E5Ⅱ00グリッド出土遺物実測図①(1/4) …… 13
第10図　E5Ⅱ00グリッド出土遺物実測図②(1/4) …… 14
第11図　概報第8図掲載遺物 (転載) …… 14
第12図　E6Ⅲ00グリッド1号貯蔵穴実測図 (1/30) …… 16
第13図　E6Ⅲグリッド出土遺物実測図 (1/4) …… 17
第14図　E6Ⅳグリッド出土遺物実測図 (1/4) …… 18
第15図　E6Vグリッド出土遺物実測図 (1/4) …… 20
第16図　D・E6Ⅰ01グリッド遺構出土遺物実測図 (1/4) …… 22
第17図　D・E6Ⅰ01グリッド出土遺物実測図① (1/4) …… 23

第18図　D・E6Ⅰ01グリッド出土遺物実測図②（1/4）…… 25
第19図　D6グリッド出土遺物実測図（1/4）…… 25
第20図　D6Ⅲ01グリッド実測図（1/40）…… 27
第21図　D6Ⅲ01グリッド出土遺物実測図①（1/4）…… 28
第22図　D6Ⅲ01グリッド出土遺物実測図②（1/4）…… 29
第23図　Ⅱ区トレンチ配置図（1/500）…… 30
第24図　Ⅱ区4トレンチ実測図（1/40）…… 30
第25図　Ⅱ区トレンチ出土遺物実測図（1/4）…… 31
第26図　Ⅱ区5トレンチ実測図（1/40）…… 33
第27図　1号石棺墓実測図（1/30）…… 33
第28図　Ⅱ区5トレンチ1～3号甕棺墓実測図（1/6）…… 34
第29図　Ⅲ区グリッド実測図（1/350）…… 35
第30図　Ⅳ区グリッド実測図（1/300）…… 35
第31図　出土石器実測図①（1/2）…… 36
第32図　出土石器実測図②（1/2）…… 37
第33図　出土石器実測図③（1/2）…… 38
第34図　出土石器・玉類・土製品実測図④（2/3）…… 39

（第13章　2次調査の記録）
第1図　吹上遺跡調査区位置図（1/2,500）…… 72
第2図　2次調査区配置図（1/2,000）…… 74
第3図　BⅡ区トレンチ実測図（1/80）…… 75
第4図　BⅡ区出土遺物実測図（1/4）…… 75
第5図　D・E01・02区グリッド配置図（1/700）…… 76
第6図　E01・02・D01区グリッド実測図（1/200）…… 76
第7図　D01区1～5グリッド実測図（1/150）…… 78
第8図　D01区1・2・4・5グリッド実測図（1/40）…… 78
第9図　D・E区グリッド出土遺物実測図（1/4）…… 79
第10図　D01区3グリッド実測図（1/60）…… 79
第11図　D01区3グリッド1号貯蔵穴実測図（1/30）…… 80
第12図　1号貯蔵穴出土遺物実測図（1/4）…… 81
第13図　D01区3グリッド2号貯蔵穴実測図（1/30）…… 82
第14図　2号貯蔵穴出土遺物実測図（1/4）…… 82
第15図　D01区3グリッド1号甕棺墓実測図（1/20）…… 84
第16図　1号甕棺実測図（1/6）…… 84
第17図　D01区3グリッド1号土坑墓実測図（1/20）…… 84
第18図　D01区3グリッド2・3号土坑実測図（1/30）…… 84
第19図　D01区3グリッド出土遺物実測図（1/4）…… 85
第20図　F・GⅡ・Ⅲ区トレンチ実測図（1/200）…… 87-88
第21図　FⅡ区第1トレンチ実測図（1/60）…… 89
第22図　FⅡ区1号甕棺墓実測図（1/20）…… 91

第23図　１号甕棺実測図（1/8）…… 91
第24図　甕棺出土副葬品実測図（1/2）…… 91
第25図　FⅡ区２号甕棺墓実測図（1/20）…… 92
第26図　２号甕棺実測図（1/8）…… 92
第27図　FⅡ区３号甕棺墓実測図（1/20）…… 92
第28図　FⅡ区１号土坑墓実測図（1/30）…… 92
第29図　FⅡ区１号貯蔵穴実測図（1/30）…… 93
第30図　FⅡ区出土遺物実測図（1/4）…… 94
第31図　GⅡ区第１トレンチ実測図（1/60）…… 95
第32図　GⅡ区１号貯蔵穴実測図（1/30）…… 95
第33図　１号貯蔵穴出土遺物実測図（1/4）…… 96
第34図　GⅡ区第１トレンチ出土遺物実測図①（1/4）…… 97
第35図　GⅡ区第１トレンチ出土遺物実測図②（1/4）…… 98
第36頭　HⅠ区実測図（1/200）…… 99
第37図　HⅠ区出土遺物実測図（1/4）…… 99
第38図　I・J01区実測図（1/200）…… 100
第39図　GⅠ区表採遺物実測図（1/4）…… 101
第40図　表採遺物実測図（1/4）…… 102
第41図　出土石器・土製品実測図（1/2）…… 103
第42図　概報第21図掲載石器（転載）…… 104

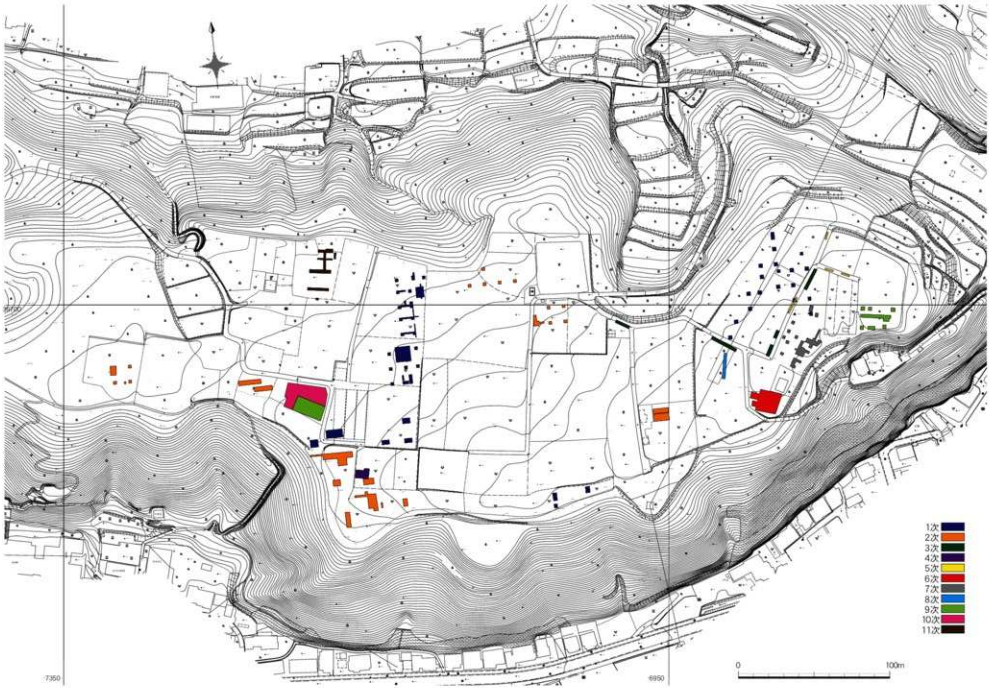
図　版　目　次

巻頭図版　吹上台地西側遠景（東から）　吹上台地東側遠景（東から）
２次調査１号甕棺出土鉄刀　１次調査住居出土ガラス小玉
（第12章　１次調査の記録）
図版１　E5Ⅰ00グリッド１号住居跡（北から）…… 47
E5Ⅰ00グリッド３号土坑（南から）
E5Ⅰ00グリッド（南から）
図版２　E5Ⅱ00グリッド（西から）…… 48
E5Ⅱ00グリッド２号住居跡（東から）
図版３　E5Ⅱ00グリッド２号住居跡土器出土状況①…… 49
E5Ⅱ00グリッド２号住居跡土器出土状況②
図版４　E5Ⅱ00G２グリッド２号住居跡土器出土状況③…… 50
EⅡ00グリッド２号住居跡石器出土状況
図版５　E5Ⅲ00Gグリッド１号貯蔵穴（北から）…… 51
E6Ⅲ00G１号貯蔵穴（西から）
図版６　D・E6Ⅰ01グリッド　全体…… 52
D・E6Ⅰ01グリッド　北東側
図版７　D・E6Ⅰ01グリッド　北西側…… 53
D・E6Ⅰ01グリッド　南西側

図版 8　D・E6Ⅰ01グリッド　南東側 …… 54
D・E6Ⅰ01グリッド1号住居跡土器出土状況
図版 9　D・E6Ⅰ01グリッド3号住居跡石庖丁出土状況 …… 55
D・E6Ⅰ01グリッド3号土坑壷出土状況
図版10　D・E6Ⅰ01グリッド石器出土状況 …… 56
DⅢ01グリッド2号溝（北から）
図版11　D6Ⅲ01グリッド2号溝土器出土状況① …… 57
D6Ⅲ01グリッド2号溝土器出土状況②
図版12　D6Ⅲ01グリッド3号溝（北から） …… 58
D6Ⅲ01グリッド3号溝土器出土状況
図版13　Ⅱ区4トレンチ（東から） …… 59
Ⅱ区5トレンチ全体
2号石棺墓、1号甕棺（東から）
図版14　Ⅱ区5トレンチ4号石棺墓（南から） …… 60
Ⅱ区5トレンチ1号甕棺墓
図版15　Ⅱ区5トレンチ3号甕棺墓 …… 61
Ⅳ区トレンチ
図版16　出土土器 …… 62
図版17　出土土器 …… 63
図版18　出土土器 …… 64
図版19　出土土器 …… 65
図版20　出土土器 …… 66
図版21　出土土器 …… 67
図版22　出土土器 …… 68
図版23　出土石器 …… 69
（第13章　2次調査の記録）
図版 1　BⅡ区1トレンチ（東から） …… 109
E01・E02・D01区グリッド遠景（東から）
図版 2　E02区1グリッド（西から） …… 110
E01区1グリッド（西から）
図版 3　E01区2グリッド（西から） …… 111
D01区6グリッド（西から）
図版 4　D01区1・2・4・5グリッド（北東から） …… 112
D01区2・3・5グリッド（北から）
図版 5　D01区3グリッド（南から） …… 113
D01区3グリッド（北から）
図版 6　D01区3グリッド1号貯蔵穴土層 …… 114
D01区3グリッド1号貯蔵穴拡大
図版 7　D01区3グリッド2号貯蔵穴（北から） …… 115
D01区3グリッド1～3号土坑（南から）
図版 8　D01区3グリッド1号甕棺墓検出状況（北から） …… 116
D01区3グリッド1号甕棺墓検出状況（西から）

第12章　1次調査の記録

吹上原台地空中写真（白印は調査位置）



第１図　吹上遺跡調査区位置図（1/2500）

第１節　調査の概要（第１・２図）

１次調査は昭和54年度に実施した、農業基盤整備事業に先立つ確認調査の１年目にあたる。

調査は台地上に広がる畑地の農業基盤整備計画が持ち上がったことに端を発する。当時この遺跡は県内でも屈指の大規模弥生集落遺跡として周知され、多くの集落遺構や墳墓群が存在することが想定されていたが、過去に本格的な調査が行われておらず、開発事業との調整に資するため、事前の試掘調査が急務となった。そこで、市教委では県教委文化課の協力を得て、昭和54･55年の２ヵ年に亘って確認調査を実施した。なお、この確認調査結果に基づいた協議では、遺跡の重要性・記録保存のための調査期間・経費などを勘案し、基盤整備事業が中止となり、遺跡の現状保存が図られた。

調査は昭和54年８月20日から10月17日までの間実施した。調査では遺構の存在を確認することが目的であるため、表面検出を基本としながらも必要に応じて遺跡の内容を確認するための掘り下げも行っている。

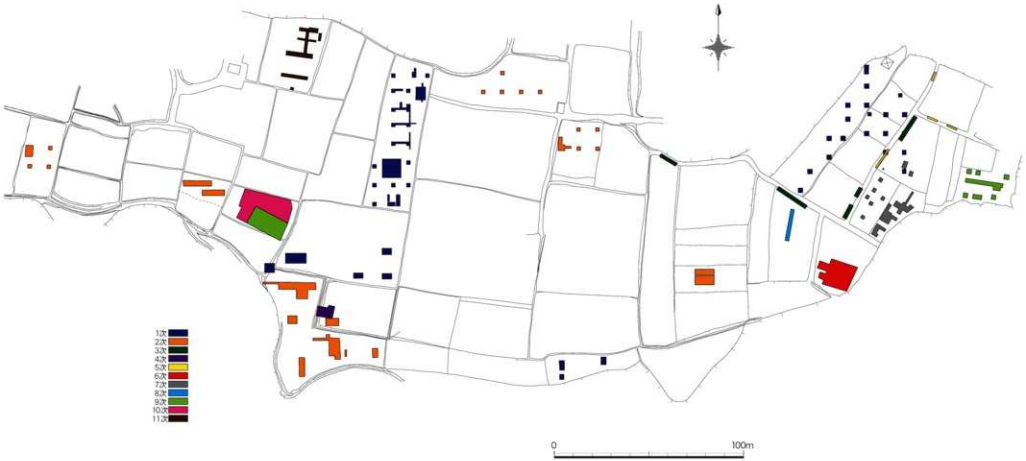
調査区の設定にあたっては、対象範囲が台地全面に及んでいるため、台地上にある三等三角点（基準点名：吹上原（TR34930779401））を中心として50m四方の方眼区を設定した。この方眼区に沿って、台地中央北部に第Ⅰ区、その南側に第Ⅱ区の調査区を設定し、第Ⅲ区は甕棺出土の伝承のある台地西端の三角点付近に設定し、第Ⅳ調査区は台地地中央南西端に設定した。調査は方眼に沿って２×２mのグリッドを基本として設定し、必要に応じて拡張区を設けた。また、グリッドの名称については、Ⅰ区ではこの方眼区割りに沿ってD・E の５・６グリッドとし、さらにそのなかを10m方眼で区分し、これら区分に従って名称設定した。これに対し、第Ⅱ～Ⅳ区ではローマ数字を割り振っている（第５図）。特にⅠ区のグリッド設定は複雑であるが、概報との混同などを避けるため、あくまで調査時の区分に従って報告するものとする。また、遺構に関しては、過去の図面や写真から判断出来ないものも多いことから、調査時の遺構名・番号に従って報告し、図も原則当時のまま報告する。

今回の調査区の各トレンチで検出した遺構については、掘り下げを行っていないものも多く、判然としない部分も多いが、わかっているだけで、竪穴住居跡18軒、竪穴状遺構５基、溝４条、貯蔵穴４基、甕棺墓３基、石棺墓５基、土坑14基、ピット多数であるが、大半が不明遺構である。１次調査の各調査区面積は、Ⅰ区が270㎡、Ⅱ区が99㎡、Ⅲ区が118㎡、Ⅳ区が30㎡で総面積は517㎡を測る。

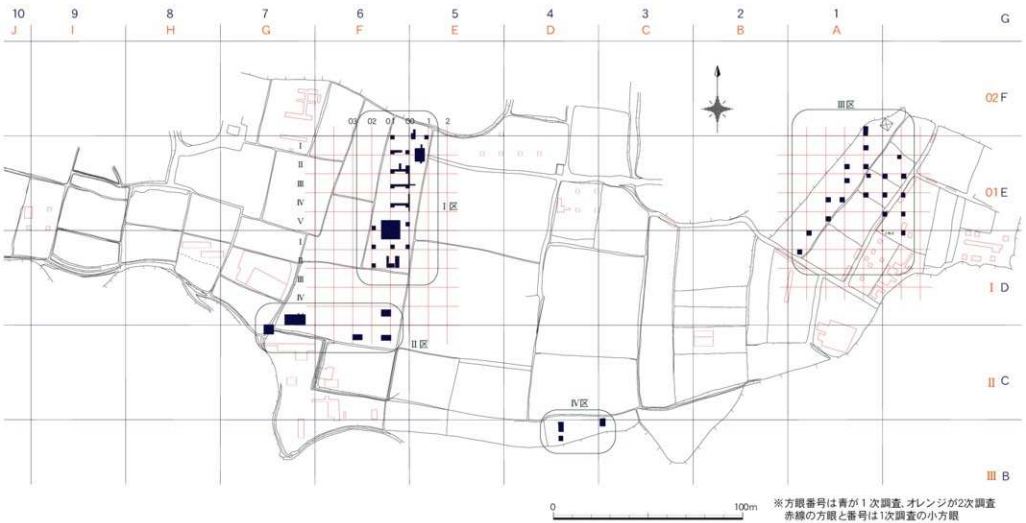
こうした内容の一部は既に概要報告[註1]としてまとめてはいるが、調査後30年が経過していることから、今回の報告に併せて見直しや整理を行い変更が生じている。本報告をもって正式な報告とする。また、整理や保管の過程において、概要報告時の遺物の所在が分からなくなっているものも見られ

写真１　調査前の吹上遺跡①

写真２　調査前の吹上遺跡②



第２図　調査区配置図（1/2,000）



第３図　１次調査区配置図（1/2,000）

る。所在不明の遺物に関しては、観察表に明記することとし、報告にあたっては、概要報告時の実測原図を再トレースして掲載する。また、概要報告時に掲載している遺物に関しては観察表に報告時の図版番号を掲載する。

なお、１次調査における調査組織及び調査協力者は『吹上Ⅰ』第１章第４節に記載している。

１次調査の報告に関する平成24年度の組織体制は、以下のとおりである。

調 査 主 体　　日田市教育委員会
調査責任者　　合原多賀雄（日田市教育委員会教育長）
調 査 統 括　　財津俊一（同文化財保護課課長）
調 査 事 務　　土居和幸（同文化財保護課埋蔵文化財係長）、井上和泉（同係主査）
報告書担当　　渡邉隆行（同係主査）

また、遺物整理については平成16・23年度に実施し、平成18・19・23・24年度に遺物実測委託等を行った。整理作業と図版作成に携わった関係者は次のとおりである。

製　　図　　武石和美（整理作業員）、川津　真由美（臨時職員）
整 理 作 業　　井上とし子、石松裕美、鍛治谷節子、黒木千鶴子、坂口豊子、平川優子

註１　『吹上遺跡』-大分県日田市小迫所在弥生遺跡調査概報-　日田市教育委員会　1980

写真３　発掘調査作業風景

写真４　調査に携わられた方々

写真５　別府大学賀川光夫教授による青空教室

写真６　現地説明会風景

第２節　調査の内容（第３図）

第３図の１次調査区配置図を元に第Ⅰ～Ⅳ区の各調査区の解説を行う。なお、50m方眼のメッシュ区割りは２次調査と共有されるものではあるが、この区割り番号は２次とは異なっている。第３図中に混同を避けるために１・２次両方の方眼番号を表示しているので参照いただきたい。

（１）　Ⅰ区の調査（第４図・第５図）

台地中央部の比較的平坦な範囲に50m方眼にしたがって第Ⅰ区とⅡ区を設定した。そのうち、第Ⅰ区は10m四方の方眼区を設定し、その区割りに沿って２m四方のグリッドを掘り下げ、遺構のある範囲に関しては必要に応じて拡張区を広げて調査した。設定したグリッドは大きく20箇所

第４図　Ⅰ・Ⅱ区グリッド配置図（1/700）

に及ぶ。以下これらのグリッド毎に解説する。なお、解説は第５図の平面図に基づくが、詳細遺構実測図のあるものに関しては、個別に掲載する。

E６Ⅰ01グリッド

２×２ｍのグリッドであるが、遺構・遺物共に確認されない。

E５Ⅰ00グリッド（第６図）

２×３ｍで一部を拡張したグリッドである。土坑及び住居跡や溝とされる遺構が確認されている。

１号土坑　確認面での規模は幅100㎝×60㎝、深さ約50㎝を測り不正方形を呈する。埋土最下面に炭が混入した層が確認される。

１号住居跡

トレンチ北側の拡張部端で遺構のラインが確認され、住居と設定されているが、詳細は不明。

土坑・溝

１号住居跡周辺に１号土坑と１号溝が所在したとされるが、未掘であり詳細不明。

出土遺物（第７図）

１～３は１号住居跡から出土した。１は小型甕、２は甕、３は鉢である。４は１号土坑から出土した台付甕の底部である。１は高三瀦式相当、２・４は下大隈式頃で遺構の下限と考えられる。

E５Ⅰ１グリッド

２×２ｍのグリッドで、３号住居とピットが検出されている。遺構は未掘のため、詳細不明である。

出土遺物（第７図）

５～７が出土した。いずれも甕で、５は口縁部が如意状に立ち上がり、６はくの字状を呈し、７はやや上底気味である。５・７は板付Ⅱ式の新段階、６は高三瀦式に該当するものか。

E６Ⅱ01グリッド

２×２ｍのグリッドで、東側に１×４ｍの拡張区を設定して広げており、土坑やピットが検出されているが、未掘のため詳細不明である。

出土遺物（第７図）

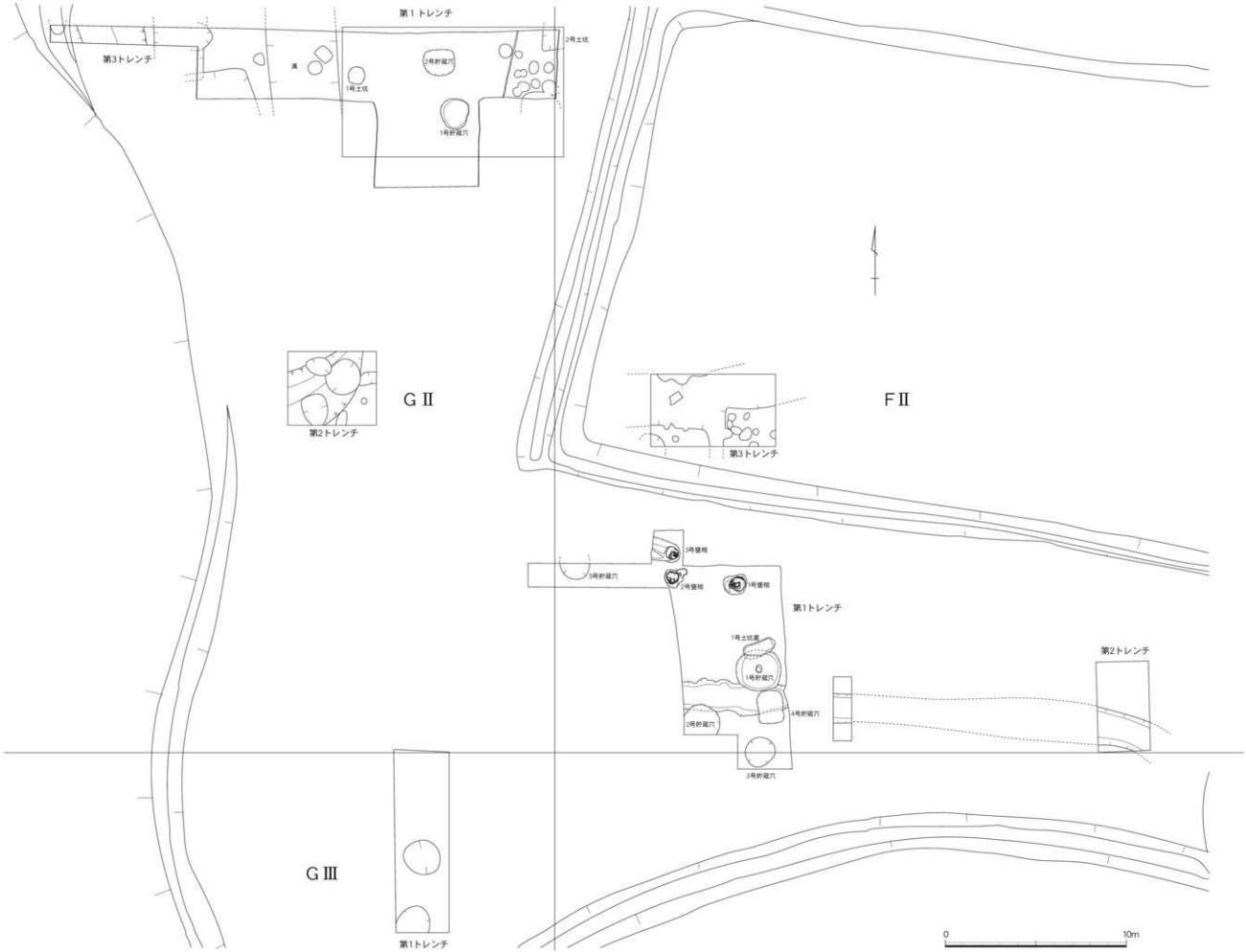
８は甕の口縁部で、断面三角形状を呈する。９は甕の底部で胴部が卵状に張り出し、底部は丸底である。８は城ノ越式、９は終末期に相当するものか。

E６Ⅱ00グリッド

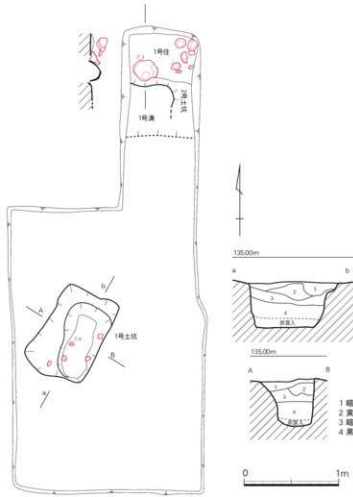
２×２ｍのグリッドであるが、遺構・遺物共に確認されない。

E５Ⅱ00グリッド（第８図）

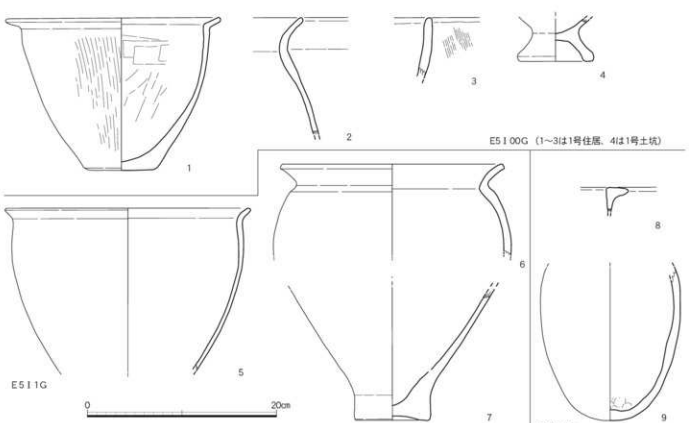
５×７ｍのグリッドで、さらに確認のトレンチを南北に設定している。住居跡と土坑が確認されている。



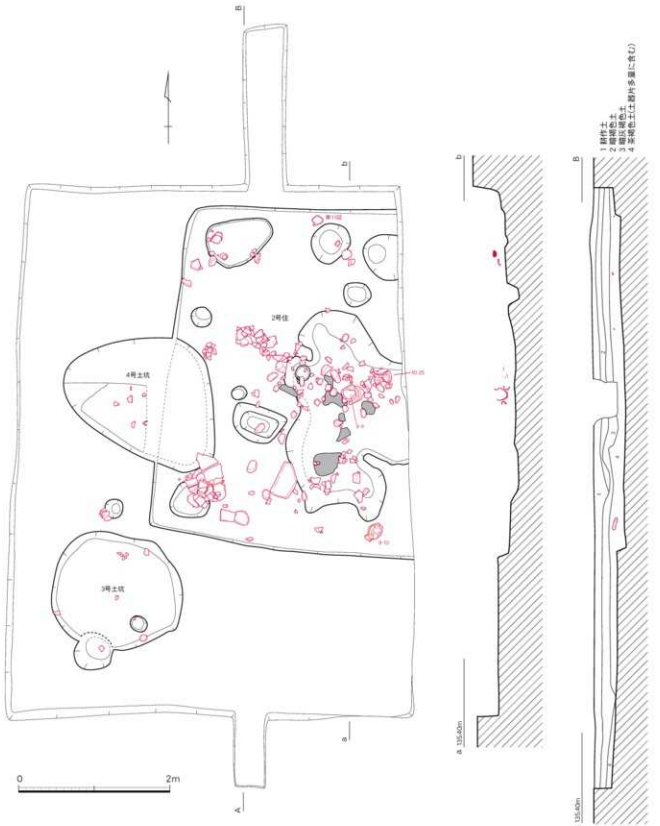
第20図　F・GⅡ・Ⅲ区トレンチ実測図（1/200）



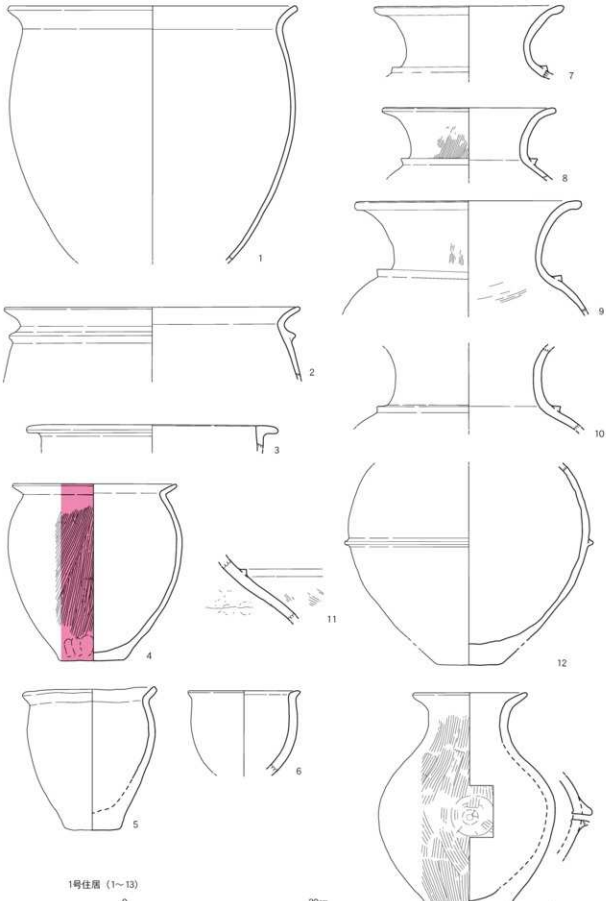
第６図　E5Ⅰ00グリッド実測図（1/40）



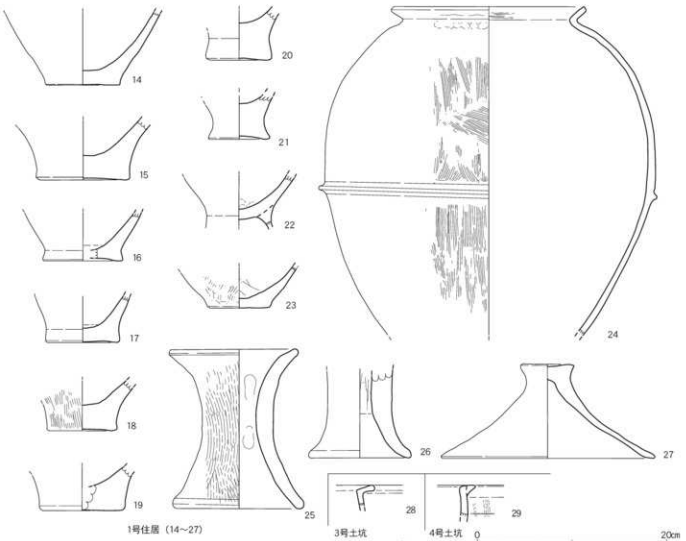
第７図　E5 Ⅰ・E6 Ⅱグリッド出土遺物実測図（1/4）



第８図　E5 Ⅱ 00グリッド実測図（1/50）



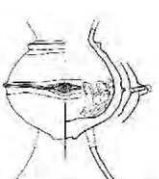
第９図　E5 Ⅱ 00グリッド出土遺物①（1/4）



第10図　E5 II 00グリッド出土遺物②（1/4）

2号住居跡

4号土坑に切られ、西側が調査区外に延びるため未検出で、上面は畑開墾時に削平を受けたと思われる。方形を呈する住居跡で、検出面での規模は4.5×3.5m＋α、深さ15cmを測る。炉は中央部にピット状の窪みがあり、焼土が広がる。床面にはピット数本があるが主柱穴は不明である。概要報告時には炭化材が一面に広がり、建築材とドングリ、褒の中よりヤマモモの種子が発見されたとされるが所在不明のため、詳細は分からない。出土遺物の多くは炉跡を中心に出土しており、いずれも床面直上よりの出土と想定される。



第11図　概報第8図
掲載遺物（転載）

3・4号土坑

個別図とレベルがないため詳細が不明であるが、3号は検出面での規模2×1.8mの不整形で、4号は径1.7mを測る不整円形である。

出土遺物（第9・10図）

1～27が住居跡から出土した。1～6は褒で、1・2はくの字口縁で、2は頚部に断面三角形状

の突帯が巡る。3は断面逆L字形を呈する。4は断面くの字形を呈する小型の甕である。外面は丹塗りである。5は口縁部がくの字を呈する小型の甕である。6は口縁端部が小さく外につまみ出す。7～13は壺である。7～11は頸部に断面三角形状の突帯が巡り、口縁部が外に広がる。12は胴部に断面三角形状の突帯が巡る。13は小型の壺で頸部が小さく外に開く、胴部に孔が穿たれた注口土器である。14～22は甕の底部である。14～17は厚みの薄い平底で、18～20は厚みのある平底、21はやや上げ底気味を呈する。22は台付甕の底部である。23は壺の底部か。24は中型の甕で、口縁部がくの字状に小さく開き胴部上半が開き、下部に断面三角形状の突帯が巡る。25は器台である。26は支脚か。27は蓋である。

28は3号土坑から出土した。口縁部が逆L字形を呈する。29は4号土坑から出土した。口縁部が断面三角形状を呈し、頸部下部に沈線が巡る。

住居跡出土遺物のうち3・5・6や20・21・27は城ノ越式期頃に相当し、それ以外のものは高三瀦式の新段階頃に相当し、2時期に分かれる。方形住居であることから、後期前半で捉えておきたいが、別の遺構が重複していた可能性も考えられる。土坑は3号が須玖Ⅰ式、4号が城ノ越に相当か。

そのほか、第11図は概要報告書第8図左上隅の脚付の壺（注口土器か）である。所在不明となっており、原図も所在しないから概報より転載する。13の注口土器と同種のものであろうか。

E6Ⅲ01グリッド

2×2mのグリッドの北側1mを拡張し、E6Ⅲ00Gに繋げている。住居跡と思われる方形のプランと溝とされる遺構が拡張区から検出されているが未掘のため詳細不明である。

E6Ⅲ00グリッド（第12図）

2×2mのグリッドを北側に拡張し、E6Ⅲ01Gに繋げ、南側に幅50cmのトレンチを広げてE6V00グリッドと繋がる。袋状貯蔵穴が検出され、その上面を溝と住居跡が切るとされる。溝と住居跡は詳細不明である。

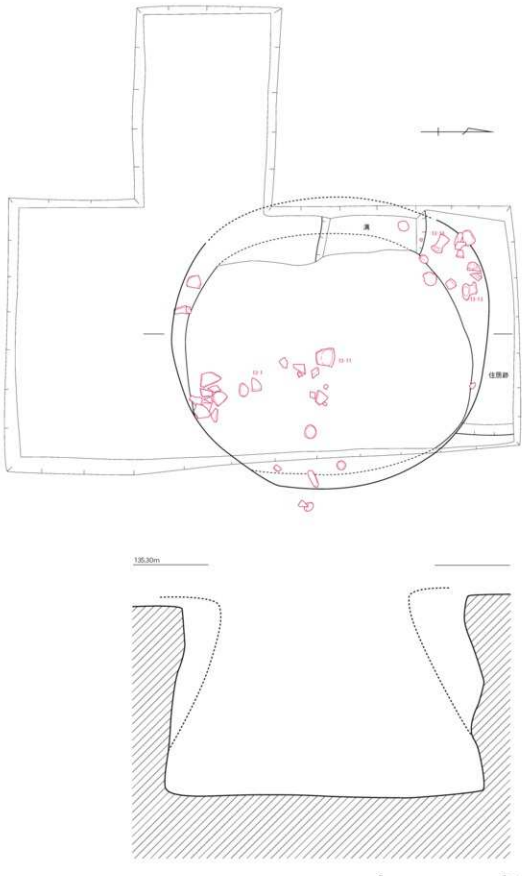
1号貯蔵穴

遺構上面を溝と竪穴住居跡によってカットを受けるとされる。所謂袋状貯蔵穴で、検出面での規模径2.2m、底径約2.5m、深さ約1.5mを測り、平面形は円形を呈する。貯蔵穴内からは多数の遺物が出土しているが、特に南壁と北壁の床面に多く検出されている。

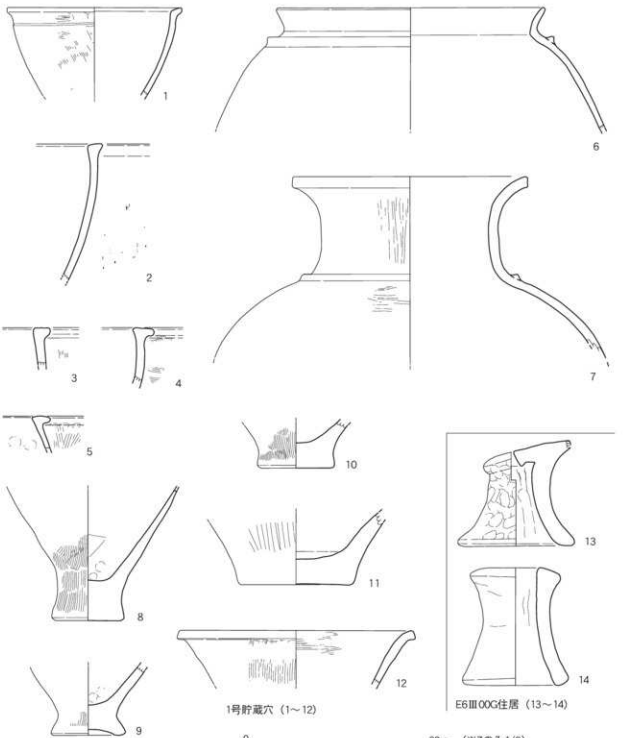
出土遺物（第13図）

1～12が貯蔵穴より出土した。1～5は甕である。1は口縁部が如意状に開き、頸部下部に沈線が巡る。2～5は断面三角形状及び逆L字形を呈する。6は大甕で口縁部が立ち上がる。7は壺で口縁部が直線的に立ち上がり、外に開く。8～12は甕の底部で、8は厚みがあり、9は上げ底気味、10・11は平底である。12は鉢か。13・14は住居跡出土とされる。いずれも支脚で14は上方先端が嘴状に突出するタイプ、15は器台状のタイプである。

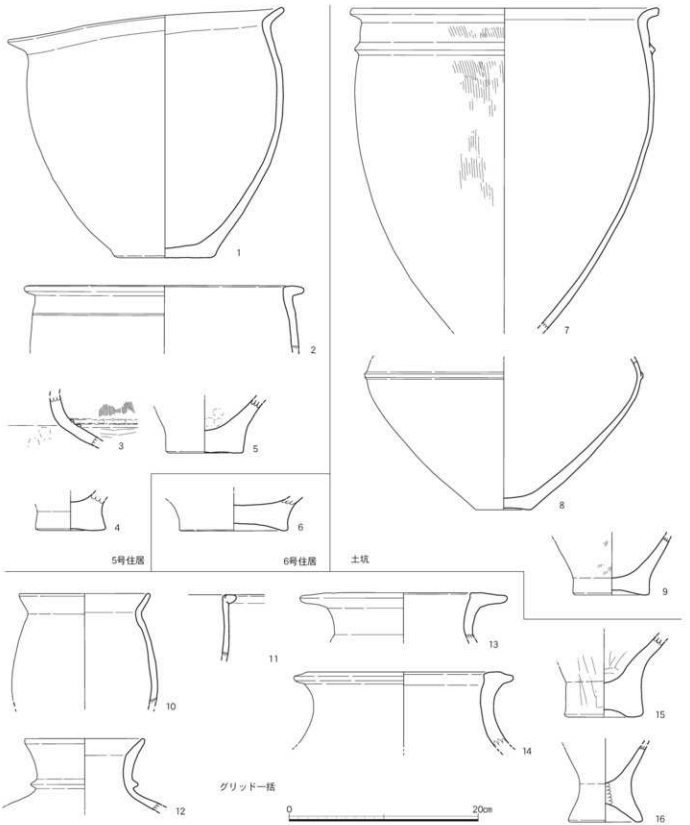
貯蔵穴出土遺物は、6・7などは下大隈式の新段階頃相当であるが、それ以外の遺物は概ね城ノ越式と見られる。住居跡出土遺物は下大隈式の新段階頃に相当するものか。中期初頭頃の貯蔵穴と上面を切る住居跡は後期後半と考えられる。



第12図　E6 Ⅲ 00グリッド 1 号貯蔵穴実測図（1/30）



第13図　E6 Ⅲ グリッド出土遺物実測図（1/4）



第14図　E6 Ⅳ グリッド出土遺物実測図（1/4）

E6Ⅳ01グリッド

2×2mのグリッドの北側1mを拡張し、E6Ⅳ00グリッドに繋げている。土坑及び拡張区から貯蔵穴が検出されているが未掘のため詳細不明である。

出土遺物（第14図）

7～9が土坑より出土した。7・9は甕で、7は口縁部をくの字状に外反し、頚部下半に突帯が巡る。9は底部で平底である。8は壷である。胴部に断面台形の突帯が巡る。何れも須玖Ⅰ式頃か。

E6Ⅳ00グリッド

2×2mのグリッドを北・西に拡張し、E6Ⅲ00グリッド・E6Ⅳ01グリッドに繋げている。グリッド内からは5～7号住居跡の3軒が検出されているが、未掘のため詳細不明である。そのため、住居プランについては推定線である。

出土遺物（第14図）

1～5は5号住居跡から出土した。1は口縁部がくの字状に外反する小型の甕で、2は断面逆L字形の口縁部で、頚部下部に沈線が巡る。3は壷で頚部に刻みの入る小突帯が二重に巡る。4・5は甕の底部である。やや厚底気味を呈する。6は6号住居跡から出土した。壷の底部か。やや上底気味を呈する。10～16はE6Ⅳグリッドから出土した一括遺物である。10は甕で口縁部が上方に立ち上がり、胴部は底部に向かって卵形を呈する。11は甕の口縁部で断面三角形状を呈する。12～14は壷で、12は素口縁の壷で頚部に断面三角形状の突帯が巡る。13・14は頚部が短く立ち上がり、口縁部は逆L字形を呈する。15は甕の底部である。やや上げ底である。16は脚付きの甕である。

5号住居跡は殆どが須玖Ⅰ式前後に相当し、1のみ高三瀦式で別住居の混入物か。6号住居跡は中期相当か。その他このグリッドからは11・15が城ノ越式、13・14が須玖Ⅱ～高三瀦式、10・12・16が終末期頃と概ね3時期に分けられる。

E6Ⅴ01グリッド

2×2mのグリッドの北側1mを拡張し、E6V00グリッドに繋げている。グリッド全面に遺構が検出されているが、未掘のため詳細不明である。

出土遺物（第15図）

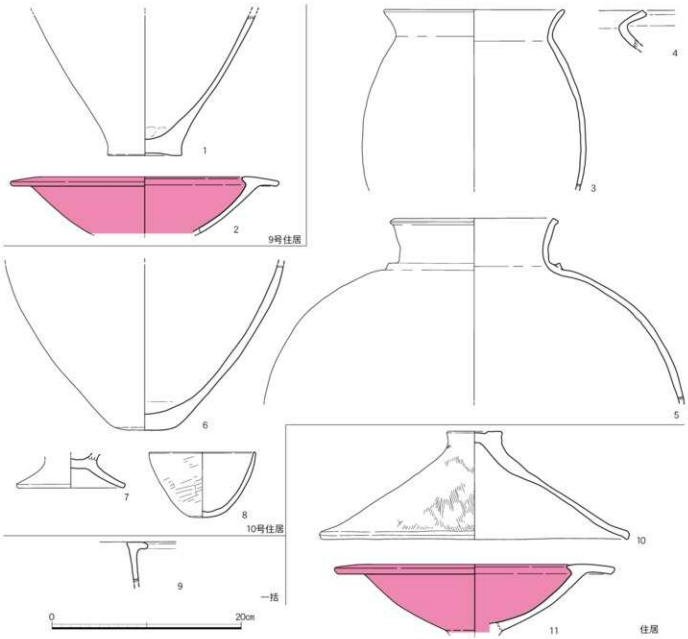
9がグリッドから出土した。逆L字形を呈する甕の口縁部である。須玖Ⅰ式頃か。

E6Ⅴ00グリッド

2×2mのグリッドの北側1mを拡張し、E6V01グリッドに繋げ、南北側に幅50cmのトレンチを拡張している。竪穴住居跡3軒が検出されたとされる。8号が2m程度、10号が4m程度の規模と想定されるが、未掘のためその規模や平面形は不明である。

出土遺物（第15図）

1・2は9号住居跡から出土した。1は甕の口縁部で底部が平底を呈し、2は高坏で口縁部が鋤先状を呈し、内外共に丹塗が施される。3～8は10号住居跡から出土した。3は口縁部が上方に立ち上がり、4は口縁部がくの字状を呈する。5は短頚の壷ので口縁部が上方に立ち上がり、頚部に断面三角形状の突帯が巡り、胴部は大きく張り出す。6は甕の底部でレンズ底を呈する。7は台



第15図　E6 Ⅴ グリッド出土遺物実測図（1/4）

付の甕の底部か。8は鉢である。9はグリッド内、10・11は住居跡内からの出土である。9は甕である。10は蓋で外面はハケが残り、11は高坏で口縁部は鰭先状を呈し、内外共に丹塗りが施される。

9号住居跡は須玖Ⅱ式、10号住居跡は下大隈式の新段階から終末期にかけてで、一括遺物も須玖Ⅱ式頃と概ね2時期の遺構と想定される。

D・E6 Ⅰ 01グリッド（写真7）

2×2mのグリッドを拡張した10×10mのグリッドである。調査時にはD・E6区やE6Ⅵグリッドとも表記されていた。表面確認に留めず、全掘を行っているグリッドであるため、出土遺物量は

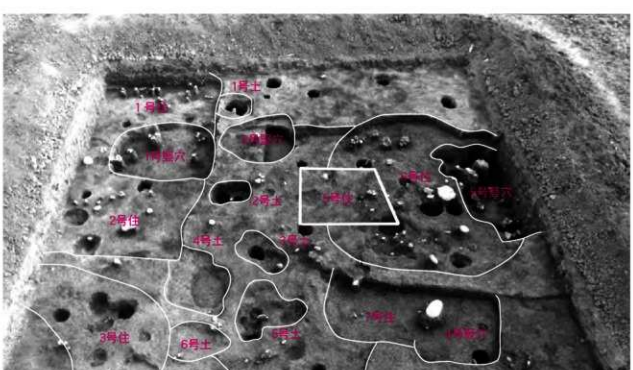


写真７　D・E6 Ⅰ 01グリッド遺構写真

１次調査中最も多い。記録図面の所在が不明であるため、概要報告時のグリッド写真の遺構名をそのまま踏襲して説明する。

住居跡

全部で６軒の住居跡が確認されているが、写真を見る限り１・２・５号住居跡は方形プラン、３・６号住居跡は円形プラン、４・７号住居跡は不整形である。このうち、２号は１号との区別が不明瞭で４・７号も切り合いやプランは不明である。なお、３号住居跡からはガラス小玉が出土している。

竪穴状遺構

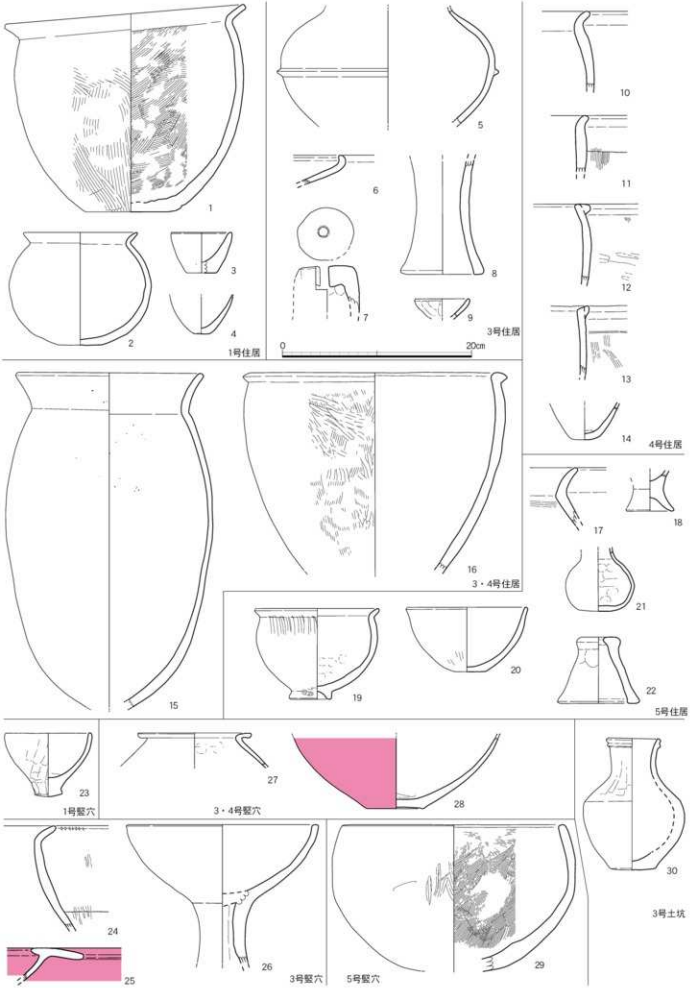
全部で５基が確認されている。いずれもやや大型の土坑のようである。どの遺構とも切り合い関係は不明瞭である。

土坑

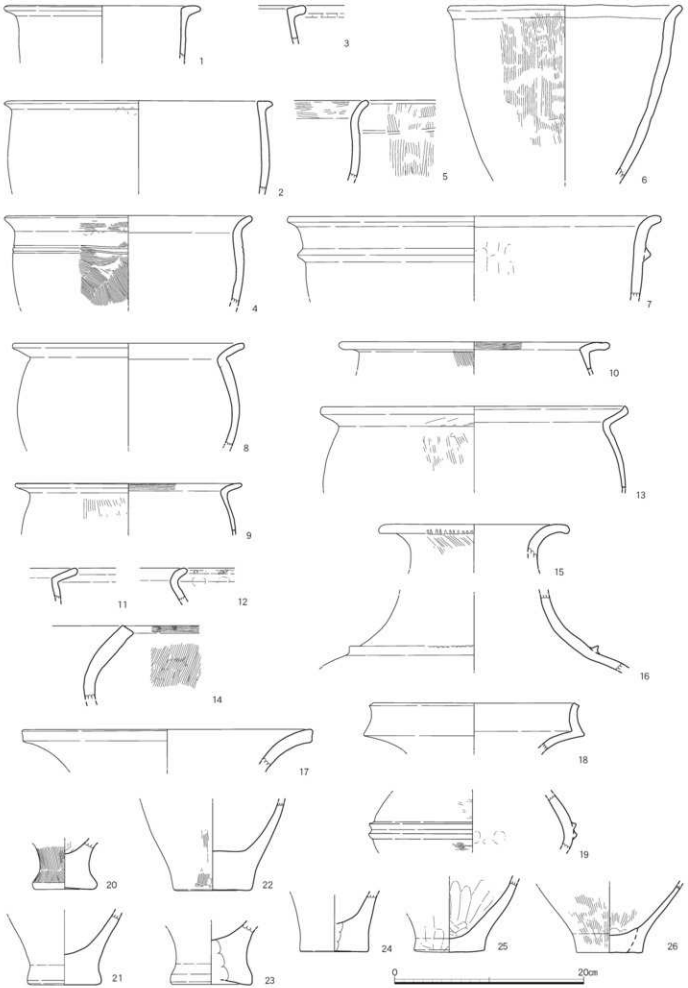
全部で７基が確認されている。不整形の土坑のようである。

出土遺物（第16 ～ 18図）

１～４は１号住居跡から出土した。１は小型の甕で内外共にハケが施される。口縁部はくの字に外反する。住居跡の床面に伏せた状態で出土した。２は小型の甕である。胴部は球形に貼り、口縁部が小さく外反する。３・４は小型の鉢である。５～９は３号住居跡から出土した。５は壷の胴部である。胴部中央に断面三角形状の突帯を巡らせる。６は高坏である。瀬戸内系のもので、口縁端部を小さく折り曲げる。７は支脚か。上部に穿孔が施される。８は器台である。９は小型の手捏土器で鉢を模したものか。10～14は４号住居跡から出土した。10・11は如意状の口縁を呈し、11は頚部下面に沈線文が巡る。12・13は口縁端部が三角形状を呈し、13は頚部に沈線が巡る。14は小型の鉢である。15・16は３・４号住居跡一括として取上げられている。15は甕で、口縁部はく



第16図　D・E6Ⅰ01グリッド遺構出土遺物実測図（1/4）



第17図　D・E6Ⅰ01グリッド出土遺物実測図①（1/4）

の字状に立ち上がり、胴部は卵形を呈する。外面にはタタキが残る。16は甕で口縁部は断面三角形状を呈し、外面はミガキが施される。17～22は５号住居跡から出土した。17は甕の口縁部で断面くの字状を呈する。18は脚付甕のミニチュアか。19は脚付きの鉢で、口縁部が小さく外反する。20は素口縁の鉢である。21は小型の壷である。ミニチュア土器か。22は支脚である。23は１号竪穴から出土した小型の鉢で、小さな底部が作出される。24～26は３号竪穴から出土した。24は壷で、口縁端部に刻目が巡り、頚部に沈線が施される。外面はミガキ仕上げ。25は高坏で、口縁部が鰭先状を呈し、内外共に丹塗りである。26は高坏で鉢状の口縁部を呈する。27・28は３・４号竪穴から出土した。27は甕の口縁部、28は壷の底部か。外面に丹塗りが施される。29は５号竪穴から出土した大型の鉢で内面にはハケが残り、外面には工具痕が見られる。30は３号土坑から出土した小型の壷である。口縁部外面に断面三角形状の突帯が巡る。

第17・18図１～42はD・E6Ⅰ01グリッドから出土した一括遺物である。１～14は甕である。１～３は口縁部が断面逆Ｌ字状を呈し、４～７は口縁部が断面如意状を呈し、４は頚部に沈線文が２重に、５は１重に巡る。７は頚部に断面三角形状の突帯が巡る。８は小型の甕で口縁部がくの字状に外反し、９・10は断面逆Ｌ字形を呈し、13はくの字状に外反し、口縁端部が跳ね上がる。14は甕棺の口縁部か。くの字に外反する。15～19は壷である。15は口縁部が外反し、端部に刻み目が施される。16は頚部に断面三角形状の突帯が巡り、端部に刻みが施される。17は広口壷か。18は二重口縁壷である。擬口縁が反り立つ。19は胴部に２重の突帯が巡る。20～33は甕の底部か。20は厚手で端部が外に開くしまった底部で、21～24は厚手の平底を呈する。25～28は平底である。29～31はやや外に開く器形で壷の可能性がある。29はやや上げ底気味の平底で、30は内外共にハケが残る。31は甕の平底か。33は脚付甕の底部である。34は小型の椀状の鉢である。35～37は鉢である。35はボウル状の器形を呈し、36はやや直線気味の口縁を呈し、内外共に丹塗りが施される。37は小型の鉢である。38は単孔の甑形土器である。39は支脚、40は高坏である。41・42はミニチュア土器である。41は脚付甕のミニチュアで手づくね。42は甕のミニチュアである。

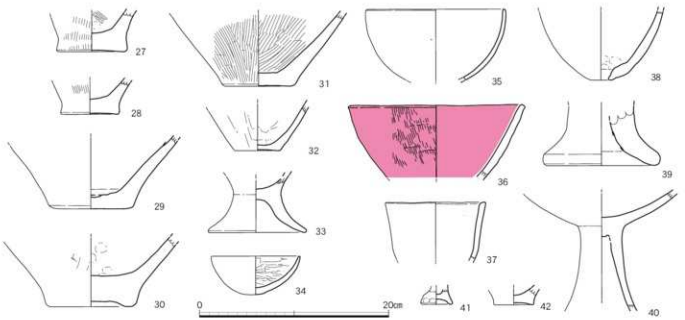
１号住居跡は高三瓜式、３号住居跡も高三瓜式に６などの下大隈式が混じる。３・４住居跡を一括して取上げている遺物では城ノ越式と終末期が混在しており、３号が円形住居であるならば城ノ越に相当か。４号住居跡では殆どが板付Ⅱ式新段階～城ノ越式期に該当し、14は後期代と思われる。４号が方形プランであれば概ね後期代と考えられよう。５号住居跡は下大隈式頃に相当しよう。１号竪穴も同様で下大隈式か。３号竪穴は24の城ノ越式が混じるが須玖Ⅱ式頃、５号竪穴は後期後半頃だろうか。３号土坑は須玖Ⅱ式頃に相当するものか。そのほかグリッド一括遺物はこれらの遺構とほぼ同時期の板付Ⅱ式～城ノ越式期、須玖Ⅱ式頃、高三瓜式、下大隈式などが混在している。

D6Ⅰ02グリッド

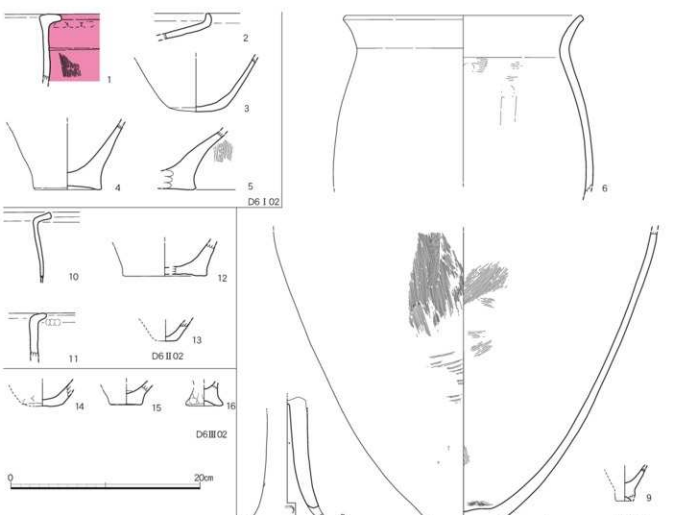
２×２ｍのグリッドで、遺構は確認されていないものの遺物の出土は見られた。

出土遺物（第19図）

１～５が出土した。１は甕で口縁部が逆Ｌ字形を呈し、頚部下部に沈線文が巡る。２は高坏である。瀬戸内系で端部が小さく屈曲する。３～５は底部で、３は底部がレンズ状を呈し、４は平底、５は壷の底部か。１・４・５は須玖Ⅰ式、２・３は下大隈式に相当か。



第18図　D・E6 Ⅰ 01グリッド出土遺物実測図②（1/4）



第19図　D6グリッド出土遺物実測図（1/4）

D6 Ⅰ 00グリッド

2×2mのグリッドであるが、遺構・遺物共に確認されない。

D6 Ⅱ 01グリッド

2×2mのグリッドで、遺構は確認されていないものの遺物の出土は見られた。

出土遺物（第19図）

6～9が出土した。6は甕で、口縁部が立ち上がり、胴部は卵形を呈する。7は甕の底部で底部はレンズ状を呈する。8は高坏の脚部で穿孔が施される。9はミニチュア土器の甕である。概ね下大隈式に相当するものか。

D6 Ⅱ 02グリッド

2×2mのグリッドで、遺構は確認されていないものの遺物の出土は見られた。

出土遺物（第19図）

10～13が出土した。10は口縁端部を跳ね上げ、11は逆L字形を呈する。12は平底の甕で、13はミニチュア土器の甕である。須玖Ⅰ～Ⅱ式頃に相当する。

D6 Ⅲ 01グリッド（第20図）

西に拡張した2×4mのグリッド①と、その東側に設定した2×6mのグリッド②及び北側に設定した1×3.5mのグリッド③で構成される。東西方向に延びる2条の溝が検出されている。

2号溝

グリッド①及び③で検出されるものの、大半が未掘である。概報によれば、「幅2.4、深さ0.8mの断面U字状を呈する」と報告されるものの、グリッド①に設定されたトレンチによれば、幅約3.1m、深さは約30cmを測り、断面形は浅い台形状を呈している。詳細が不明なため溝と断定はできないが、ここでは概報に従い溝として報告する。

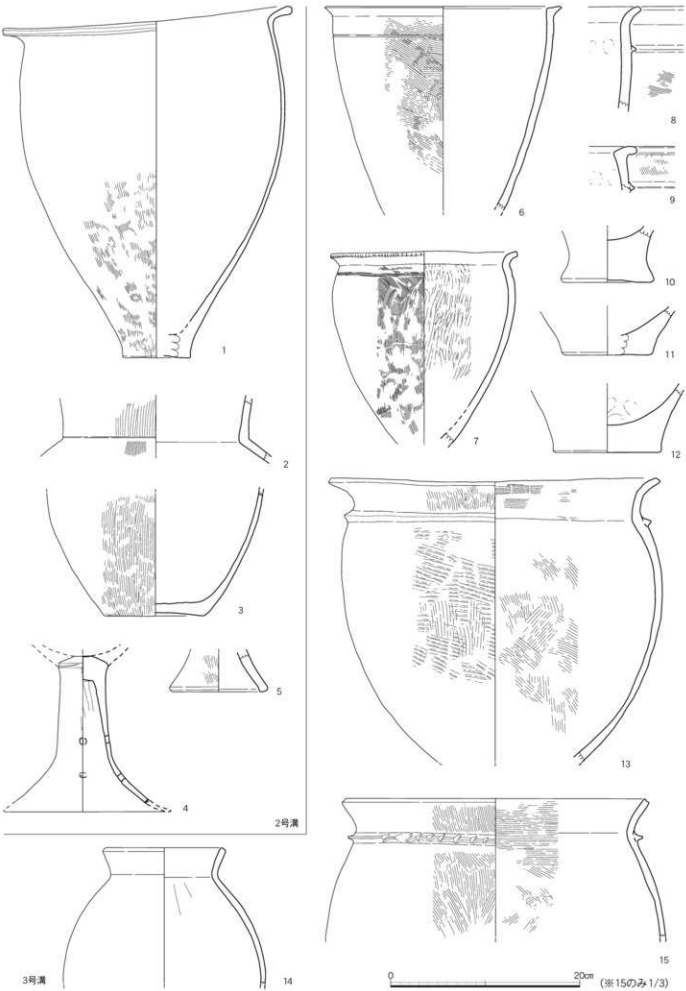
3号溝

グリッド①及び②で検出される東西方向の溝で、グリッド②西側で南北方向へとカーブするとされるが詳細は不明である。検出面での規模は幅1.2m＋α、深さ約0.6mを測り、断面逆台形状を呈する。概報によれば「埋土前面に焼土が詰まり、上層からは終末期の甕、下層からは前期後半の土器が出土した」とされる。断面図によれば5・7層と6層とで不連続面があり、2時期の遺構が切りあっていた可能性が考えられる。

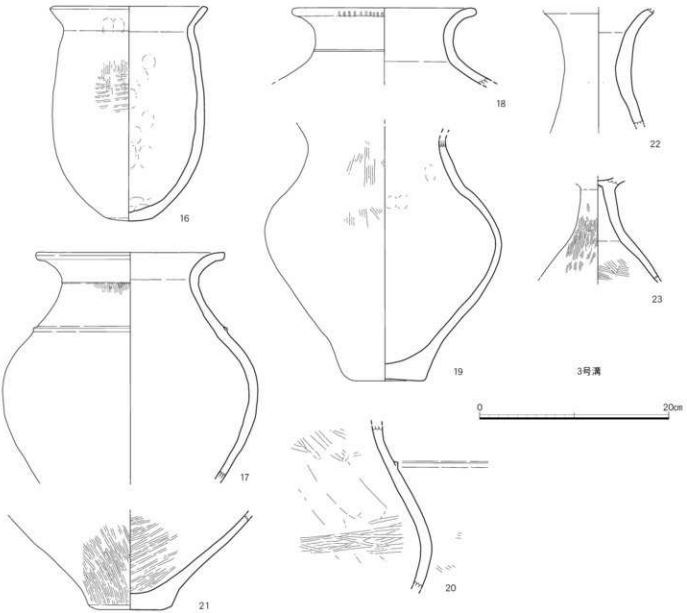
出土遺物（第21・22図）

1～5が2号溝から出土した。1は甕で口縁部は逆L字形を呈する。2は壺である。3は甕の底部か。平底を呈する。4は高坏である。穿孔が2段施される。5は支脚の脚か。6～23は3号溝から出土した。6～16は甕で、6～12は前期後半頃で13～16は後期終末頃の所産か。6は口縁端部が断面三角形状を呈し、頸部下部に沈線文が巡る。7・8は如意状口縁を呈し、7は口縁部に刻目が施され、頸部下部に沈線文が巡る。外面にハケ、内面はミガキが施される。8は如意状口縁の頸部下部に断面三角形状の突帯が巡る。9は口縁部断面が逆L字形を呈し、頸部下部に断面三角形

第20図　D6 Ⅲ 01グリッド実測図（1/40）



第21図　D6 Ⅲ 01グリッド出土遺物実測図①（1/4）



第22図　D6 Ⅲ 01グリッド出土遺物実測図②（1/4）

状を呈する。10～12は甕の底部である。10は厚底で、11・12は平底である。13は口縁部が緩やかに外反し、頸部下部に断面三角形状の突帯が巡る。外面はタタキが残る。14は断面くの字状を呈する甕である。15は大型の甕で、頸部に断面三角形状の突帯が巡り、刻目が施される。16は甕で、口縁部は上方に立ち上がり、底部は丸底気味を呈する。外面にタタキが残る。17～21は壺である。17は壺で頸部下部に沈線が巡り、肩部に断面三角形状の突帯が巡る。18は口縁端部に刻目が施され、19は壺で胴部が算盤状に張り出す。20はやや大型の壺で頸部に三角形状の突帯が巡る。内面はミガキ仕上げ。21は壺の底部で内外共にミガキが施される。22は器台である。23は高坏の脚部である。内外共にハケが残る。

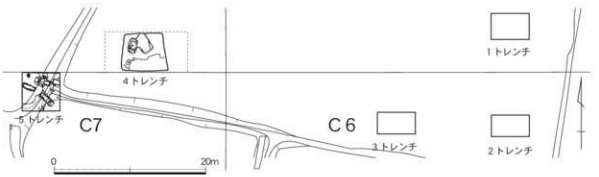
２号溝の出土遺物はほぼ須玖Ⅱ式に相当か。３号溝は6～12・18～21が板付Ⅱ式の新段階～城ノ越式期、13～16、22・23は下大隈式～終末期に相当するものか。３号溝は概報時の報告どおり、概ね前期後半前後頃と後期末頃の２時期の遺物が混在しており、複数の遺構が重複している可能性がある。

D6 Ⅲ 02グリッド

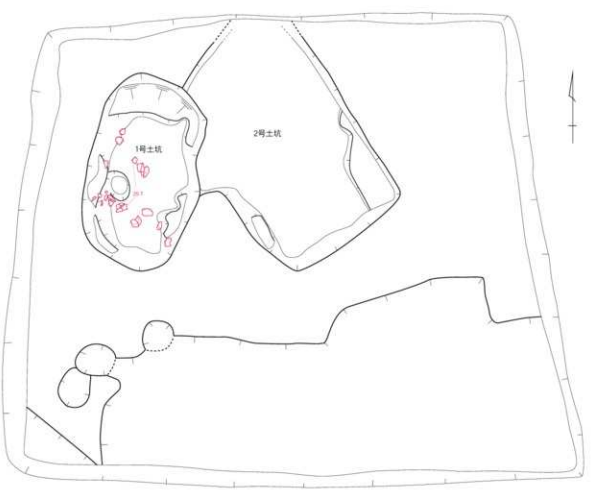
2×2mのグリッドで、遺構は確認されていないものの遺物の出土は見られた。

出土遺物（第19図）

14～16が出土した。いずれもミニチュア土器で、14・15は甕の底部で、16は脚付の甕である。後期に該当するものであろうか。



第23図　Ⅱ区トレンチ配置図（1/500）



第24図　Ⅱ区4トレンチ実測図（1/40）

（2） Ⅱ区の調査（第23図）

第Ⅱ区は、第Ⅰ区の南側のＣ６・７方眼ブロック周辺に、埋葬遺構を検出するため、５×３mのトレンチ３箇所（１～３トレンチ）、５×10mのトレンチ１箇所（４トレンチ）、５×５mのトレンチ１箇所（５トレンチ）を設定した。以下トレンチごとに解説する。

１トレンチ

５×３mのトレンチである。遺構の存在は認められなかったが、土器の出土は見られた。

出土遺物（第25図）

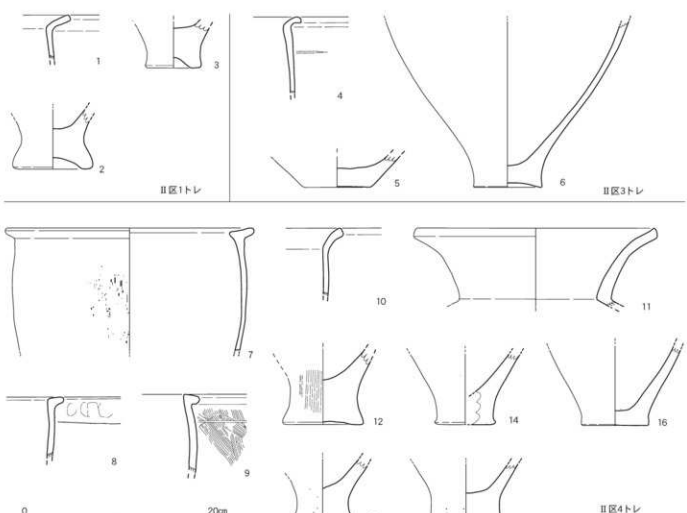
１～３が出土した。１はくの字状口縁を呈する甕で、２・３は上底の甕の底部である。概ね城ノ越式期から須玖Ⅰ式に相当する。

２トレンチ

５×３mのトレンチである。遺構・遺物の存在は認められなかった。

３トレンチ

５×３mのトレンチである。遺構の存在は認められなかったが、土器の出土は見られた。



第25図　Ⅱ区トレンチ出土遺物実測図（1/4）

出土遺物（第25図）

4～6が出土した。4は如意形を呈する甕の口縁部で頸部下半に沈線文が巡る。5は壷の底部か。平底を呈する。6は甕の底部である。上げ底を呈する。須玖Ⅰ式頃に相当か。

4トレンチ（第24図）

5×10mのトレンチと概報時には記述されるが、6×5mのトレンチである。不定形の大型土坑1基と2基の小型土坑が検出された。不定形土坑は未掘のため、詳細不明である。2基の小型土坑のうち、1号土坑は楕円形の土坑で長軸約2×1.2mを測る。

出土遺物（第25図）

7～16は甕である。7は逆L字型を呈し、頸部下部に沈線が巡る。内面にやや突出して、上方に小さく屈曲する特徴を有するなど、黒髪式的特徴を持つ。8は逆Lで頸部下部に沈線文が巡る。9は逆L字を呈し、頸部下部に沈線文が巡る。10は如意状口縁を呈し、11は広口壷の口縁部である。12～16は甕の底部で、12は厚底で端部が小さく開き、13は上げ底で端部が外に開く。14・15は厚底気味で、16は平底である。いずれも外面にハケが残る。城ノ越式に相当するものが殆どである。

5トレンチ（第26図）

5×5mのトレンチで、中央部を農道により掘削を受けている。主に埋葬遺構が検出されており、石棺墓5基、小児棺墓3基が検出された。農道の掘削により、2～4号石棺墓の蓋石が除去されていた。5号石棺墓は蓋石のみが検出されている状態で、調査区外に延びている。殆どが現状での検出に留めており、1号石棺墓のみ床面まで掘り下げている。以下、調査時の図面に基づいて解説する。

1号石棺墓（第27図）

蓋石はすでに除去されており、床面での規模長軸1.5m、短軸幅0.4m、深さ25cmを測る。北西頭位と考えられるが、掘り方の規模など詳細は不明である。人骨・副葬遺物の存在は確認されていない。

2号石棺墓

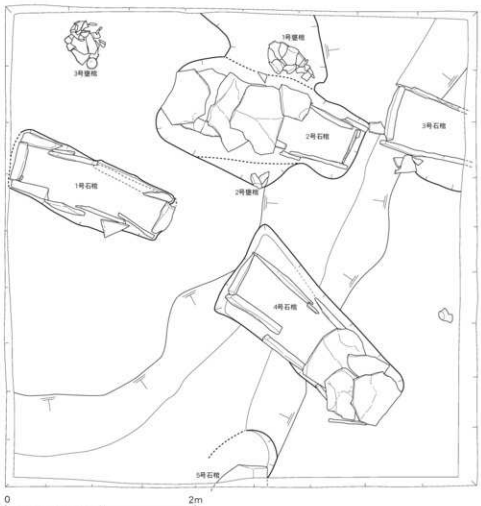
蓋石が南西側に残されたままである。蓋石を除去していないため正確な規模は不明であるが、長軸1.7～8m、短軸0.4m程度か。比較的大きな石が北西側に残され、鎧重ねの状況などから、北西側頭位か。

3号石棺墓

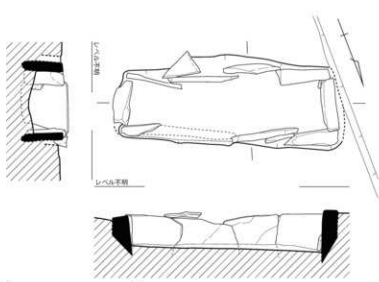
半分以上が調査区外に延びており、蓋石も除去されている。短軸は約50cmを測り、長軸は75cmが検出されている。北西側に幅が広く、北西側頭位か。

4号石棺墓

北西側を里道により削平されているため、蓋石が外されている。蓋石を除去していないため正確な規模は不明であるが、長軸1.7～8m、短軸は0.4cm程度か。鎧重ねの状況から、北西側頭位か。



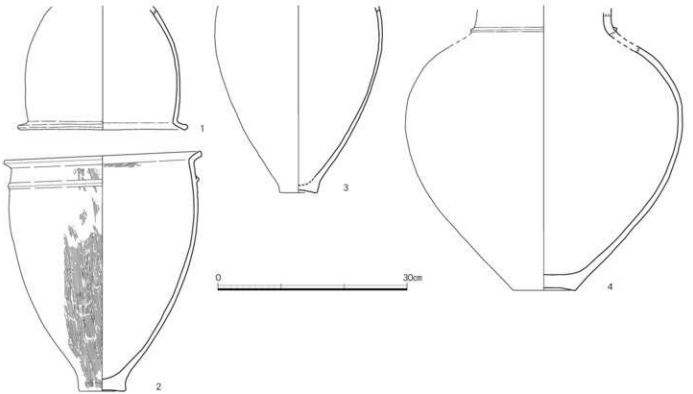
第26図　Ⅱ区５トレンチ実測図（1/40）



第27図　１号石棺墓実測図（1/30）

５号石棺墓

蓋石のみの検出であり、掘り方の一部も見られる。ほかの石棺墓群と異なり、南北軸の墓と想定される。



第28図　Ⅱ区５トレンチ１～３号甕棺実測図（1/6）

１号甕棺墓（第28図）

２号石棺墓に切られており、上甕の一部が石棺墓で壊されている。掘り方等も不明であるが、北西方向に軸を有すると思われる。１は上甕で断面逆Ｌ字形を呈する。２は下甕で断面逆Ｌ字形を呈しており、頚部下部に断面三角形の突帯が巡る。外面にはハケが残る。

２号甕棺墓（第28図）

２号石棺墓に切られており、胴部から底部のみが残存していた。詳細は不明であるが、南北方向に軸を有すると思われる。３が甕棺墓で、底部はやや上げ底気味の平底でかなり小型である。

３号甕棺墓（第28図）

上面を削平されており、壺のみが残存する壺棺である。頚部に断面三角形の突帯を有しており、底部はやや上げ底気味を呈している。

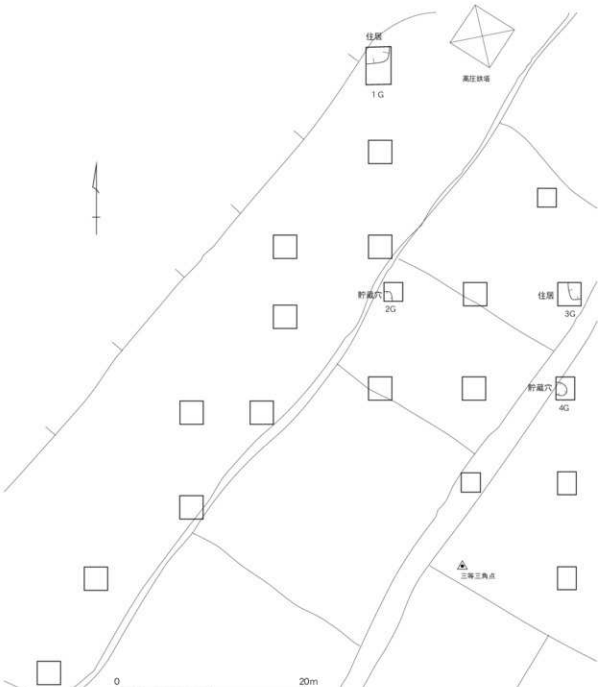
１～３号甕棺墓は概ね須玖Ⅰ式の新段階に収まるものか。

（３）　Ⅲ区の調査（第29図）

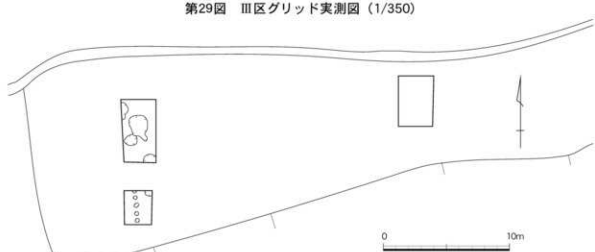
甕棺墓出土の伝承のある畑地一帯に、三等三角点を中心にした10m方眼毎に２×２mのグリッドを設定した。全部で20グリッドを掘り下げたものの、１・３グリッドからは住居跡、２・４グリッドからは貯蔵穴が検出されている。そのほかのグリッドからは遺構は検出されず、遺物はいずれのグリッドからも検出されなかった。概報では住居跡１軒・貯蔵穴４基とされるが、本報告を持って住居跡２軒、貯蔵穴２基に訂正する。

（４）　Ⅳ区の調査（第30図）

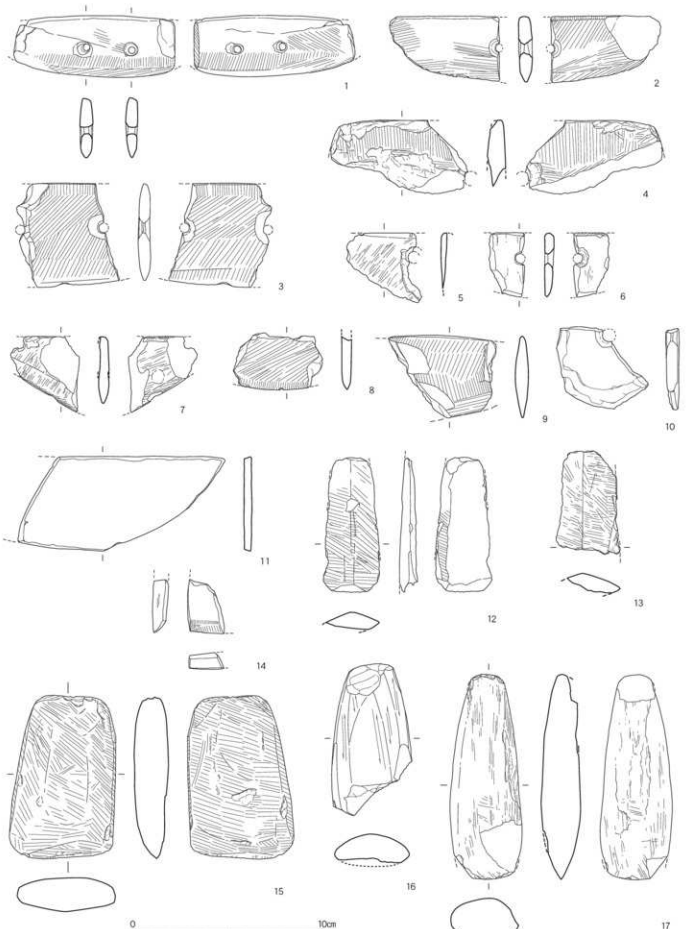
台地中央南端に３本のトレンチを設定した。西側のトレンチは５×２m、３×２mを測る。検出



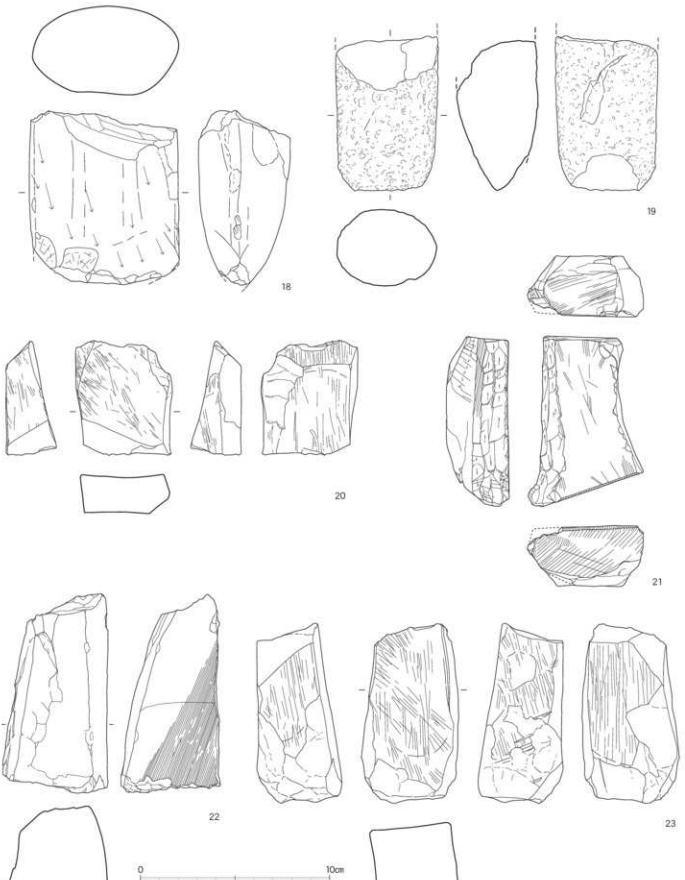
第29図　Ⅲ区グリッド実測図（1/350）



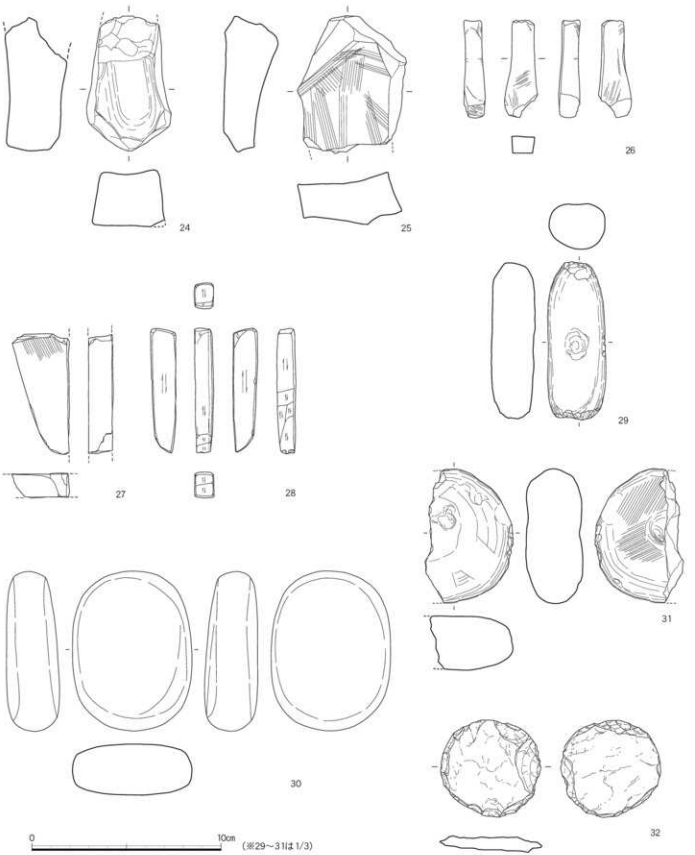
第30図　Ⅳ区グリッド実測図（1/300）



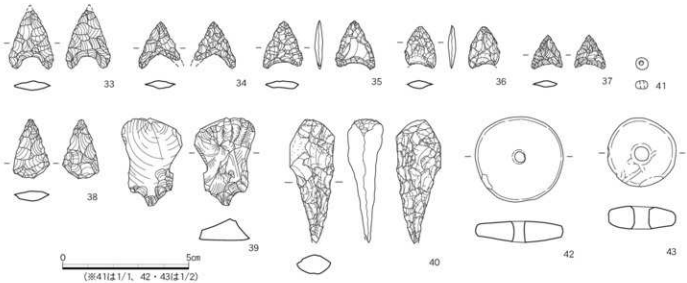
第31図　出土石器実測図①（1/2）



第32図　出土石器実測図②（1/2）



第33図　出土石器実測図③（1/2）



第34図　出土石器・玉類・土製品実測図④（2/3）

ラインは認められたが、概報では遺構は未検出とされる。東側のトレンチは4×2mを測る。遺物の出土は見られなかった。

写真8　表採石鏃

（5）　そのほかの出土遺物（第31～34図）

1次調査で出土した石器を一括して解説する。なお、出土遺構の殆どはⅠ区で検出されており、一部Ⅱ区2トレンチなどが見られ、その他は表採遺物である。なかでもDE6区から出土した遺物が多く、石庖丁や石斧・砥石などのほかに、石剣やガラス小玉なども見られる。出土遺構については観察表を参照いただきたい。また、表採石器の多くは2次と混在している可能性が高いが、ここでは、1次調査分と区分されるものに関して報告する。

1～10は石庖丁である。1を除きその多くは破片である。石材の多くは輝緑凝灰岩製であるが、6と10のみ結晶片岩製である。11は扁平な石材であり、石庖丁の未製品であろうか。12・13は石剣である。いずれも大きく破損している。14は扁平片刃石斧の破片である。15は扁平片刃状の石斧で、16・17は蛤刃石斧である。18・19は太型蛤刃石斧である。20～28は砥石である。20～25は大型のものである。21は細部に細かな擦り面が調整されており、荒砥と細部調整の両方に使用されていたものと思われる。26～28は小型の砥石で、細部調整に使用されたものか。29は敲き石で両端に敲打痕が残り、中央部には窪みが見られる。あるいは窪み石として利用されたものか。30は磨石か。31は磨石である。磨り痕も認められるが、中央部に窪みも見られ、窪み石としても利用されたものか。32は円盤状石器である。33～38は石鏃である。全体に小型である。33・34は凹基無茎鏃である。35～37は平基無茎鏃に近い形状で凹みの薄いものか。38は円基鏃である。39は2次加工石器である。上端を細く作出した痕跡が見られ、あるいは石錐として利用したものか。40は石錐である。41はガラス小玉である。青色のガラスである。42・43は土製紡錘車である。そのほか、多くの剥片石器が表面採取されている。なかでも、未実測ではあるが、写真8はその一部で、いずれも石鏃である。

第３節　小結

１次調査区は農業基盤整備の事前調査という側面上、１・２次調査を併せて台地全体が調査対象となっている。そのため、調査面積も11次の調査次中で最大の1,055㎡(1次調査517㎡)を測るなど、吹上遺跡の全体像を把握するうえで欠かすことの出来ない調査と言える。しかし、概要調査の報告を調査後に刊行して以来、諸般の事情から長らく本報告が出来なかったため、主要調査部分の詳細を知ることが出来ない状態であった。今回、これまでの整理・保管によって遺物や図面・写真などの一部が所在不明となっているものの、残された資料をもとに可能な限り事実報告を行った。以下１次調査の概要についてまとめる。

Ⅰ～Ⅳ区で検出された遺構総数は詳細不明であるものの、調査次の遺構名に従うならば竪穴住居跡18軒、溝４条、貯蔵穴４基、土坑14基、石棺墓５基、小児用甕棺墓３基である。

Ⅰ区は台地中央部の畑地部分で20箇所のグリッドの殆どに遺構が検出されており、相当の遺構が密集している箇所と想定される。遺構時期の詳細については、各出土土器の報告の際に述べており、これをもとに各グリッド毎にまとめる。

E5Ⅰグリッドでは板付Ⅱ式頃の遺物が混じるものの、１号住居跡が下大隈式期、３号住居跡が高三瀦式頃と後期前半から中頃にかけての遺構が見られる。E5Ⅱグリッドでは２号住居跡が高三瀦式期頃で後期前半だが、土坑や混入遺物は城ノ越式期に相当する。E6Ⅲグリッドは袋状貯蔵穴が城ノ越式で中期初頭頃に該当し、ほかにも溝とされる遺構が検出されているが、未掘のため詳細不明である。ただし、この溝は貯蔵穴を切っているとの調査所見があることから、時期もやや新しい可能性がある。E6Ⅳグリッドでは３軒の住居跡と貯蔵穴などが検出されているが、時期の判明する５号住居跡は須玖Ⅰ式期に該当し、そのほかの遺構も一括出土遺物から、中期後半から後期前半、終末期に該当するものであろうか。E6Ⅴグリッドでは住居跡が３軒以上検出され、９号住居跡が須玖Ⅱ式の中期後半、10号住居跡が後期後半から終末と想定される。D・E6Ⅰ01グリッドは足の踏み場もないほどの遺構が切りあっている。図面がないため詳細は不明であるが、竪穴住居跡と報告されるもののうち、１・２・５号住居跡は方形、３・６号住居跡は円形プランを呈している。１・５号住居跡から出土した遺物の多くは高三瀦式から下大隈式期の特徴を有するなど、後期前半から中頃に相当し、方形プランとも合致する。３号住居跡は高三瀦式期の遺物が多く混入しているものの、第15図８には円形プランの時期に相当する須玖式期の器台が見られることから、Ⅰ式新段階ないしⅡ式古段階の中期中頃から後半と想定しておきたい。出土遺物が不明な６号住居跡は、５～６m前後とやや規模が小さい。グリッド一括出土とされる遺物には板付Ⅱ式から城ノ越式期の遺物が出土しており、この時期の遺構の可能性が想定されよう。そのほかの遺構群も須玖Ⅱ式期などが見られ、概ね前期後半から中期初頭、中期後半、後期前半から中頃の時期の遺構が混在しているものと考えられる。D6Ⅲグリッドでは２条の溝が検出されており、２号溝が須玖Ⅱ式の中期後半、３号溝は板付Ⅱ式から城ノ越式期の前期後半頃、下大隈式～終末期の後期後半頃の２時期が重複していたものと思われる。

以上各グリッドの遺構の時期を概観してきたが、概ね前期後半頃～終末期までの各時期の遺構が万遍なく所在していることが分かる。これは、近接する２次調査D・E区や９～10次調査区などにおいて、前期後半頃～終末期の遺構が万遍なく検出され、貯蔵穴や住居跡など遺構の構成においても大きく異なることがない。これらのことから、台地中央部に広範囲に集落が営まれていたものと

想定される。また、この調査区の特徴は、他の調査区であまり見られない溝の存在である。3条の溝のいずれも深さが浅く、溝と明確に判断するのは難しいものの、もしそうであるならば、1号溝については11次調査区1号溝、4号溝のように台地裾を東西に巡る溝と関連する可能性も考慮する必要があろう。2・3号溝は前期後半、中期後半と後期後半から終末期と時期は異なるものの同じく東西に並ぶ。なかでも、3号溝は南へと曲がるなどやや様相が異なり、深さが60㎝で、断面逆台形を呈していることからも溝の可能性が高いと判断される。10・11次調査区では3号溝とほぼ同時期に台地を分断する南北の条溝が発見されており、何らかの関係を想起させる。

Ⅱ区はⅠ区ほどの遺構密度は見られないものの、4トレンチでは土坑が検出される。出土遺物も前期後半から中期前半に集中していることから、この時期の遺構群が周辺に所在すると想定される。この調査区では5トレンチで墳墓群が検出されている。石棺墓5基と小児用甕棺墓3基である。石棺墓の多くは未掘であるが、概ね1.5～1.8m前後の棺長が想定される。それぞれ主軸を東西方向にそろえており、縦列状埋葬の様相を呈するものであろうか。そのほか3基の小児用甕棺墓は須玖Ⅰ式新段階の中期中頃に該当する。1・2号甕棺墓が石棺墓に切られることから、甕棺墓は石棺墓群に伴うものとは考えにくく、また、周辺に古墳期の遺構も見られないことから、石棺墓は中期後半から後期代と想定する。同じく石棺墓群が検出される近接する4次調査1トレンチの石棺墓も規模や構造は類似しており、ほぼ同時期と考えられよう。また、同じく近接する9次調査区B地点の5号墓は甕棺石棺併用墓であり、中期末から後期初頭頃が想定される。両地区とⅡ区はやや距離が離れているものの、中期末から後期代にかけて、この一帯に集塊状になりながらもベルト状に列をなす墓域が形成されていたと考えておきたい。

Ⅲ・Ⅳ区は遺構の密度が低く、未掘であるため詳細不明なものが多いが、Ⅲ区で住居跡と貯蔵穴が検出されている点は注目される。この周辺では3・5・7・8・9次A地点などの調査で、前期後半を中心とする貯蔵穴や住居跡が無数に検出されており、前期後半を中心とする遺構が密集していたものと想定される。Ⅲ区からは遺物の出土は見られなかったが、これらと一連の遺構群と想定しておきたい。

さて、以上のように1次調査の結果を見てきたが、大きくⅠ区の前期後半から終末期の集落域とⅢ区の前期後半の集落域、Ⅱ区の墳墓域に分けられる。それぞれこれまでの調整成果とほぼ合致する内容であったと考えられるが、なかでもⅠ区において、弥生時代を通じてほぼ全時期の遺構が検出されている点は注目される。これまでの調査成果では、後期前半の遺構の存在は不明確であったが、今回Ⅰ区において多くの遺構が見られた。日田盆地内では前期後半から終末期まで断絶されることなく集落が継続する遺跡は、吹上遺跡と後迫遺跡ぐらいに限定される。中期になって佐寺原遺跡などが継続的に営まれるようになるが、いずれにしても弥生前期から終末期まで継続的に営まれる規模の大きな遺跡は吹上遺跡などに限られる。このことは、吹上遺跡が日田盆地内でも相当の拠点的集落であったことを物語っており、今回の調査報告はそのことを再確認する結果を提供していると言えよう。

※参考文献は第13章第3節小結の参考文献（P105）と同一のものであるため、割愛する。

第１表　出土土器観察表①

図	番号	調査区	グリッド名	遺構名	種別	器種	法量（cm）			調整		胎土	焼成	色調				掲載図版	備考
							口径	器高	底径	内面	外面			内面		外面			
7	1	Ⅰ区	E5Ⅰ00G	1住	弥生	鉢	22.4	16.2	6.8	ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ	AE	良	灰黄褐色		灰黄褐色			
7	2	Ⅰ区	E5Ⅰ00G	1住	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BC	良	にぶい褐	7.5YR6/3	にぶい褐	7.5YR6/3		
7	3	Ⅰ区	E5Ⅰ00G	1住	弥生	鉢				ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	CD	良	灰黄褐	10YR6/2	灰黄褐	10YR6/2		
7	4	Ⅰ区	E5Ⅰ00G	1土	弥生	甕			(8.0)	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CA	良	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3		
7	5	Ⅰ区	E5Ⅰ1G	一括	弥生	甕	(25.5)	(17.2)		摩耗不明	摩耗不明	ACD	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
7	6	Ⅰ区	E5Ⅰ1G	一括	弥生	甕	(23.2)	(9.7)		摩耗不明	摩耗不明,ﾅﾃﾞ,合成復元	ACEH	良	にぶい黄褐	10YR5/3	灰黄褐	10YR4/2		
7	7	Ⅰ区	E6Ⅱ01G	一括	弥生	甕			8.0	ﾅﾃﾞ	不明	BCA	良	にぶい橙	5YR6/3	にぶい橙	5YR6/3		
7	8	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BC	良	にぶい橙	7.5YR7/4	にぶい橙	7.5YR7/4		
7	9	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	壺		(16.2)		指頭圧痕,ﾅﾃﾞ	摩耗不明	ACH	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		黒斑
9	1	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	甕	30.0	(26.9)		摩滅	摩滅	BH	良	浅黄橙色	10.0YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/4	8図2	
9	2	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	甕	(30.8)	(7.3)		表面剥落	表面剥落	AC	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
9	3	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	甕	(26.2)	(2.4)		不明	ﾖｺﾅﾃﾞ,不明	BAG	良	浅黄橙色		淡黄橙色			
9	4	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	甕	17	18.6	6.6	ﾅﾃﾞ	ﾊｹのち丹塗り,指頭圧痕	H	不良	淡白色		淡白色		8図3	遺物紛失
9	5	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	小型甕	14.1	15.1	5.8	摩滅	摩滅	H	良	にぶい黄橙色	10.0YR7/4	にぶい黄橙色	10.0YR5/3	8図6	
9	6	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	小形甕	(11.6)	(8.7)		表面剥落多し,ﾅﾃﾞ?	表面剥落多し,ﾅﾃﾞ?	A	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
9	7	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	壺	(19.2)	(7.5)		摩滅	摩滅	CB	良	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3		
9	8	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	壺	(18.2)	(7.4)		ﾅﾃﾞ?	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	AC E	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
9	9	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	壺	23.0	(11.8)		ﾊｹ,摩滅	ﾊｹ,摩滅	C	良	にぶい黄橙色	10.0YR7/4	浅黄橙色	7.5YR8/4	8図7	
9	10	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	壺		(8.7)			ミガキ?,調整不明	H	良	褐灰色		淡黄橙色			
9	11	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	壺		(6.5)		指ｵｻｴ後ﾅﾃﾞ,接合痕	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ(不明瞭)	DGBA	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
9	12	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	壺		(21.0)	(6.6)	剥落	剥落	CB	良	にぶい黄橙色	10.0YR6/3	浅黄橙色	10.0YR8/3		黒斑
9	13	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	壺	(11.8)	23.8	7.2	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ,ﾊｹ後ﾖｺﾅﾃﾞ	AB	良	浅黄橙色		浅黄橙色		8図5	
10	14	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	底部		(7.7)	(7.4)	ﾅﾃﾞ?	摩耗の為調整不明	BH	良	灰白色		灰白色			黒斑
10	15	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	底部		(6.2)	9.1	摩耗の為調整不明	ﾅﾃﾞ?	AD	良	橙色		橙色			
10	16	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	底部		(5.1)	(8.1)		表面剥落	CA	良	淡橙色		橙色			
10	17	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	底部		(4.8)	(7.4)		調整不明	A	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
10	18	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	底部		(3.3)	6.6	ﾅﾃﾞ(剥落)	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ?(不明)	A	良	淡黄橙色		淡橙色			
10	19	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	底部		(4.6)	(8.4)		表面剥落	CAH	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
10	20	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	底部		(5.3)	6.6	表面剥落の為調整不明	表面剥落の為調整不明	E	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
10	21	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	甕			(6.4)	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3		
10	22	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	底部		(5.3)		指頭圧痕	調整不明	CH	良	淡黄橙色		橙色			
10	23	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	底部		(4.4)	6.0	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ後ﾅﾃﾞ,不明	H	良	灰黄褐色		浅黄橙色			黒斑
10	24	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	甕棺	30.0	(52.0)		ﾅﾃﾞ?不明瞭	指ｵｻｴ,ﾊｹ,黒斑	ABD		灰黄	2.5YR7/2	灰黄	2.5YR7/2		黒斑
10	25	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	器台	13.0	16.8	13.1	ﾅﾃﾞ,指頭圧痕,ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾊｹ,ﾖｺﾅﾃﾞ	C	良	浅黄橙色	10.0YR8/4	橙色	5.0YR7/6	8図4	
10	26	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	器台		(9.3)		工具ﾅﾃﾞ	調整不明	H	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
10	27	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	弥生	蓋	(22.4)	10.0		しぼり痕	不明	AC	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
10	28	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	3土	弥生	甕				不明	不明	CAD	良	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3		
10	29	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	4土	弥生	甕				不明	ﾊｹ	CAD	良	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙	10YR6/3		
13	1	Ⅰ区	E6Ⅲ00G	1野	弥生	鉢	(18.3)	(9.3)		ﾅﾃﾞ	指頭圧痕,ミガキ?,ﾊｹ後ﾅﾃﾞ	ACD	良	淡黄橙色		灰黄褐色		21図1	黒斑
13	2	Ⅰ区	E6Ⅲ00G	1野	弥生	甕		(14.5)		摩耗の為調整不明	摩耗の為調整不明	ACH	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		黒斑
13	3	Ⅰ区	E6Ⅲ00G	1野	弥生	甕		(4.0)		ﾅﾃﾞ,ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ?	B金GD	良	橙色		淡橙色			
13	4	Ⅰ区	E6Ⅲ00G	1野	弥生	甕		(8.0)		ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ後ﾅﾃﾞ	AC	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
13	5	Ⅰ区	E6Ⅲ00G	1野	弥生	甕		(3.5)		指頭圧痕,ﾅﾃﾞ,ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,指頭圧痕,ﾊｹ	AC	良	灰白色		浅黄橙色			
13	6	Ⅰ区	E6Ⅲ00G	1野	弥生	甕	(42.0)	(19.0)		摩耗の為調整不明	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ	ACBD	良	淡橙色		淡橙色			
13	7	Ⅰ区	E6Ⅲ00G	1野	弥生	壺	(24.6)	(19.1)		ﾅﾃﾞ,摩耗の為調整不明	ﾊｹ,ﾀﾃ方向のミガキ,ミガキ	ACD	良	淡褐色		淡褐色		21図2	
13	8	Ⅰ区	E6Ⅲ00G	1野	弥生	底部		(13.8)	6.8	ﾅﾃﾞ,工具痕,指頭圧痕	摩耗の為調整不明,ﾊｹ	BACGH	良	褐灰色		明赤褐色			
13	9	Ⅰ区	E6Ⅲ00G	1野	弥生	底部		(7.2)	6.9	ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ,摩耗の為不明	ABDH	良	褐灰色		明赤褐色			
13	10	Ⅰ区	E6Ⅲ00G	1野	弥生	底部		(4.8)	7.2	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ADH	良	灰黄褐色		淡黄橙色			
13	11	Ⅰ区	E6Ⅲ00G	1野	弥生	底部		(6.6)	(11.6)	剥落	ﾊｹ,表面剥落	B	良	褐灰色		淡黄橙色			黒斑
13	12	Ⅰ区	E6Ⅲ00G	1野	弥生	鉢	(24.8)	(5.7)		ミガキ,ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ後ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ	ACE	良	淡黄橙色		灰黄褐色			
13	13	Ⅰ区	E6Ⅲ00G	住居	弥生	支脚		11.0	11.2	シボリ,ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	摩滅	CB	良	橙色	7.5YR7/6	橙色	7.5YR7/6		
13	14	Ⅰ区	E6Ⅲ00G	住居	弥生	支脚	5.1	12.4	8.0	シボリ	摩滅	ACDE	良	浅黄橙色	7.5YR8/6	橙色	7.5YR6/6		

※法量の単位はcm。（）は残存と復元値を示す。網掛けの遺物は所在不明の遺物。
胎土：A角閃石　B石英　C長石　D赤色粒子　E白色粒子　F黒色粒子　G雲母　F砂粒子　H灰色粒子

第2表　出土土器観察表②

図	番号	調査区	グリッド名	遺構名	種別	器種	法量（cm）			調整		胎土	焼成	色調				櫛描回数	備考
							口径	器高	底径	内面	外面			内面		外面			
14	1	Ⅰ区	E6ⅣG	5住	弥生	甕	28.5	26.4	9.4	摩滅	摩滅	CA	良	橙色	5.0YR6/6	橙色	5.0YR6/6	22回	
14	2	Ⅰ区	E6ⅣG	5住	弥生	甕	(29.2)	(6.7)		表面剥落	表面剥落,欠損	BAH	良	赤橙色		橙色			
14	3	Ⅰ区	E6ⅣG	5住	弥生	壺		(5.4)		ﾖｺﾅﾃﾞ,指押圧後ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	CA	良	灰黄褐色		灰黄褐色			
14	4	Ⅰ区	E6ⅣG	5住	弥生	底部		(3.8)	7.0		調整不明	CH	良	褐色		橙色			
14	5	Ⅰ区	E6ⅣG	5住	弥生	底部		(5.7)	7.6	剥落の為調整不明	剥落の為調整不明	ACE	良	淡褐色		橙色			
14	6	Ⅰ区	E6ⅣG	6住	弥生	壺			11.4	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CAD	良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4		
14	7	Ⅰ区	E6ⅣG	土坑	弥生	甕	32.2	(33.9)		ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ,摩耗不明	ACE	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄褐	10YR5/3		
14	8	Ⅰ区	E6ⅣG	土坑	弥生	甕	(36.3)	(19.9)	11.8	工具ﾅﾃﾞ	突帯・ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ	BCH	良	にぶい橙色	7.5YR6/4	にぶい橙色	7.5YR6/4		
14	9	Ⅰ区	E6ⅣG	土坑	弥生	底部		(6.2)	(7.6)	表面剥落	ﾊｹ,表面剥落	AC	良	淡黄橙色		淡橙色			
14	10	Ⅰ区	E6ⅣG	一括	弥生	甕	(1.4)			ﾅﾃﾞ	不明	BD	良	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3		
14	11	Ⅰ区	E6ⅣG	一括	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CA	良	灰黄褐	10YR6/2	灰黄褐	10YR6/2		
14	12	Ⅰ区	E6ⅣG	一括	弥生	壺	(1.3)			ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
14	13	Ⅰ区	E6ⅣG	一括	弥生	壺	(2.2)			ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい橙	7.5YR7/3	にぶい橙	7.5YR7/3		
14	14	Ⅰ区	E6ⅣG	一括	弥生	壺	(23.2)			ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CADE	良	灰黄褐色	10YR6/2	にぶい橙	7.5YR7/3		黒斑
14	15	Ⅰ区	E6ⅣG	一括	弥生	底部		(8.5)	7.6	ﾅﾃﾞ	工具ﾅﾃﾞ,調整不明	H	良	淡黄橙色		淡黄橙色			黒斑
14	16	Ⅰ区	E6ⅣG	一括	弥生	甕			(7.6)	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BC	良	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3		
15	1	Ⅰ区	E6ⅤG	9住	弥生	甕			7.8	指押し,ﾅﾃﾞ	不明	ACE	良	灰褐色	5YR5/2	にぶい橙	2.5YR6/4		
15	2	Ⅰ区	E6ⅤG	9住	弥生	高坏	(28.4)	(6.0)		摩耗不明・赤彩	摩耗不明・赤彩	AC	良	赤褐	2.5YR4/6	赤褐	2.5YR4/6		内外赤彩
15	3	Ⅰ区	E6ⅤG	10住	弥生	甕	(18.6)	(16.1)		摩滅	摩滅	CBA	良	にぶい黄褐色	10.0YR5/4	にぶい橙色	7.5YR6/4		黒斑
15	4	Ⅰ区	E6ⅤG	10住	弥生	甕				不明	不明	BCA	良	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3		
15	5	Ⅰ区	E6ⅤG	10住	弥生	壺	(16.7)	(19.2)		摩滅	摩滅	CBA	良	橙色	5.0YR7/6	橙色	7.5YR7/6		
15	6	Ⅰ区	E6ⅤG	10住	弥生	甕（底部）		(17.3)	6.4	摩耗不明,接合痕	摩耗不明,黒斑	ACED	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		黒斑
15	7	Ⅰ区	E6ⅤG	10住	弥生	底部		(3.4)	11.0	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ,摩耗の為不明	ACED	良	黄橙色		黄橙色			
15	8	Ⅰ区	E6ⅤG	10住	弥生	鉢（椀）	11.0	6.0	3.05	表面剥落	タタキ？	CAH	良	淡黄橙色		淡黄橙色			黒斑
15	9	Ⅰ区	E6ⅤG	一括	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4		
15	10	Ⅰ区	E6ⅤG	住居	弥生	蓋	5.8	11.4	32.8	指頭圧,摩滅,ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ,指ﾅﾃﾞ	CBA	良	にぶい橙色	7.5YR6/4 7.5YR7/4	浅黄色	2.5YR8/3		
15	11	Ⅰ区	E6ⅤG	住居	弥生	高坏	(29.6)	(7.2)		調整不明瞭・赤彩	調整不明瞭・赤彩	AC	良	赤褐	2.5YR4/6	赤褐	2.5YR4/6		内外赤彩
16	1	Ⅰ区	D-E610G	1住	弥生	甕		(20.5)	10.0	ﾊｹ,指頭圧痕	ﾊｹ,上部・下部ﾅﾃﾞ	ABCH	良	にぶい黄橙色	10.0YR7/4	にぶい黄橙色	10.0YR7/4	13回	黒斑、丹塗り
16	2	Ⅰ区	D-E610G	1住	弥生	壺		(11.1)	(4.6)	摩滅	摩滅	CBA	良	浅黄橙色	10.0YR8/4	浅黄橙色	10.0YR8/3		
16	3	Ⅰ区	D-E610G	1住	弥生	鉢	(6.2)	4.3	(3.2)	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ残存,指頭圧痕,ﾅﾃﾞ	E	良	褐灰	7.5YR6/1	褐灰	7.5YR5/1		
16	4	Ⅰ区	D-E610G	1住	弥生	椀		(4.0)	1.8	調整不明	調整不明	ACD	良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4		
16	5	Ⅰ区	D-E610G	3住	弥生	壺		(12.1)		指頭圧痕,ﾅﾃﾞ	ミガキ(摩耗不明瞭)	AED	良	にぶい黄褐	10YR5/3	にぶい黄褐	10YR5/3		
16	6	Ⅰ区	D-E610G	3住	弥生	高坏				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4		
16	7	Ⅰ区	D-E610G	3住	弥生	甑				指頭圧痕	ﾅﾃﾞ	BC	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
16	8	Ⅰ区	D-E610G	3住	弥生	器台			(8.7)	ﾅﾃﾞ	不明	BCA	良	にぶい橙	7.5YR7/3	にぶい橙	7.5YR7/3		
16	9	Ⅰ区	D-E610G	3住	弥生	ミニチュア土器	(5.6)	(1.9)		指ﾅﾃﾞ	指ﾅﾃﾞ	C A	良	灰黄褐色		淡黄橙色			
16	10	Ⅰ区	D-E610G	4住	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
16	11	Ⅰ区	D-E610G	4住	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	BCA	良	にぶい黄褐	10YR5/3	にぶい黄褐	10YR5/3		
16	12	Ⅰ区	D-E610G	4住	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾊｹのみミガキ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4		
16	13	Ⅰ区	D-E610G	4住	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	BCD	良	にぶい褐	2.5YR5/3	にぶい褐	2.5YR5/3		
16	14	Ⅰ区	D-E610G	4住	弥生	ミニチュア鉢				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
16	15	Ⅰ区	D-E610G	4住	弥生	甕	19.2	(35.4)		指頭圧痕,ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,タタキ,ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ACED	良	にぶい橙	7.5YR7/4	にぶい橙	7.5YR7/4	13回	
16	16	Ⅰ区	D-E610G	4住	弥生	甕	(28.0)	(20.8)		ﾅﾃﾞ	ﾊｹ,ミガキ,ﾖｺﾅﾃﾞ	BCA	良	浅黄橙色	10.0YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/4	13回	黒斑
16	17	Ⅰ区	D-E610G	5住	弥生	甕				ﾊｹのちﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
16	18	Ⅰ区	D-E610G	5住	弥生	ミニチュア甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CA	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
16	19	Ⅰ区	D-E610G	5住	弥生	鉢	12.8	9.6		指押圧後ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ,工具ﾅﾃﾞ	C	良	黄灰色		淡黄橙色		13回	
16	20	Ⅰ区	D-E610G	5住	弥生	小鉢	12.3	6.8	3.4	ﾅﾃﾞ,摩耗不明	摩耗不明,ﾊｹ残存	ACEDH	良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4		黒斑
16	21	Ⅰ区	D-E610G	5住	弥生	ミニチュア		(6.3)	4.1	指頭圧痕,ﾅﾃﾞ	摩耗不明	ACE	良	褐灰	10YR5/1	にぶい黄橙	10YR7/3		
16	22	Ⅰ区	D-E610G	5住	弥生	支脚	(5)	7.0	(6.6)	ﾅﾃﾞ	指頭圧痕のちﾅﾃﾞ	BCA	良	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3		
16	23	Ⅰ区	D-E610G	1柱穴	弥生	鉢	(8.9)	6.7	2.9	ﾅﾃﾞ(工具痕)	指頭圧痕ﾅﾃﾞ	AC	良	灰黄褐	10YR4/2	灰黄褐	10YR4/2		

※法量の単位はcm、（）は残存と復元値を示す。網掛けの遺物は所在不明の遺物。
胎土：A角閃石　B石英　C長石　D赤色粒子　E白色粒子　F黒色粒子　G雲母　F砂粒子　H灰色粒子

第３表　出土土器観察表③

図	番号	調査区	グリッド名	遺構名	種別	器種	法量（cm）			調整		胎土	焼成	色調				掲載図版	備考
							口径	器高	底径	内面	外面			内面		外面			
16	24	I区	D-E610G	3竪穴	弥生	壺				ﾅﾃﾞ	ミガキ	BCA	良	にぶい橙	7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR6/4		
16	25	I区	D-E610G	3竪穴	弥生	高坏				丹塗り	丹塗り	BCA	良	にぶい赤褐	2.5YR5/4	にぶい赤褐	2.5YR5/4		
16	26	I区	D-E610G	3竪穴	弥生	高坏	(20)			不明	不明	BCA	良	にぶい赤褐	2.5YR5/4	にぶい赤褐	2.5YR5/4		
16	27	I区	D-E610G	3・4竪	弥生	壺	(11.8)	(3.4)		指頭圧痕,粘土接合痕	摩耗の為不明	CA	良	橙色		橙色		13図2	
16	28	I区	D-E610G	3・4竪	弥生	壺		(7.5)	5.9	工具ﾅﾃﾞ	摩耗不明,表面赤彩	AC	良	橙	7.5YR7/6	橙	7.5YR7/6		黒斑・外面赤彩
16	29	I区	D-E610G	5竪穴	弥生	鉢	(22.8)	(15.4)		ﾊｹ(1.5cmに12本)	工具ﾅﾃﾞ?,ﾖｺﾅﾃﾞ	CA	良	灰黄褐色	10.0YR6/2	にぶい黄橙色	10.0YR7/3	13図7	黒斑
16	30	I区	D-E610G	3上	弥生	小形壺	3.3	14.0	4.8	ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ(工具痕)	AB	良	浅黄橙色		浅黄橙色		13図3	
17	1	I区	D-E610G	一括	弥生	甕	(20.6)	(5.6)		摩耗調整不明	摩耗調整不明	AC	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
17	2	I区	D-E610G	一括	弥生	甕	(27.6)	(9.4)		ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ?,ﾅﾃﾞ?	ABC	良	淡黄橙色		淡黄褐色			
17	3	I区	D-E610G	一括	弥生	甕		(3.6)		ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	AH	良	淡橙色		淡黄橙色			
17	4	I区	D-E610G	一括	弥生	甕	(25.6)	(9.5)		ﾖｺﾅﾃﾞ,表面剥落	2本沈線,ﾊｹ	CAB	良	淡黄橙色		橙色			
17	5	I区	D-E610G	一括	弥生	甕		(8.2)		ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ﾊｹ後ﾖｺﾅﾃﾞ	ACH	良	橙色		淡橙色			
17	6	I区	D-E610G	一括	弥生	甕	24.8	(18.4)		摩滅	ﾊｹ,ﾖｺﾅﾃﾞ	BCAH	良	にぶい褐色	7.5YR5/3	にぶい橙色	5.0YR6/3		
17	7	I区	D-E610G	一括	弥生	甕	(38.0)	(8.5)		ﾅﾃﾞ,不明	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ	AC	良	灰黄色		黒褐色		13図4	
17	8	I区	D-E610G	一括	弥生	甕	(24.4)	(10.9)		指頭圧痕,ﾅﾃﾞ	指頭圧痕,ﾊｹ	ACED	良	浅黄橙 灰黄褐	10YR8/4 10YR4/2	にぶい黄橙	10YR6/4		
17	9	I区	D-E610G	一括	弥生	甕	(23.8)	(3.1)		ﾊｹ,不明	ﾊｹ,不明	ACE	良	灰褐色		淡橙色			
17	10	I区	D-E610G	一括	弥生	甕	(28.0)	(3.2)		ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ	B	良	淡黄橙色		淡黄褐色			
17	11	I区	D-E610G	一括	弥生	甕		(3.3)		摩耗の為不明	摩耗の為不明	AC	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
17	12	I区	D-E610G	一括	弥生	甕		(3.5)		摩耗の為不明	ﾖｺﾅﾃﾞ,刻み目,ﾅﾃﾞ?	ACH	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
17	13	I区	D-E610G	一括	弥生	甕	(32.0)	(8.7)		不明	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ	D	良	浅黄色		浅黄色			
17	14	I区	D-E610G	一括	弥生	口縁部		(7.8)		不明	ﾊｹ,ﾖｺﾅﾃﾞ	H	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
17	15	I区	D-E610G	一括	弥生	壺	(19.5)	(4.8)		不明瞭	刻み目,ﾊｹ,不明瞭	DA	良	淡黄橙色		淡黄橙色			黒斑
17	16	I区	D-E610G	一括	弥生	壺		(8.0)		摩耗の為調整不明	ﾅﾃﾞ?,ﾖｺﾅﾃﾞ	AD	良	淡橙色		橙色		13図5	朱塗
17	17	I区	D-E610G	一括	弥生	壺	(30.6)	(4.1)		ﾖｺﾅﾃﾞ不明瞭	ﾖｺﾅﾃﾞ不明瞭	ACD	良	淡橙色		淡橙色			
17	18	I区	D-E610G	一括	弥生	壺	(22.2)	(5.0)		ﾖｺﾅﾃﾞ不明瞭	ﾖｺﾅﾃﾞ不明瞭	AC	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
17	19	I区	D-E610G	一括	弥生	壺		(5.7)		ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ後ミガキ?	CA	良	浅黄橙色		淡黄橙色			
17	20	I区	D-E610G	一括	弥生	底部		(5.0)	6.2	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ABD	良	淡黄橙色		橙色			
17	21	I区	D-E610G	一括	弥生	底部		(7.5)	(7.6)	ﾅﾃﾞ?	調整不明	AH	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
17	22	I区	D-E610G	一括	弥生	底部		(9.3)	8.2	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ(表面剥落)	ACBD	良	淡橙色		橙色			
17	23	I区	D-E610G	一括	弥生	底部		(6.4)	8.2		表面剥落	CAH	良	淡褐色		橙色			
17	24	I区	D-E610G	一括	弥生	底部		(6.0)	(6.5)		調整不明	ACH	良	淡黄橙色		淡橙色			黒斑
17	25	I区	D-E610G	一括	弥生	底部		(7.6)	7.4	指ﾅﾃﾞ	工具ﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ	ACH	良	灰褐色		橙色			
17	26	I区	D-E610G	一括	弥生	底部		(7.1)	(6.8)	ﾊｹ,指押え,ﾅﾃﾞ	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ?(不明)	AD	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
17	27	I区	D-E610G	一括	弥生	底部		(4.1)	6.9	ミガキ?,指頭圧痕	ﾊｹ後ﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ	AC	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
17	28	I区	D-E610G	一括	弥生	底部		(3.5)	5.8	ﾅﾃﾞ?(磨耗不明)	ﾊｹ,ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ	AC	良	黄褐色		黄褐色			
18	29	I区	D-E610G	一括	弥生	底部		(7.7)	9.0	剥落,ﾅﾃﾞ	調整不明	CAH	良	淡橙色		橙色			
18	30	I区	D-E610G	一括	弥生	底部		(7.2)	(8.6)	ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	ﾖｺﾅﾃﾞ,磨耗の為不明	AD	良	淡黄橙色		灰黄褐色			
18	31	I区	D-E610G	一括	弥生	底部		(7.6)	(7.0)	ﾊｹ,表面剥落	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	AC	良	淡黄橙色		浅黄橙色			
18	32	I区	D-E610G	一括	弥生	底部		(4.95)	4.7	工具ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	工具ﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ?	ACE	良	橙色		橙色			
18	33	I区	D-E610G	一括	弥生	甕			(10.3)	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい橙	2.5YR6/4	にぶい橙	2.5YR6/4		
18	34	I区	D-E610G	一括	弥生	鉢	9.2	4.1		工具ﾅﾃﾞ	表面剥落	AD	良	淡黄橙色		淡黄橙色			黒斑
18	35	I区	D-E610G	一括	弥生	鉢	(14.2)	(7.2)		調整不明瞭	調整不明瞭,タタキ?	AC	良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4		
18	36	I区	D-E610G	一括	弥生	壺	18.5	(7.6)		ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾊｹ	CBAH	良	橙色	7.5YR6/6	浅黄橙色	10.0YR8/4		丹塗
18	37	I区	D-E610G	一括	弥生	鉢	(10.4)	(6.1)		指頭圧痕,ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ,ﾊｹ,黒斑	ACE	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		黒斑
18	38	I区	D-E610G	一括	弥生	甑		(7.2)		ﾅﾃﾞ?指押え	ﾅﾃﾞ?	AC	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
18	39	I区	D-E610G	一括	弥生	支脚		(6.3)	(11.2)	調整不明	調整不明	EA	良	橙色		橙色			
18	40	I区	D-E610G	一括	弥生	高坏		(12.0)		摩滅	摩滅	ACDE	良	橙色	7.5YR7/6	橙色	7.5YR7/6		
18	41	I区	D-E610G	一括	弥生	ミニチュア壺				ﾅﾃﾞ	指頭圧痕	CD	良	にぶい橙	7.5YR7/3	にぶい橙	7.5YR7/3		

※法量の単位はcm。（）は残存と復元値を示す。網掛けの遺物は所在不明の遺物。
胎土：A角閃石　B石英　C長石　D赤色粒子　E白色粒子　F黒色粒子　G雲母　I砂粒子　H灰色粒子

第４表　出土土器観察表④

図	番号	調査区	グリッド名	遺構名	種別	器種	法量（cm）			調整		胎土	焼成	色調				掲載図版	備考
							口径	器高	底径	内面	外面			内面		外面			
18	42	Ⅰ区	D-E6I01G	一括	弥生	ミニチュア甕			(4.2)	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CA	良	灰黄褐	10YR6/2	灰黄褐	10YR6/2		
19	1	Ⅰ区	D6I03G	一括	弥生	甕	-	-	-	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ,指頭圧痕,一部丹塗	BCA	良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4		丹塗
19	2	Ⅰ区	D6I03G	一括	弥生	高坏	-	-		ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR6/4	にぶい黄橙	10YR6/4		
19	3	Ⅰ区	D6I03G	一括	弥生	甕	-	-	6.0	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4		
19	4	Ⅰ区	D6I03G	一括	弥生	甕	-	-	7.1	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CAD	良	浅黄橙	10YR8/4	浅黄橙	10YR8/4		
19	5	Ⅰ区	D6I03G	一括	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	BCA	良	にぶい黄橙	10Y6/3	にぶい黄橙	10Y6/3		
19	6	Ⅰ区	D6H01G	一括	弥生	甕	(24.8)	(19.0)		ﾅﾃﾞ,ﾊｹ,指頭圧痕,	摩耗不明	ACH	良	灰褐	7.5YR5/2	浅黄橙	10YR8/3		
19	7	Ⅰ区	D6H01G	一括	弥生	甕		(30.9)	7.1	指頭圧痕,ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ﾊｹ,タタキ	ACE	良	にぶい褐	7.5YR5/3	にぶい橙	7.5YR6/4		黒斑
19	8	Ⅰ区	D6H01G	一括	弥生	高坏		(12.9)		シボリ痕,ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	穿孔残存,ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ABCD	良	橙	5YR6/6	橙	5YR6/6		穿孔2ヶ所
19	9	Ⅰ区	D6H01G	一括	弥生	ミニチュア甕	-	-	-	不明	不明	BCAD	良	浅黄橙	10YR8/4	浅黄橙	10YR8/4		
19	10	Ⅰ区	D6H03G	一括	弥生	甕				不明	不明	C	良	にぶい橙	5YR7/4	にぶい橙	5YR7/4		
19	11	Ⅰ区	D6H03G	一括	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	CA	良	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3		
19	12	Ⅰ区	D6H03G	一括	弥生	甕			(8.8)	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい橙	2.5YR6/4	にぶい橙	2.5YR6/4		
19	13	Ⅰ区	D6H03G	一括	弥生	ミニチュア甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCAD	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
19	14	Ⅰ区	D6H03G	一括	弥生	小鉢（手捏）				ﾅﾃﾞ	指頭圧痕	CD	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
19	15	Ⅰ区	D6H03G	一括	弥生	ミニチュア甕			3.4	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CA	良	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙	10YR6/3		
19	16	Ⅰ区	D6H03G	一括	弥生	ミニチュア甕			3.9	ﾅﾃﾞ	指頭圧痕	CA	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
21	1	Ⅰ区	D6H01G	2溝	弥生	甕	30.4	37.1	(7.2)	ﾖｺﾅﾃﾞ(上部)	ﾊｹ,ﾖｺﾅﾃﾞ(上部,下部)	ACH	良	浅黄橙色	7.5YR8/3	にぶい黄橙色	10.0YR7/3		
21	2	Ⅰ区	D6H01G	2溝	弥生	壺		(6.4)		ﾅﾃﾞ,摩耗の為不明	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ,ﾊｹ後ミガキ	GCED	良	明赤褐色		明赤褐色			
21	3	Ⅰ区	D6H01G	2溝	弥生	甕	(22.8)	(12.9)	10.5	ﾅﾃﾞ,下部指ﾅﾃﾞ	ﾊｹ,下部ﾅﾃﾞ	ACH	良	にぶい橙色	7.5YR6/4	橙色	2.5YR6/8		黒斑
21	4	Ⅰ区	D6H01G	2溝	弥生	高坏	-	-	-	不明(摩滅)	不明(摩滅)		良	淡黄色		淡黄色			
21	5	Ⅰ区	D6H01G	2溝	弥生	支脚		(4.1)	(10.2)	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ	ﾊｹ,ﾖｺﾅﾃﾞ	AC	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
21	6	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	壺	(24.5)	(13.1)		ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾊｹ	BCA	良	橙色	5.0YR7/6	橙色	7.5YR7/6		
21	7	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	甕	19.8	(20.3)		ミガキ,上部ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾊｹ,上部ﾖｺﾅﾃﾞ,ミガキ	ACH	良	橙色	2.5YR6/6	橙色	2.5YR6/6	22図1	
21	8	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	甕		(10.6)		ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	摩耗の為調整不明,ﾊｹ	ACH	良	橙色		淡橙色			
21	9	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	甕		(4.7)		ﾖｺﾅﾃﾞ,指頭圧痕	ﾖｺﾅﾃﾞ,指頭圧痕,ﾊｹ残存	ACE	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
21	10	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	底部		(5.6)	9.0	不明	磨耗の為不明	ABH	良	黒褐色		橙色			
21	11	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	底部		(4.8)	(8.0)	ﾅﾃﾞ	摩耗の為不明	ABCH	良	灰黄褐色		橙色			
21	12	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	底部		(6.9)	(10.8)	指ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ?	BAD	良	淡黄橙色		浅黄色			
21	13	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	甕	34.8	30.0		ﾊｹ	ﾊｹ,ミガキ	ABH	良	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	10.0YR8/4		黒斑
21	14	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	壺（甕）	(12.2)	(14.3)		工具ﾅﾃﾞ?,表面剥落	表面剥落	ACDH	良	淡黄橙色		淡黄橙色			黒斑
21	15	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	甕	(47.6)	(21.8)		ﾊｹ,指頭圧痕	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ	ACDE	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
22	16	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	甕	(15.6)	22.7	4.8	指頭圧痕,ﾅﾃﾞ	指頭圧痕,タタキ後ﾊｹ	AE	良	灰黄色		灰黄色			
22	17	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	壺	(19.4)	(23.9)		摩滅	ﾊｹ,摩滅	BCA	良	浅黄橙色	7.5YR8/3	浅黄橙色	7.5YR8/3		
22	18	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	壺?	(19.2)	(8.1)		ﾖｺﾅﾃﾞ,不明	調整不明	ACDH	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
22	19	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	壺		(26.8)	8.6	ﾅﾃﾞ,一部指頭圧痕	ﾊｹ?,ミガキ?ﾅﾃﾞ	AE	良	橙色		橙色		22図2	
22	20	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	壺		(17.1)		ﾅﾃﾞ後ミガキ,ﾅﾃﾞ,ミガキ	ミガキ?,摩耗の為不明	CBAH	良	淡橙色		淡橙色			
22	21	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	底部		(10.1)	(6.6)	ミガキ	ミガキ,磨耗の為不明	ACD	良	淡黄褐色		橙色			
22	22	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	器台		(12.2)		工具ﾅﾃﾞ,タテ方向のﾅﾃﾞ	合成,指頭圧痕,ﾅﾃﾞ	ABCD	良	にぶい橙	7.5YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/4		
22	23	Ⅰ区	D6H01G	3溝	弥生	高坏		(10.6)		工具ﾅﾃﾞ,ﾊｹ	ﾊｹ,調整不明	ACD	良	橙色		橙色			黒斑2ヶ所
25	1	Ⅱ区	1トレ	一括	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCD	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
25	2	Ⅱ区	1トレ	一括	弥生	甕			(8.3)	ﾅﾃﾞ	指押さえ→ﾊｹ	ACE	良	にぶい黄褐	10YR7/4	にぶい黄褐	10YR7/4		
25	3	Ⅱ区	1トレ	一括	弥生	甕			(3.8)	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCAD	良	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3		
25	4	Ⅱ区	3トレ	一括	弥生	甕				不明	ﾅﾃﾞ	C	良	にぶい黄橙	10YR6/4	にぶい黄橙	10YR6/4		
25	5	Ⅱ区	3トレ	一括	弥生	壺			6.9	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CA	良	にぶい黄褐	10YR5/3	にぶい黄褐	10YR5/3		
25	6	Ⅱ区	3トレ	一括	弥生	甕		(17.6)	7.1	ﾅﾃﾞ(工具痕)	合成復元,ﾊｹ	ACD	良	にぶい黄橙	10YR7/3	灰黄褐	10YR5/2		
25	7	Ⅱ区	4トレ	一括	弥生	甕	(26.0)	(13.0)		指押さえ,ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ	CEB	良	浅黄橙	7.5YR8/4	浅黄橙	7.5YR8/4		
25	8	Ⅱ区	4トレ	一括	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾊｹのちﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙	10YR6/3		
25	9	Ⅱ区	4トレ	一括	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR6/4	黒褐	10YR3/1		
25	10	Ⅱ区	4トレ	一括	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙	10YR6/3		
25	11	Ⅱ区	4トレ	一括	弥生	壺	(20)	-	-	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい橙	7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR6/4		

※法量の単位はcm、（）は残存と復元値を示す。網掛けの遺物は所在不明の遺物。
胎土：A角閃石　B石英　C長石　D赤色粒子　E白色粒子　F黒色粒子　G雲母　F砂粒子　H灰色粒子

第5表　出土土器観察表⑤

図	番号	調査区	グリッド名	遺構名	種別	器種	法量（cm）			調整		胎土	焼成	色調				掲載図版	備考
							口径	器高	底径	内面	外面			内面		外面			
25	12	Ⅱ区	4トレ	一括	弥生	甕			8.4	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	BCA	良	にぶい赤褐	2.5YR5/4	にぶい赤褐	2.5YR5/4		
25	13	Ⅱ区	4トレ	一括	弥生	甕			6.5	指ｵｻｴ,ﾅﾃﾞ	ミガキ+ﾅﾃﾞ	ACDE	良	橙	7.5YR6/6	にぶい褐	7.5YR5/3		
25	14	Ⅱ区	4トレ	一括	弥生	甕			(6.4)	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	ACFE	良	にぶい黄橙	10YR6/4	にぶい黄橙	10YR6/4		
25	15	Ⅱ区	4トレ	一括	弥生	甕			(7.2)	指ｵｻｴ,ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	ACDF	良	灰黄褐	10YR5/2	浅黄橙	10YR8/3		
25	16	Ⅱ区	4トレ	一括	弥生	甕			(7.1)	指ｵｻｴ,ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	ACB	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい橙	7.5YR6/4		
28	1	Ⅱ区	5トレ	1溝	弥生	甕	27.0	(19.1)		摩滅	摩滅,上部ﾖｺﾅﾃﾞ	BAH	良	浅黄橙色	10.0YR8/3	浅黄橙色	10.0YR8/4	18図3	
28	2	Ⅱ区	5トレ	1溝	弥生	甕棺	30.7	37.4	7.0	ﾊｹ残存,ﾅﾃﾞ	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	ACDH	良	浅黄橙色		浅黄橙色		18図4	底部穿孔
28	3	Ⅱ区	5トレ	2溝	弥生	甕		(29.2)	5.9	摩滅	ﾅﾃﾞ	CA	良	浅黄橙色	10.0YR8/3	浅黄橙色	10.0YR8/3	18図1	
28	4	Ⅱ区	5トレ	3溝	弥生	壺				不明	不明	H	良	黄褐色		黄褐色		18図2	遺物紛失

※法量の単位はcm。（）は残存と復元値を示す。網掛けの遺物は所在不明の遺物。
胎土：A角閃石　B石英　C長石　D赤色粒子　E白色粒子　F黒色粒子　G雲母　F砂粒子　H灰色粒子

第6表　出土石器・玉類・土製品観察表

図版	番号	調査区	グリッド名	遺構名	種別	材質	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重さ(g)	胎土	色調	調整	掲載図版	備考
31	1	Ⅰ区	D+E6Ⅰ01G	一括	石庖丁		3.30	8.50	0.70					13図14	両側辺再研磨
31	2	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	3土	石庖丁		5.80	3.50	0.70						
31	3	Ⅰ区	D+E6Ⅰ01G	一括	石庖丁	輝緑凝灰岩	5.50	5.50	0.70	32.0				13図12	
31	4	Ⅰ区	D+E6Ⅰ01G	一括	石庖丁	輝緑凝灰岩	3.85	7.25	1.00	34.7					
31	5	Ⅰ区	D+E6Ⅰ01G	5住	石庖丁	輝緑凝灰岩	3.70	3.95	0.30	3.7					
31	6	Ⅰ区	E6Ⅳ01G	一括	石庖丁	結晶片岩	3.40	1.90	0.50	4.5					
31	7	Ⅰ区	D+E6Ⅰ01G	一括	石庖丁	輝緑凝灰岩	4.00	3.65	0.55	7.8					
31	8	Ⅰ区	E6Ⅳ01G	一括	石庖丁	輝緑凝灰岩	3.00	4.70	0.50	11.9					
31	9	Ⅰ区	D+E6Ⅰ01G	一括	石庖丁	輝緑凝灰岩	4.40	5.80	0.70	17.4					
31	10	Ⅰ区	D+E6Ⅰ01G	一括	石庖丁	結晶片岩	4.30	4.80	0.70	19.3					
31	11	Ⅰ区	D+E6Ⅰ01G	一括	石庖丁未製品	結晶片岩	5.00	11.00	0.40	32.2				13図13	
31	12	Ⅰ区	D+E6Ⅰ01G	6住	石鎌	砂岩	7.10	3.00	0.95	20.4					
31	13	Ⅰ区	D6Ⅰ02G	一括	石鎌	緑泥片岩	5.50	3.40	1.05	15.6					
31	14	Ⅰ区	D+E6Ⅰ01G	一括	扁平片刃石斧	砂岩	2.80	1.90	0.80	6.3				13図10	
31	15	表採			磨製石斧	硬質砂岩	8.70	5.65	1.80	139.4					
31	16	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	磨製石斧	硬質砂岩	8.00	4.20	1.50	72.1				8図2	
31	17	Ⅱ区	2トレンチ		磨製石斧	粘板岩	10.85	4.80	2.10	128.7					
32	18	Ⅰ区	E6Ⅲ00G	1野	太型蛤刃石斧		8.10	7.90	4.70					21図4	
32	19	一括			磨製石斧	玄武岩	8.20	5.45	4.30	301.8					
32	20	Ⅰ区	E5Ⅰ00G	一括	敲石	砂岩	6.05	5.05	2.70	88.2					
32	21	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	敲石	泥岩	9.00	6.00	3.40	181.8				8図1	
32	22	Ⅰ区	D6Ⅲ01G	2溝	敲石	安山岩	15.90	8.30	6.80	1231.5					
32	23	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	敲石	砂岩	9.50	5.25	4.50	304.1					
32	24	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	敲石	砂岩	7.20	4.50	3.20	102.2					
32	25	Ⅰ区	D6Ⅲ01G	3溝	敲石	砂岩	6.20	3.80	2.90	110.6					
32	26	Ⅰ区	E6Ⅳ01G	一括	敲石	砂岩	3.15	1.75	1.10	14.3					
33	27	Ⅰ区	D+E6Ⅰ01G	1住	敲石	砂岩	6.30	3.00	1.30	33.1					
33	28	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	敲石		6.60	1.00	1.30					8図3	
33	29	Ⅰ区	E6Ⅲ00G	1野	砥石		12.60	4.60	3.40					21図3	
33	30	Ⅰ区	D+E6Ⅰ01G	一括	磨石	安山岩	12.70	9.45	4.20	911.0					
33	31	Ⅰ区	D+E6Ⅰ01G	一括	磨石	安山岩	9.70	7.00	4.70	417.4					
33	32	Ⅰ区	E6Ⅳ01G	住居	円盤状石器	結晶片岩	5.15	5.30	3.85	31.0					
34	33	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	石鏃	安山岩	2.30	1.70	0.30	1.1				8図4	
34	34	Ⅰ区	D6Ⅱ01G	一括	石鏃	黒曜石	1.80	1.70	0.30	0.5					
34	35	Ⅰ区	D+E6Ⅰ01G	一括	石鏃	黒曜石	1.85	1.55	0.30	0.6					
34	36	Ⅰ区	E6Ⅳ01G	一括	石鏃	安山岩	1.65	1.20	0.30	0.6					
34	37	Ⅰ区	D+E6Ⅰ01G	一括	石鏃	黒曜石	1.30	1.10	0.20					13図11	
34	38	Ⅰ区	D6Ⅰ02G	一括	石鏃	黒曜石	2.30	1.40	0.40	1.1					
34	39	Ⅰ区	E5Ⅱ00G	2住	2次加工剥片	黒曜石	3.50	2.40	0.80	5.7					
34	40	表採			石鏃	安山岩	4.9	1.8	1.90	9.1					
34	41	Ⅰ区	D+E6Ⅰ01G	3住	ガラス小玉	ガラス	0.20	0.30	0.20	0.1					孔径0.1
34	42	Ⅰ区	E6Ⅱ01G	一括	紡錘車	土製品	4.50	4.65	1.10	22.3	ACE	灰白色	良		
34	43	表採			紡錘車	土製品	3.65	3.00	1.20	16.1	AE	灰黄褐色	良		

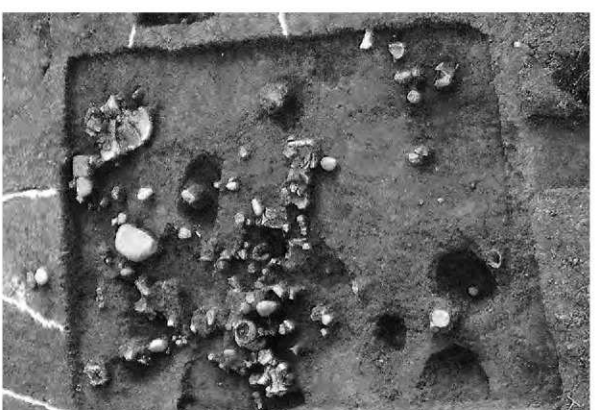
※法量の単位はcm。（）は残存と復元値を示す。網掛けの遺物は所在不明の遺物。
胎土：A角閃石　B石英　C長石　D赤色粒子　E白色粒子　F黒色粒子　G雲母　F砂粒子　H灰色粒子

E５Ｉ00グリッド（南から）

E５Ｉ00グリッド３号土坑（南から）

E５Ｉ00グリッド１号住居跡（北から）

E５Ⅱ00グリッド（西から）



E５Ⅱ00グリッド２号住居跡（東から）

E５Ⅱ 00グリッド２号住居跡土器出土状況①

E５Ⅱ 00グリッド２号住居跡土器出土状況②

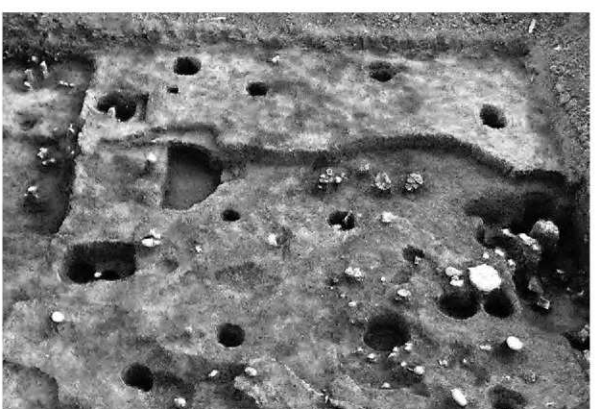
E５Ⅱ00G2グリッド２号住居跡土器出土状況③

E５Ⅱ00グリッド２号住居跡石器出土状況

E５Ⅲ 00Gグリッド１号貯蔵穴（北から）

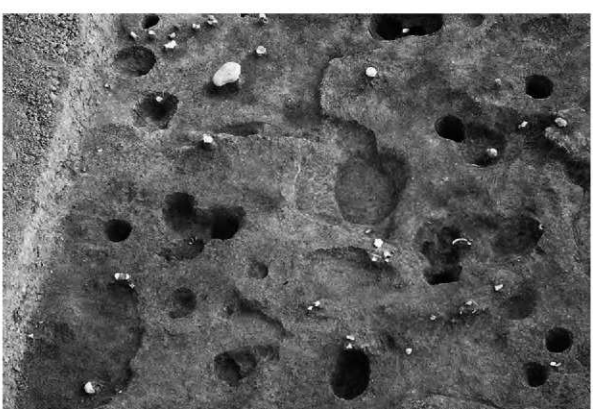
E６Ⅲ 00G１号貯蔵穴（西から）

D・E６Ⅰ01グリッド全体

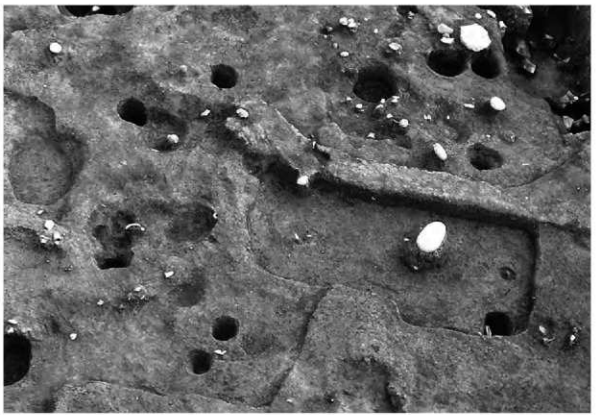


D・E６Ⅰ01グリッド北東側

D・E６Ⅰ01グリッド北西側



D・E６Ⅰ01グリッド南西側



D・E６Ⅰ01グリッド南東側

D・E６Ⅰ01グリッド１号住居跡土器出土状況

D・E６Ⅰ01グリッド３号住居跡石庖丁出土状況

D・E６Ⅰ01グリッド３号土坑壷出土状況

D・E6Ⅰ01グリッド石器出土状況

DⅢ01グリッド2号溝（北から）

D6 Ⅲ 01グリッド 2 号溝土器出土状況①

D6 Ⅲ 01グリッド 2 号溝土器出土状況②

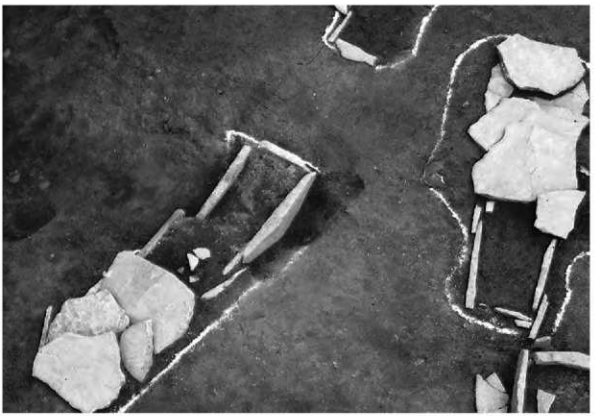
D6 Ⅲ 01グリッド３号溝（北から）

D6 Ⅲ 01グリッド３号溝土器出土状況

Ⅱ区４トレンチ（東から）

Ⅱ区５トレンチ全体

２号石棺墓、１号甕棺墓（東から）



Ⅱ区５トレンチ４号石棺墓（南から）

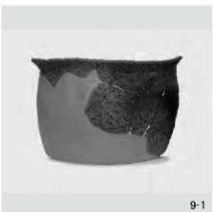
Ⅱ区５トレンチ１号甕棺墓

Ⅱ区5トレンチ3号甕棺墓

Ⅳ区トレンチ

写真図版16

7-1


9-1

9-2

9-3

9-5

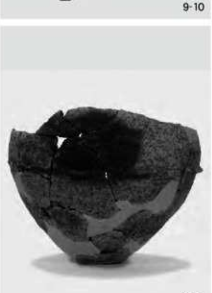
9-6

9-7

9-8

9-9

9-10


9-12

9-13

10-14

10-15

10-16

10-17

10-18

10-19

10-20

10-22

10-23

10-25

10-26

10-27

13-1

13-3

13-4

13-5

13-6

13-7

13-8

13-9

13-10

13-12

13-13

写真図版18

13-14

14-5

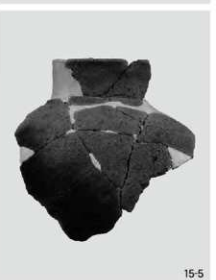
15-8

14-7

15-3

14-1

14-9


15-5

14-2

14-15

15-10

14-3

15-2

16-1

14-4

15-7

16-2

16-9

16-15

16-16

16-19

16-27

16-29

16-30

17-1

17-2

17-3

17-4

17-5

17-6

17-7

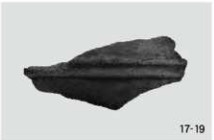
17-9

17-10

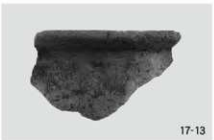
17-11

写真図版20

17-12


17-19

17-26


17-13

17-20

18-27

17-14

17-21

18-28

17-15

17-22

18-29

17-16

17-23

18-30

17-17

17-24

18-31

17-18

17-25

18-32

18-34

21-2

21-10

18-36

21-3

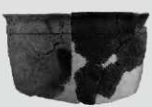
21-11

18-38

21-5

21-12

18-39


21-6

21-13

18-40

21-7

21-14

21-1

21-8

21-15

写真図版22

22-16

22-21

22-23

31-7

31-8

22-17

28-1

31-12

22-18

28-2

32-19

22-19

28-3

32-21

22-20

32-23

33-30

34-35

34-36

33-25

33-31

33-39

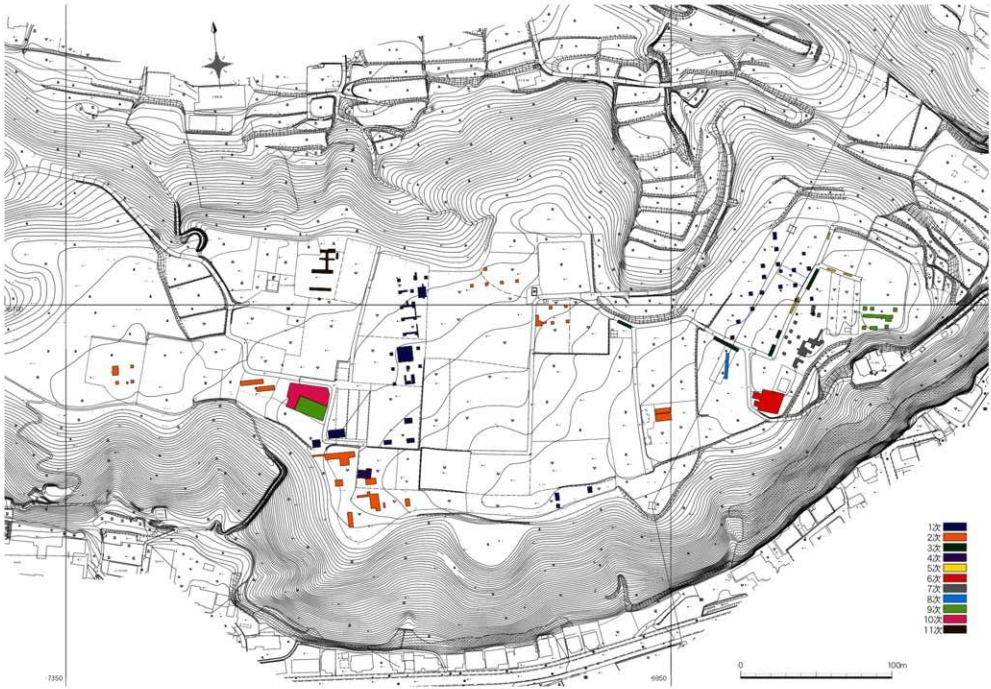
33-27

33-32

34-11

第13章　2次調査の記録

吹上原台地空中写真（白印は調査位置）



第１図　吹上遺跡調査区位置図（1/2500）

第１節　調査の概要（第１図）

２次調査は昭和55年度に実施した、農業基盤整備事業に先立つ確認調査の２年目にあたる。これは昭和54・55年の２ヵ年に亘って行った吹上遺跡の確認調査で、１次調査で確認された基本的資料を再度確認または補足する目的で実施された。

調査は昭和55年11月17日から昭和56年１月29日までの間実施した。調査では遺構の存在を確認することが目的であるため、表面検出を基本としながらも必要に応じて遺跡の内容を確認するための掘り下げも行っている。

調査区の設定にあたっては、１次調査同様に、台地上にある三等三角点を中心として50m四方の方眼を設定した。この方眼区割りに沿って、台地東側にBⅡ区、中央部北側にD・E01区、中央部南側にF・GⅡ区、西側にHⅠ区、J・I01区の大きく５箇所の調査区を設定した。この方眼区割りは１次調査とほぼ同一のものであるが、方眼番号の設定名称が１次と２次では異なっているものの、混同を避けるため敢えて統一はせず、概要報告時の番号に従って解説する。これらの調査区は方眼に沿って２×２mのグリッドを基本として設定し、必要に応じて拡張区を広げている。

今回の調査区の各トレンチで検出した遺構については、掘り下げを行っていないものも多いため、判然としない部分も多いが、竪穴住居跡５軒、竪穴状遺構９基、貯蔵穴９基、土坑13基、甕棺墓３基、小児用甕棺墓１基、土坑墓２基、ピット多数である。２次調査区の各調査区面積は、BⅡ区が80㎡、D・E01区が59㎡、G・FⅡ区が282㎡、HⅠ区が81㎡、J・I0Ⅰ区が36㎡で総面積は538㎡を図る。

こうした内容の一部は既に概要報告[註1]としてまとめてはいるが、調査後30年が経過していることから、今回の報告に併せて見直しや整理を行い変更が生じている。本報告をもって正式な報告とする。また、整理や保管の過程において、概要報告時の遺物の所在が分からなくなっているものも見られる。所在不明の遺物に関しては、観察表に明記することとし、報告にあたっては、概要報告時の実測原図を再トレースして掲載する。また、概要報告時に掲載している遺物に関しては観察表に報告時の図版番号を掲載する。

なお、２次調査における調査組織及び調査協力者は『吹上Ⅰ』第１章第４節に記載している。

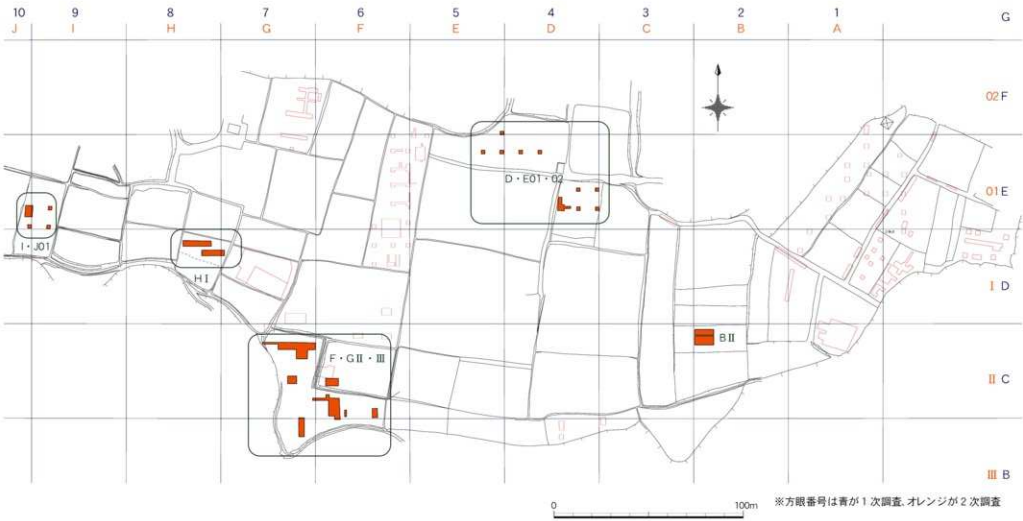
２次調査の報告に関する平成24年度の組織体制は、以下のとおりである。

調 査 主 体　　日田市教育委員会
調査責任者　　合原多賀雄（日田市教育委員会教育長）
調 査 統 括　　財津俊一（同文化財保護課課長）
調 査 事 務　　土居和幸（同文化財保護課理蔵文化財係長）、井上和泉（同係主査）
報告書担当　　渡邉隆行（同係主査）

また、遺物整理については平成16・23年度に実施し、平成18・19・23・24年度に遺物実測委託等を行った。整理作業と図版作成に携わった関係者は次のとおりである。

製　　図　　武石和美（整理作業員）、川津真由美（臨時職員）
整 理 作 業　　井上とし子、石松裕美、鍛治谷節子、黒木千鶴子、坂口豊子、平川優子

註１『吹上遺跡Ⅱ』日田市教育委員会　1981



※方眼番号は青が 1 次調査, オレンジが 2 次調査

第 2 図　2 次調査区配置図（1/2,000）

第２節　調査の内容（第２図）

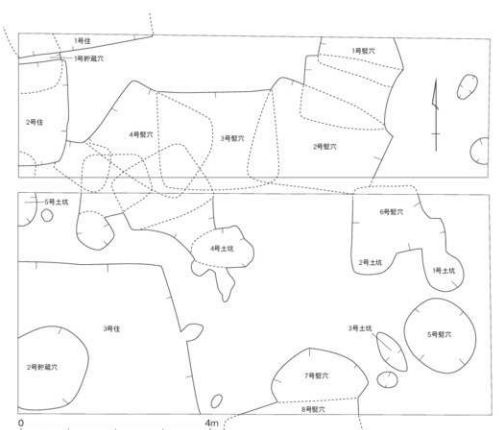
第２図の２次調査区位置図を元に各調査区の解説を行う。なお、50m方眼のメッシュ区割りは１次調査と共有されるものではあるが、この方眼番号は１次とは異なっている。以下各区毎に解説を行う。

（１）　BⅡ区の調査（第３図）

台地東側に10×３m、10×4.5mの２箇所のトレンチを近接して設定した。両トレンチ共に表面検出のみに留めている事から詳細は不明であるが、調査時の記録によれば、住居跡３軒、竪穴遺構８基、貯蔵穴２基、土坑５基検出されている。しかし、いずれも未掘であり、切り合いや詳細が不明なものが多い。

出土遺物（第４図）

１は２号住居跡より出土した甕の口縁部である。くの字状を呈する。２・３は１号貯蔵穴から出土し、２は甕の底部で、３は甕の口縁部でくの字を呈し、頸部に断面三角形状の突帯が巡る。４・５は２号貯蔵穴から出土した。４は下城式の甕か。５は甕の底部で平底を呈する。１号貯蔵穴は下城式期頃、２号貯蔵穴が須玖Ⅱ式の新段階頃に該当か。



第３図　BⅡ区トレンチ実測図（1/80）

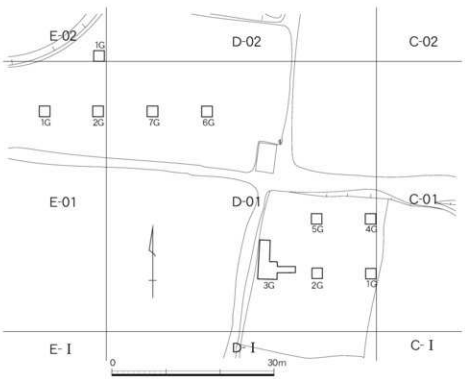
第４図　BⅡ区出土遺物実測図（1/4）

（2） D・E01・02区の調査（第５・６図）

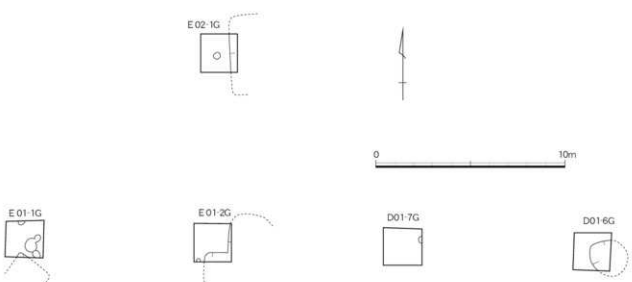
D01、E01、E02区に２×２mのグリッドを10箇所設定して掘り下げた。このうちD01区３グリッドに関しては、複数の遺構が確認されているため拡張を行った。検出された遺構は住居跡４軒、貯蔵穴２基、土坑６基、竪穴状遺構１基、小児用甕棺墓１基、土壙墓１基に及ぶが、グリッド内で検出された遺構の詳細が不明で、数量は概数である。以下各グリッド毎に説明を行う。

E02区１グリッド（第６図）

２×２mのグリッドである。住居跡と思われる遺構とピットが検出されている。遺物の出土は見られなかった。



第５図　D・E01・02区グリッド配置図（1/700）



第６図　E01・02・D01区グリッド実測図（1/200）

E01区1グリッド（第6図）

2×2mのグリッドで、住居跡や土坑・ピットと思われる遺構が検出されている。遺物の出土は見られなかった。

E01区2グリッド（第6図）

2×2mのグリッドで、住居跡2軒とピットが検出された。

出土遺物（第9図）

15が出土した。高坏の口縁部で鋤先状を呈する。須玖Ⅱ式の新段階頃か。

D01区1グリッド（第7・8図）

2×2mのグリッドで竪穴状遺構が検出されている。

出土遺物（第9図）

1・2が出土した。1は甕の口縁部で、亀ノ甲タイプである。2は甕の底部で上底状を呈する。いずれも城ノ越式頃に該当か。

D01区2グリッド（第7・8図）

2×2mのグリッドでピットが検出されている。

出土遺物（第9図）

3は甕の口縁部で、刻みの入る断面三角形状を呈し、頸部に断面三角形状の突帯が巡る。城ノ越式期に相当か。

D01区4グリッド（第7・8図）

2×2mのグリッドで、住居跡1軒とピットが検出されている。グリッド内の北側に住居跡上端が確認されており、土層図の3・4層が住居跡埋土と想定される。凡そ深さ40cmを測るが、規模等は不明である。

出土遺物（第9図）

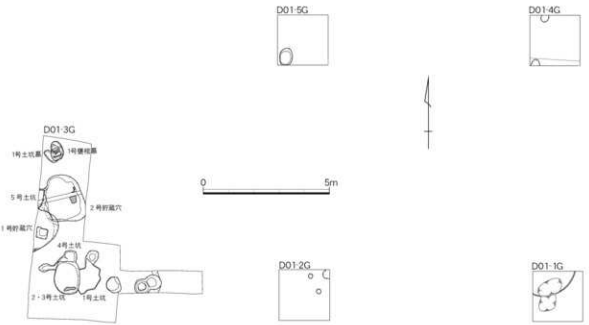
4～7が出土した。4は甕の口縁部で如意形を呈し、頸部下部に断面三角形状の突帯が巡る。5は甕の底部でやや厚底気味で、6は平底で7は外面に丹塗りが施される。4・5は城ノ越式期と思われるが、6・7は須玖Ⅱ式相当か。

D01区5グリッド（第7・8図）

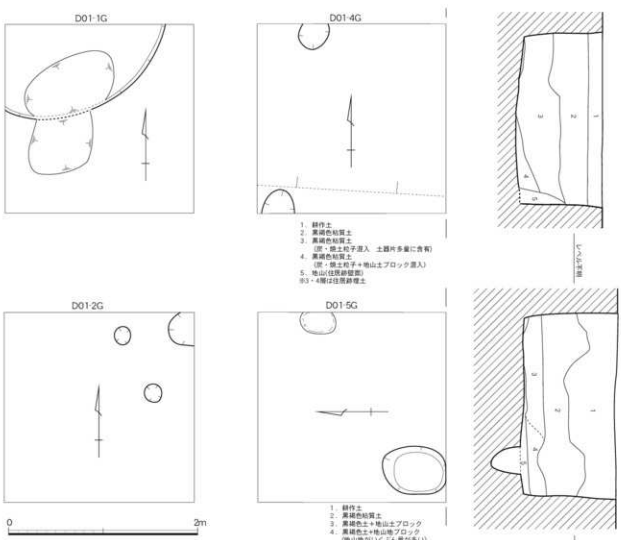
2×2mのグリッドで、住居跡1軒が検出されている。住居跡内にグリッドが収まっているものと考えられ、土層図の3・4層が住居跡埋土と想定される。凡そ深さ20cmを測るが、規模等は不明である。

出土遺物（第9図）

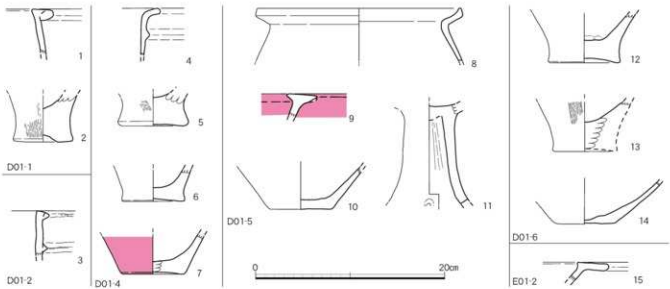
8～11が出土した。8は甕の口縁部でくの字に屈曲し、端部が立ち上がる。9は壺の口部で内外共に丹塗りが施される。10は壺の底部で平底である。11は高坏で穿孔が1穴施される。概ね須玖Ⅱ式に相当か。



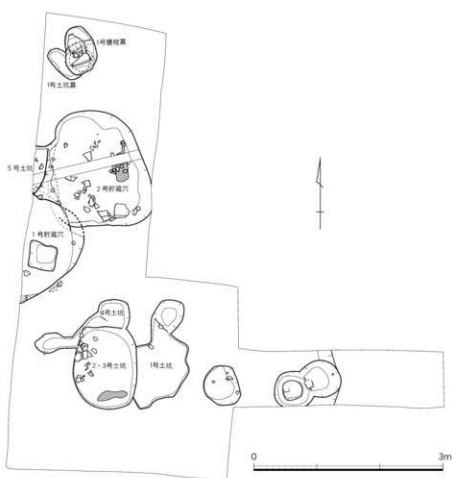
第７図　D01 区１～５グリッド実測図（1/150）



第８図　D01 区１・２・４・５グリッド実測図（1/40）



第９図　D・E区グリッド出土遺物実測図（1/4）



第10図　D01区３グリッド実測図（1/60）

D01区6グリッド（第6図）

2×2mのグリッドで、大型の土坑が検出されている。或いは貯蔵穴かもしれないが、未掘のため詳細は不明である。

出土遺物（第9図）

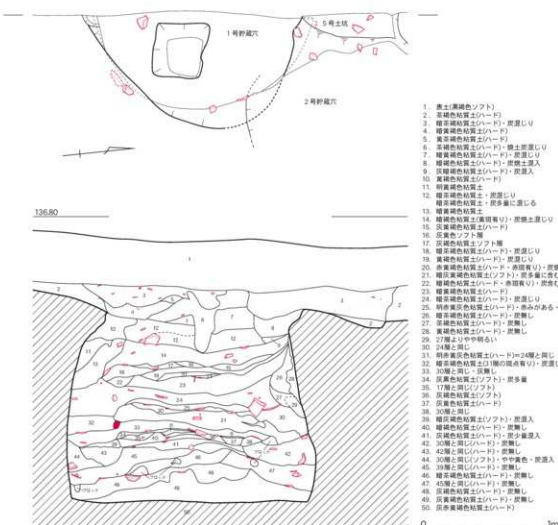
12～14が出土した。12･13は甕の底部で厚底気味である。14は壺の底部で、かなり薄手である。概ね城ノ越式から須玖Ⅰ式頃に相当か。

D01区7グリッド（第6図）

2×2mのグリッドで、ピットが検出されている。遺物の出土は見られなかった。

D01区3グリッド（第7・10図）

2×2mのグリッドを拡張し、7×3.5mのL字形を呈する。このグリッド内の遺構はほぼ完掘しており、貯蔵穴2基、小児用甕棺墓1基、土壙墓1基、土坑5基が検出されている。以下遺構毎に整理して解説する。



第11図　D01区3グリッド1号貯蔵穴実測図（1/30）

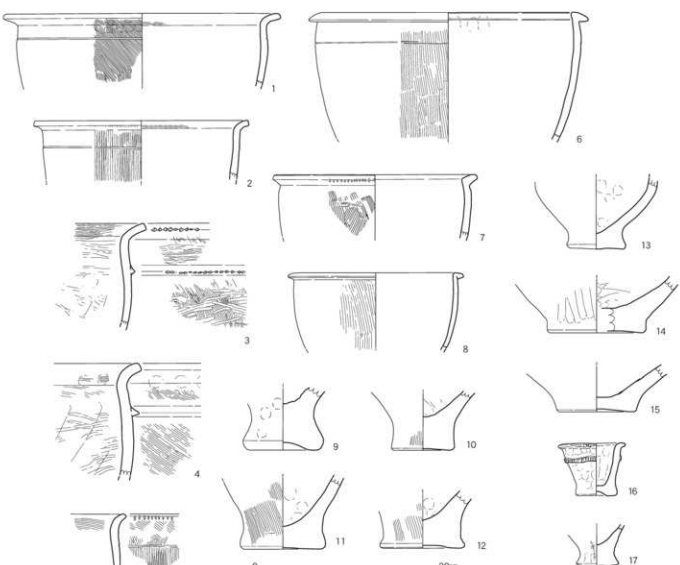
1号貯蔵穴（第11図）

調査区で半分が検出されている袋状貯蔵穴で、5号土坑に切られる。検出面での規模は径約1.6mを呈し、床面では径約1.9mを呈する。深さは約1.7mを測り、断面フラスコ状を呈する。床面東側で方形のピットが検出されている。埋土は細かな互層となっており、特に炭が多く混じり、6・8・14・20層には焼土が検出されることから、廃絶後にゴミ穴として焼却利用した可能性が考えられる。また、31層埋土は地山を埋めており、2度目の底面の可能性が指摘されている。出土物は上・下・最下層と任意に区分けして遺物の取り上げを行っているが、整理段階で遺物の混入が見られる。また、最下層からは炭化ドングリが出土したとされるが所在不明である。

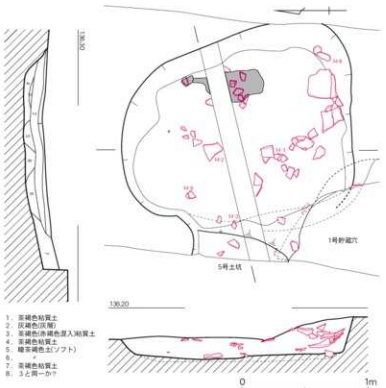
出土遺物（第12図）

3・8が上層、1・4～7・12・17が下層、2・9・13・16が最下層より出土した。

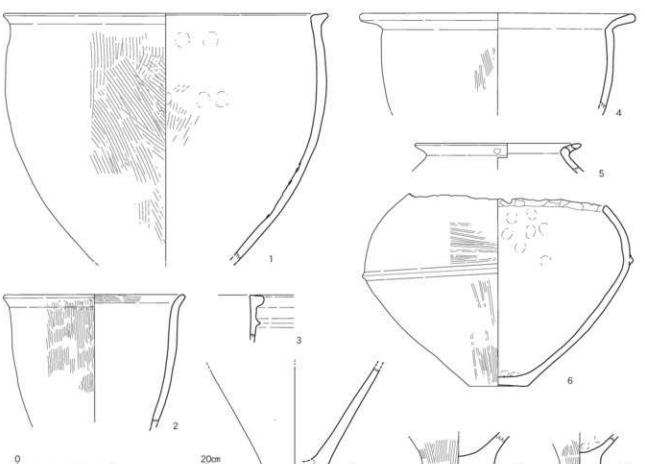
1～5は如意状口縁を呈する甕で1・2・5は頚部下部に沈線文が巡り、3・4は頚部に断面三角形状の突帯が巡る。3・5は口縁端部及び突帯頂部に刻み目が施され、3は内外に一部ミガキが



第12図　1号貯蔵穴出土遺物実測図（1/4）



第13図　D01 区 3 グリッド 2 号貯蔵穴実測図（1/30）



第14図　2 号貯蔵穴出土遺物実測図（1/4）

施される。6～8は亀ノ甲系の口縁部を呈する甕である。6は頸部下部に沈線文が巡り、7は口縁端部に刻み目が施される。9～13は甕の底部である。9は厚い上げ底で、10～12は厚底を呈する。13～15は壷の底部か。13は小型の壷の底部と思われる。16はミニチュア土器の甕である。如意状口縁に刻みを施した突帯が巡り、上げ底を呈する。17もミニチュア土器の甕の底部である。

上層には亀ノ甲タイプの口縁を持つ土器6～8が混じり城ノ越式期と想定されるが、最下層や下層の多くは如意形口縁部を呈し板付Ⅱ式に相当することから、概ね板付Ⅱ式新段階前後から城ノ越式にかけての時期に相当しよう。

2号貯蔵穴（第13図）

1号貯蔵穴の北東側に隣接し西側を5号土坑に切られ、1号貯蔵穴を切っている。検出面での規模は径約1.8m、深さ約30cmを測り、不整円形を呈し、断面逆台形を呈する。概報にしたがって、貯蔵穴として報告するが、やや浅く、貯蔵穴とは断定できない。埋土中からは炭化ドングリが出土したとされるが、所在不明である。

出土遺物（第14図）

1～4は甕の口縁部である。1は亀ノ甲タイプで断面三角形状の口縁部を呈する。2は如意状口縁を呈し、3は断面三角形状を呈し、頸部下部に断面三角形状の突帯が巡る。4は口縁部がくの字状を呈する。5は小型の甕で口縁部が大きく外反し、口縁部に穿孔が1穴施される。6は壷である。口縁端部は打ち欠かれている。外面にはミガキが施される。7・8は甕の底部で、9はやや小型の甕か。

1～3・6などは城ノ越式頃だが、4・5などの須玖Ⅱ式の新段階頃の遺物が見られ、遺構の下限と考えられる。

1号甕棺墓（第15・16図）

調査区グリッド北端で検出された遺構で1号土壙墓を切っている。墓壙は楕円形を呈し、2段掘りを呈している。墓壙平面形は長さ75cm、幅50cm、深さ50cmを測る。主体部は合口の甕棺墓で、主軸角334.5°埋角26.5°を測る。覆口式で上甕が下甕になる壷を覆っている。粘土目貼り等は見られず副葬遺物・人骨も認められなかった。

1は甕である。口縁部はくの字口縁を呈し、端部を小さく跳ね上げる。頸部下半がやや膨らむ器形を呈し、底部は平底である。外面にハケが残る。2は壷で口縁部は端部を打ち欠いているが、上方へと立ち上がり、小さく外反するタイプと思われる。頸部に断面三角形状の突帯が巡り、胴部に断面三角形状の突帯が2条巡る。底部は平底を呈し、外面の底部付近には細かなハケ、口縁部付近にはやや目の大きなハケが施される。1の甕の口縁部や胴部の貼り具合などから須玖Ⅱ式の古段階相当で、2の壷は口縁部が不明瞭ではあるが、須玖Ⅰ～Ⅱ式頃の遠賀川以東系の壷と考えられることから、須玖Ⅱ式古段階頃で豊前系影響のある小児用甕棺と想定される。

1号土壙墓（第17図）

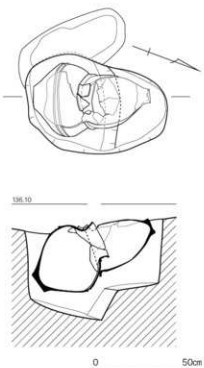
1号甕棺墓に切られる小型の土壙墓である。検出面での規模は長軸75cm、短軸30cm、深さ15cmを測り、楕円形を呈する。遺物の出土は見られなかった。

1号土坑

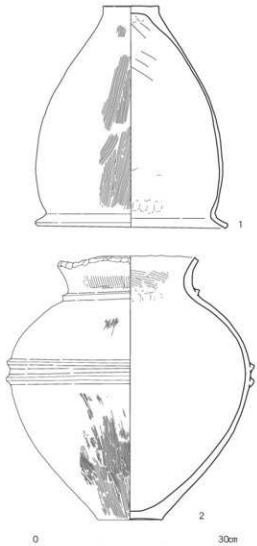
2・3号土坑に切られる不整形の土坑である。遺構・遺物の出土は見られなかった。

2・3号土坑（第18図）

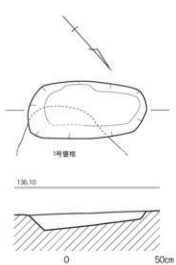
番号が重複している土坑であるが、過去報告との不整合が起きる恐れがあるため、重複したまま



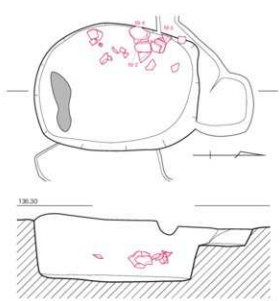
第15図　D01 区 3 グリッド 1 号甕棺墓実測図（1/20）



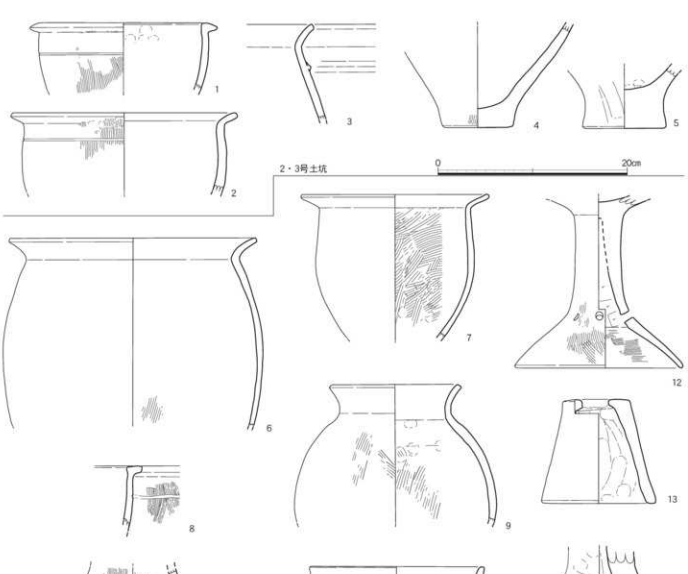
第16図　1 号甕棺実測図（1/6）



第17図　D01 区 3 グリッド 1 号土坑墓実測図（1/20）



第18図　D01 区 3 グリッド 2 ・ 3 号土坑実測図（1/30）



第19図　D01-3 グリッド出土遺物実測図（1/4）

報告する。１・４号土坑を切る土坑で、検出面での規模は長軸約1.3m、短軸約１m、深さ約50cmを測り、楕円形を呈する。床面の一部に焼土が検出されている。

出土遺物（第19図）

１～５が出土した。１～３は甕である。１は口縁部断面が三角形状を呈し、頸部下部に沈線が巡る。２は如意状口縁の下部に沈線が巡る。３はくの字状の口縁部の下部に断面三角形状の突帯が巡る。４・５は甕の底部か。１・２は城ノ越式だが、３は下大隈式相当と２時期が混在する。

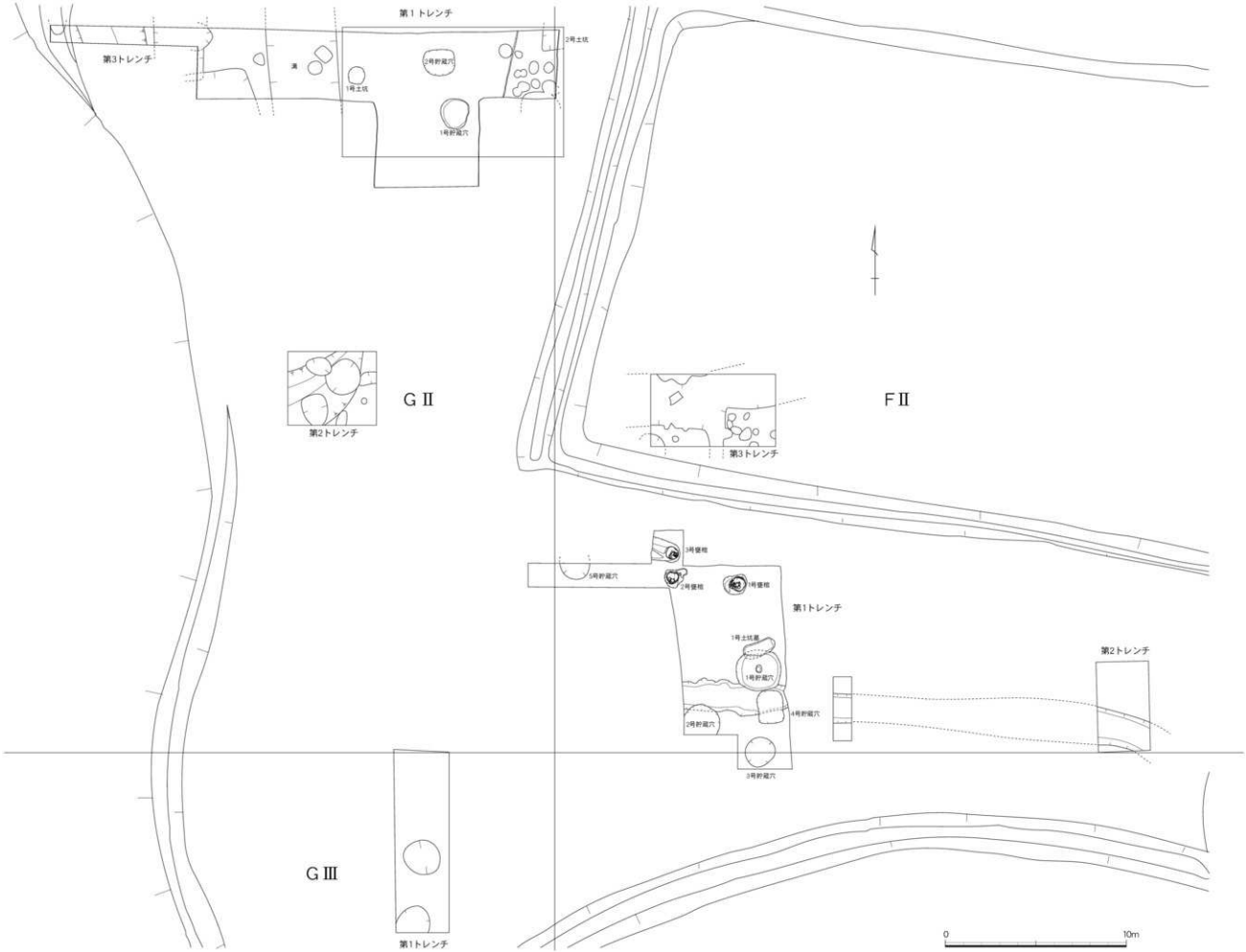
その他の出土遺物（第19図）

6～15はグリッドから一括して出土した遺物である。6～9は甕の口縁部である。6・7は断面くの字状を呈し、8は逆L字形を呈する。頸部下部には沈線文が巡る。9は甕であるが、口縁部が緩やかに立ち上がり、胴部は卵球形を呈する。内外共にハケが施される。10は壷で頸部に断面三角形状の突帯が巡り内外共にハケが施される。11は壷で、口縁部は二重口縁を呈し頸部に断面三角形状の突帯が巡る。内外共にハケが施される。12は高坏で脚部に穿孔が4穴施される。13は支脚で上部が開口しており、14は器台の脚部か。15は小型の鉢で平底の底部を作出する。

遺物は時期が混在しており、8・10は城ノ越式、それ以外は下大隈式古段階～弥生終末期頃にかけての2時期に分けられる。検出遺構の多くが中期初頭～後半であるのに対して、一括遺物の多くは後期後半から終末に相当することから、検出遺構以外に周辺に当該期の遺構が広がる可能性が想定される。

（3）　F・GⅡ・Ⅲ区の調査（第20図）

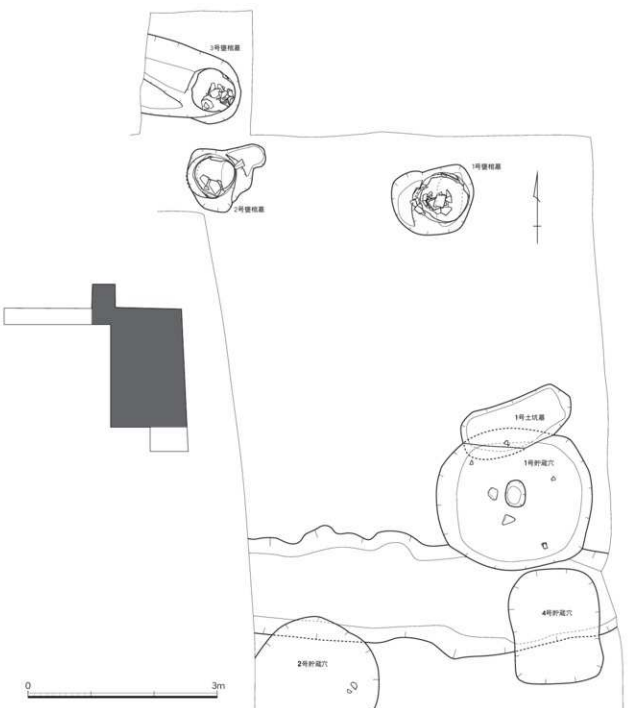
台地中央部南側のFⅡ・GⅡ・GⅢ区にトレンチを6箇所設定して掘り下げた。このうちFⅡ区は3つのトレンチを設定し、甕棺墓の確認された第1トレンチは拡張を行っている。GⅡは3つのトレンチを設定し、第1・3トレンチは遺構密度が高いため、拡張を行った結果最終的に繋がっている。GⅢ区は10×3mのトレンチを設定した。検出された遺構は貯蔵穴7基、土坑2基、甕棺墓3基、土壙墓1基に及ぶが、遺構の詳細が不明なものもあるため、数量は概数である。以下各区トレンチ毎に説明を行う。



第20図　F・GⅡ・Ⅲ区トレンチ実測図（1/200）

FⅡ区第１トレンチ（第21図）

９×６ｍのトレンチの西側に８×１ｍ、南側に３×２ｍの拡張区を設定し、逆L字形を呈している。このトレンチ内の遺構の一部は完掘しており、甕棺墓３基、土壙墓１基、貯蔵穴５基が検出されている。なお、１・２・４号貯蔵穴を切って第２トレンチまで伸びる溝が検出されており、この溝を確認するためにトレンチ東側に3.5×１ｍの拡張トレンチを設定している。この溝に関しては詳細不明であるが、近代の溝と報告されることから説明は省く。以下遺構毎に整理して解説する。



第21図　FⅡ区第１トレンチ実測図（1/60）

1号甕棺墓（第22・23図）

トレンチ北端にかたまる3基の甕棺墓のうち最も西側に位置する甕棺墓である。上面が大幅に削平を受けており、下甕も露出した状態で確認されている。検出面での規模は墓壙長軸約1.3m、短軸約1.1m、深さは約65cmを測る。上甕付近にテラスがついている。埋置角度は40°前後、主軸は354°を測り、主体部は合口の甕棺墓と考えられ、接合部には目貼り粘土が施されている。人骨等の出土は見られなかったが、内部には朱が沈殿しており、下面付近からは鉄刀の破片が出土した。この鉄刀は破損によって流れ込んだ土器の上面に見られることから、原位置を保っていないものと思われる。そのほか甕棺内排土中からは砥石が出土しているが、出土位置は不明である。

1は上甕である。打ち欠き口縁と思われるが、整理時に所在不明となっている破片も多く、口縁端部までが残存しているか不明である。胴部に断面台形状の突帯が2条巡り、底部は平底の卵球形を呈する。外面はハケ、内部に工具痕が残る。2は下甕である。頚部付近を打ち欠いた甕で、卵球形を呈する。胴部に2条の断面台形状の突帯が2条巡り、体部は底部にかけて緩やかに窄まりレンズ気味の平底を呈する。外面は丁寧なミガキ仕上げで、内面には工具ナデが残存する。

甕棺のいずれも口縁部を欠く器形であるものの、胴部に2条の突帯を巡らす卵型が特徴で、底部にかけての窄まりかたや胴部の張りなどは、吹上遺跡6次の5号甕棺墓などに類似することから、概ね中期後半の立岩式でも新しい時期の橋口氏のKⅢc頃と考えたい。

副葬遺物（第24図）

1は鉄刀である。刀身部の破片で、表裏両面に木質が残存している。錆のため層状に剥離しており、本来の断面形を知ることが出来ないが、厚さは1.3mm程度で、幅3cm前後になると思われる。2は砥石である。小型のタイプである。あるいは破損時の流れ込みの可能性がある。

2号甕棺墓（第25・26図）

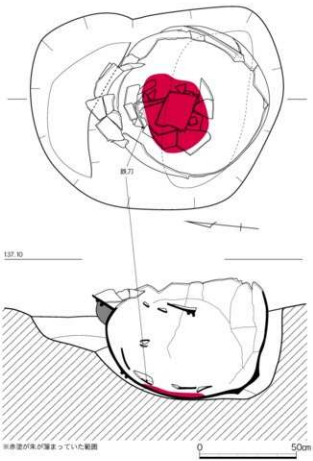
トレンチ北端にかたまる3基の甕棺墓のうち真ん中に位置する甕棺墓である。上面が大幅に削平を受けており、甕が露出した状態で確認されている。検出面での規模は墓壙長軸約1m、短軸約1m、深さは約60cmを測る。南側にテラスがつき、こちら側が墓壙挿入部になると思われるが、詳細不明である。埋置角度は45°前後、主軸は171°を測る。主体部は上面が削平を受けているため、断言は出来ないが、下甕の破片が全く確認出来ていないことから、単棺墓と想定しておく。人骨等の出土は見られなかったが、甕底からやや浮いた状態で勾玉が出土した。

1が甕である。頚部付近を打ち欠いた甕で、卵球形を呈する。胴部に2条の断面台形状の突帯が2条巡り、体部は緩やかに窄まりややレンズ気味の平底を呈する。外面は細かなハケが残り、内面には工具ナデが残存する。

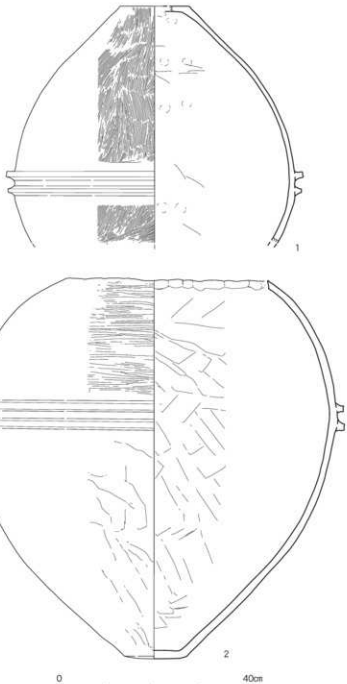
口縁部を欠く器形であるものの、胴部に2条の突帯を巡らす卵型が特徴で、底部にかけての窄まりかたや胴部の張りなどは、1号甕棺墓に類似する。概ね中期後半の立岩式でも新しい時期の橋口氏のKⅢc頃と考えたい。

副葬遺物（第24図）

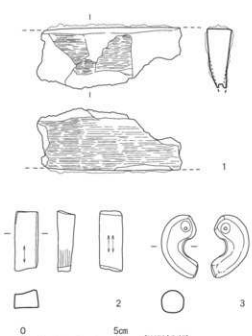
3は勾玉である。整理時に紛失し所在が不明となっているため、概報時の実測図を再掲する。翡翠製（硬玉製）とされ、浅緑色を呈する。穿孔部に朱が残存する。概報時には頂部に浅いV字の切れ込みがある丁字型勾玉とされるが、実測原図には丁字の記載が無いため、詳細が確認できない。



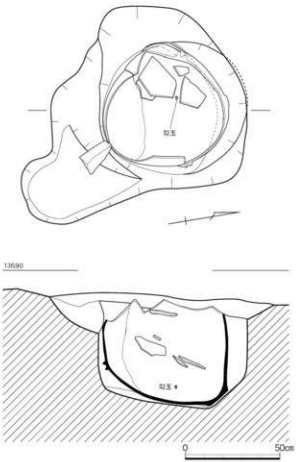
第22図　FⅡ区１号甕棺墓実測図（1/20）



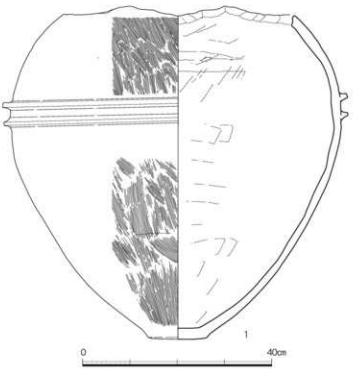
第23図　１号甕棺実測図（1/8）



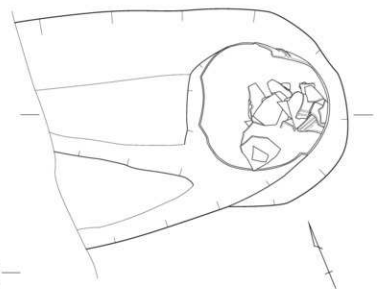
第24図　甕棺出土副葬品実測図（1/2）

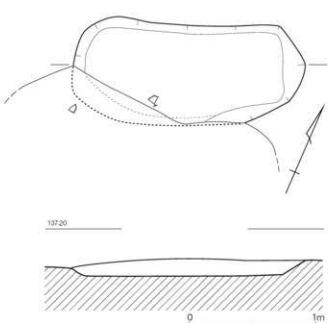


第25図　FⅡ区２号甕棺墓実測図（1/20）

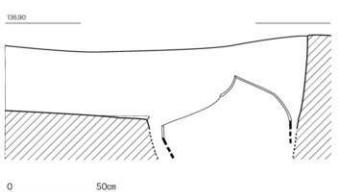


第26図　２号甕棺実測図（1/8）





第28図　FⅡ区１号土坑墓実測図（1/30）



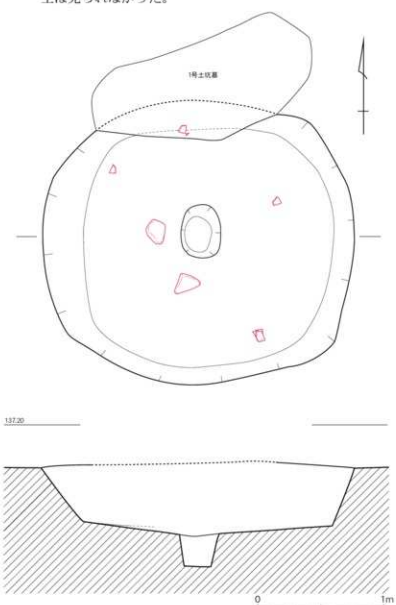
第27図　FⅡ区３号甕棺墓実測図（1/20）

３号甕棺墓（第27図）

トレンチ北端にかたまる３基の甕棺墓のうち北側に位置する甕棺墓である。上面が大幅に削平を受けており、甕が露出した状態で確認されている。検出面での規模は墓壙長軸約1.6m、短軸約１m、墓壙の深さは約35㎝を測る。西側にテラスがつき、こちら側が墓壙挿入部になると思われるが、全掘しておらず詳細不明である。埋置角度・主軸は不明で主体部は上面が削平を受けており、単棺か合せ口か不明である。甕棺そのものも取上げを行っていないようであるため、詳細は不明である。

１号土壙墓（第28図）

トレンチ南側で検出された土壙墓とされる遺構で、１号貯蔵穴と重複しているが切り合いは不明である。検出面での規模は長軸1.8m、幅0.8m、深さ約10㎝を測り、長方形を呈する。遺物の出土は見られなかった。



第29図　ＦⅡ区１号貯蔵穴実測図（1/30）

１号貯蔵穴（第29図）

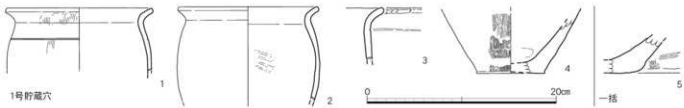
トレンチ南側で検出された貯蔵穴で、１号土壙墓と重複しているが切り合いは不明である。検出面での規模は径約2.5m、深さ約50㎝を測り、不整円形で断面逆台形状を呈する。床面中央部にピットが検出される。

出土遺物（第30図）

１～４が出土した。１～３は甕で如意状口縁を呈する。１・３は頚部下部に沈線文が巡り、３は口縁端部に刻目が施される。４は甕の口縁部で外面にハケが施される。いずれも概ね城ノ越式に相当するものか。

２～５号貯蔵穴

トレンチ南側に２～４号貯蔵穴、北側に５号貯蔵穴が検出されている。４号のみが方形を呈するが、それ以外は円形を呈する。未掘のため詳細不明である。



第30図　FⅡ区出土遺物実測図（1/4）

その他の遺物（第30図）

5はトレンチから出土した一括遺物である。壷の底部か。

FⅡ区第２トレンチ（第20図）

第１トレンチで検出されている溝の延長を確認するために第１トレンチの東側15mの箇所に設定されたトレンチで５×３mを測る。近代の溝とされる遺構以外には遺構・遺物共に確認できなかった。

FⅡ区第３トレンチ（第20図）

第１トレンチの北６m程の箇所に設定した７×４mのトレンチである。住居跡状の方形プランが３箇所とピットなどが検出されているが未掘のため詳細不明である。

GⅡ区第１・３トレンチ（第20・31図）

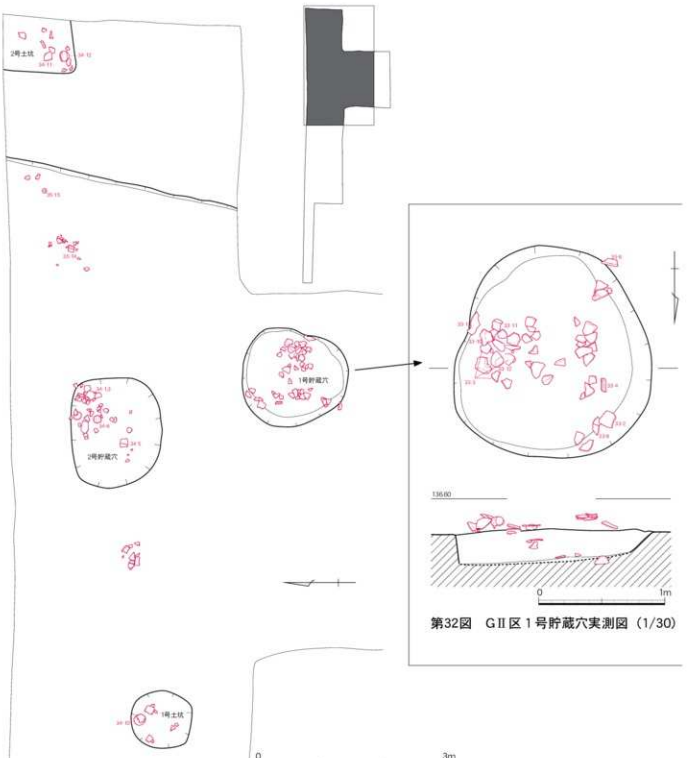
20×４mのトレンチを拡張し、西側で８×１mの第３トレンチと繋がり、南側に６×５mの拡張区を広げている。遺構が密接に集中しており、明確なものだけでも貯蔵穴２基、土坑２基が検出されているが、そのほか溝や住居跡状の方形プランが検出されているが未掘のため詳細不明である。以下、詳細な記録のある貯蔵穴とされる遺構と土坑についてのみ解説する。

１号貯蔵穴（第32図）

トレンチ南側の拡張区にて検出された。検出面での規模は径1.5～1.7m、深さ約25cmを測り、不整円形を呈する。やや浅く、上層に遺物が集中している。

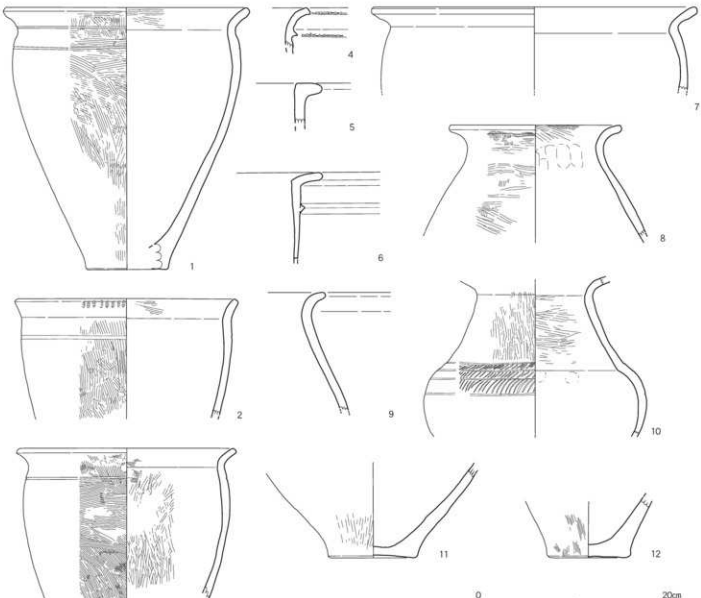
出土遺物（第33図）

１～７は甕である。１～４は如意状口縁を呈し、１～３は如意状口縁で頸部下面に沈線文が施される。うち２には口縁端部に刻目が施される。４は如意状口縁で、頸部に断面三角形状の突帯が巡り、口縁端部と突帯頂部に刻目が施される。５・６は断面逆L字形を呈し、６は頸部下面に断面三角形状の突帯が巡る。７はくの字状を呈する口縁である。８～10は壷である。８・９は口縁部が小さく外反するタイプの壷で、外面は丁寧なミガキ仕上げである。10は口縁部が外に開くタイプで頸部に沈線文で３つの文様帯を作出し、櫛描により羽状文を形成している。内外共に丁寧なミガキ仕上。11は壷の底部、12は甕の底部である。５・６は須玖Ⅰ式に相当し、７は須玖Ⅱ式であるが、それ以外の遺物は概ね板付Ⅱ式の中から新段階に相当するものか。少量の遺物を混入と想定すると前期後半～末と考えられる。



第32図　GⅡ区１号貯蔵穴実測図（1/30）

第31図　GⅡ区第１トレンチ実測図（1/60）



第33図　1号貯蔵穴出土遺物実測図（1/4）

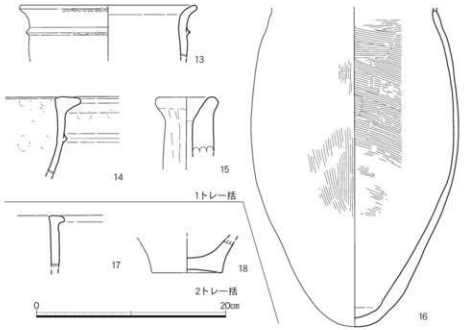
2号貯蔵穴

トレンチ中央部で検出され、約1.7×1.4mの不整長方形を呈する。未掘であるため詳細不明であるが、検出面で多数の遺物が出土している。

出土遺物（第34図）

1～9が出土した。1～5は甕である。1～4は亀ノ甲タイプの口縁を呈する。うち、1～3は頸部下面に断面三角形状の突帯が巡る。いずれも外面にはハケが残る。5は如意状口縁を呈し、頸部下面に沈線文が巡り、口縁端部には刻目が施される。底部に穴が穿たれており、甑として利用されたものか。6・7は甕の口縁部で、7は5と同様に穴が開けられている。8は如意状口縁の甕で、端部に刻目が施され、頸部下部に断面三角形状の突帯が巡る。9は鉢で口縁端部を台形に仕上げ、下部に断面三角形状の突帯を巡らせる。5がやや古く板付Ⅱ式新段階でそれ以外は概ね城ノ越式の

第34図　GⅡ区第１トレンチ出土遺物実測図①（1/4）



第35図　GⅡ区第１トレンチ出土遺物実測図②（1/4）

やや新しい時期に相当するものか。

１号土坑

トレンチ中央部で検出され、径約0.9mの円形を呈する。未掘であるため詳細不明であるが、検出面で多数の遺物が出土している。

出土遺物（第34図）

10は壷で、算盤玉状に胴部が張り、内外共にミガキが施される。城ノ越式期に相当するものか。

２号土坑

トレンチの東端に検出された遺構で、幅１m以上の方形状を呈するものか。未掘であるため詳細不明であるが、検出面で遺物が出土している。

出土遺物（第34図）

11・12が出土した。11は甕で口縁部が亀ノ甲タイプを呈する。12は壷の頸部で切り離した特殊な器形で、胴部に断面台形の突帯を巡らせ、穴が開けられる。特殊な祭祀遺物か。中期前半頃に該当か。

その他の出土遺物（第35図）

13～16がトレンチから出土した。13は如意状口縁を呈する甕で、14は断面逆L字形を呈し、頸部下部に断面三角形状の突帯を巡らせる。15は小型の支脚で、16は甕の胴部で、胴部が紡錘形にのびた器形を呈する。検出遺構の時期に該当する城ノ越式以外に終末期に該当する遺物も出土しており注目される。

GⅡ区第2トレンチ（第20図）

1トレンチの９m南に設定した５×４mのトレンチである。検出面で土坑やピットと思われる遺構が検出されているが、未掘のため詳細不明である。

出土遺物（第35図）

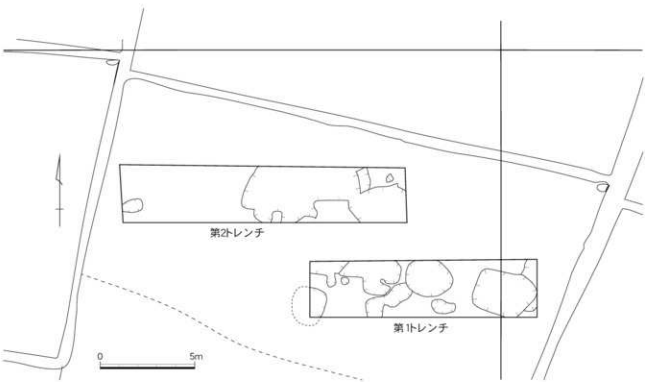
17・18が出土した。17は甕の口縁部で18は底部である。概ね城ノ越式期頃に該当か。

GⅢ区第１トレンチ

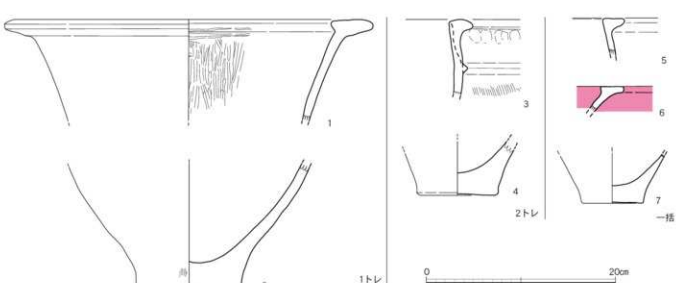
台地南端に設定した３×10mのトレンチで、南端部分で土坑と思われる遺構が２基検出されているが、詳細不明である。遺物の出土は見られなかった。

（４） ＨＩ区の調査（第36図）

台地西側のH01区に２箇所のトレンチを設定して掘り下げた。第１トレンチは12×３m、第２トレンチは15×３mで、いずれの遺構からも複数の遺構が重複したと思われるプランが検出されているが、未掘のため詳細不明である。



第36図 ＨＩ区実測図（1/200）



第37図 ＨＩ区出土遺物実測図（1/4）

出土遺物（第37図）

１・２は１トレンチから出土した。１は壷で、端部は鋤先状を呈し、内面に磨きが施される。２は甕の底部か。３・４は２トレンチから出土した。３は甕の口縁部で、亀ノ甲状を呈し、頸部下面に断面三角形状の突帯が巡る。４は甕の底部で平底を呈する。５～７は両トレンチから出土した遺物である。５は甕の口縁部で断面逆Ｌ字形、６は壷で鋤先状口縁を呈し、丹塗りが施される。７は甕の底部か。いずれも須玖Ⅰ式前後頃に該当か。

（５）　Ⅰ・Ｊ01区の調査（第38図）

台地西端のⅠ・Ｊ01区に２×２ｍのトレンチを３箇所、６×４ｍのトレンチを１箇所の計４箇所のトレンチを設定して掘り下げた。遺構・遺物共に検出されなかった。

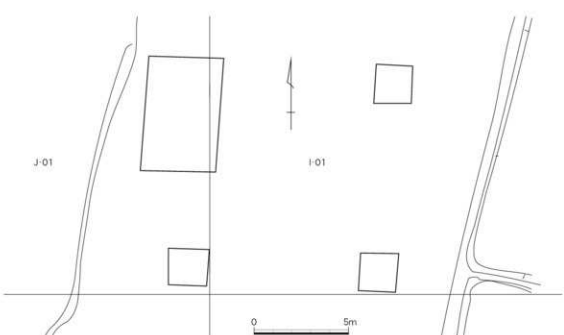
（６）　そのほかの出土遺物

表採土器（第39・40図）

ＧⅠ区付近のゴボウ畑の開墾時に大量の遺物が表面採取されている。これらの遺物と各トレンチ周辺で一括して採取された遺物について紹介する。なお、土器表採遺物に関しては整理段階で１・２次共に混在しており、ここでの報告で一括して紹介する。

第39図１～６はＧⅠ区付近で採取された遺物である。１～３は甕である。１は断面くの字状を呈し、頸部に断面三角形状の突帯が巡る。４は鉢で口縁部は緩やかに外反する。口縁端部に刻目が施される。内外共にミガキが施される。５・６は壷である。口縁部が何れも割れており、残存していない。胴部はやや球形に張り、底部はレンズ底である。

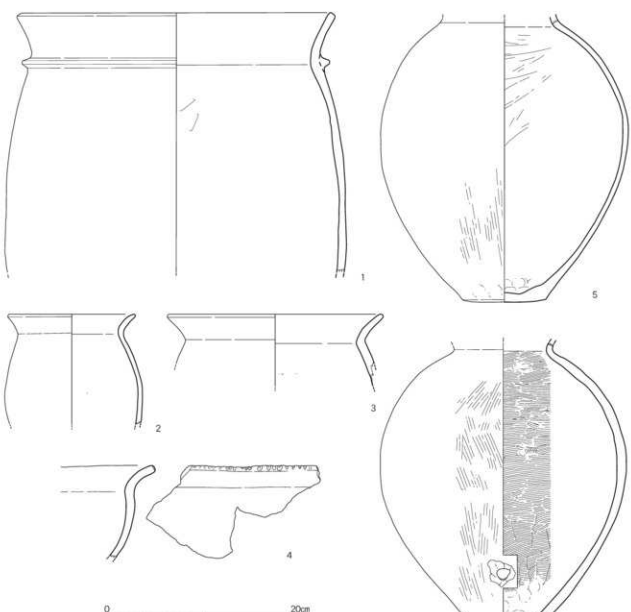
第40図１～16は調査に伴う表採遺物である。１～４は甕である。１は口縁部が如意状に外反し、頸部下部に断面三角形状の突帯が巡る。２・３は小型の甕である。口縁部がくの字に外反する。外面に工具ナデが見られる。４は鉢である。口縁部はくの字に外反する。５は亀ノ甲状の口縁を有し、



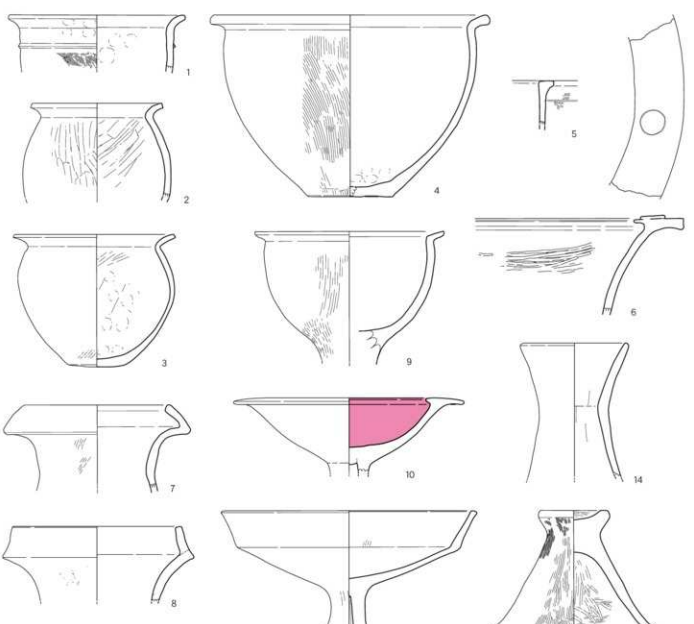
第38図　Ⅰ・J01 区実測図（1/200）

頸部下半に沈線文が巡る。6～8は壷である。6は鋤先状口縁を呈して口縁部上端に円盤状粘土が貼付けられる。内面にミガキが施される。7・8は複合口縁壷である。7は擬口縁が内傾し、8は上方に立ち上がる。9～11は高坏である。9は鉢に脚を付けたもので、10は鋤先状口縁を呈し、内面に丹塗りが施される。11は口縁部が屈曲し、直線的に外反する。脚部はスカート状に開き、穿孔が3列に施される。12はミニチュアの壷か。13は甕のミニチュアか。口縁部は亀ノ甲状を呈し、頸部下部に断面三角形状の突帯が巡る。14は器台である。15は蓋である。外面にハケが残り、内面はミガキ仕上げである。16は須恵器有蓋高坏である。

表採遺物のうち、ＧⅠ区に関してはほぼ下大隈式～終末期と想定される。その他の遺物はこれまでの出土遺物同様に、板付Ⅱ式新段階～城ノ越式、須玖Ⅱ式、後期後半頃に分けられる。また16の須恵器はＴＫ43前後頃に該当する。採集位置が不明であり、或いは台地崖面に所在する北友田横穴墓群と関連するものであろうか。



第39図　ＧⅠ区表採遺物実測図（1/4）

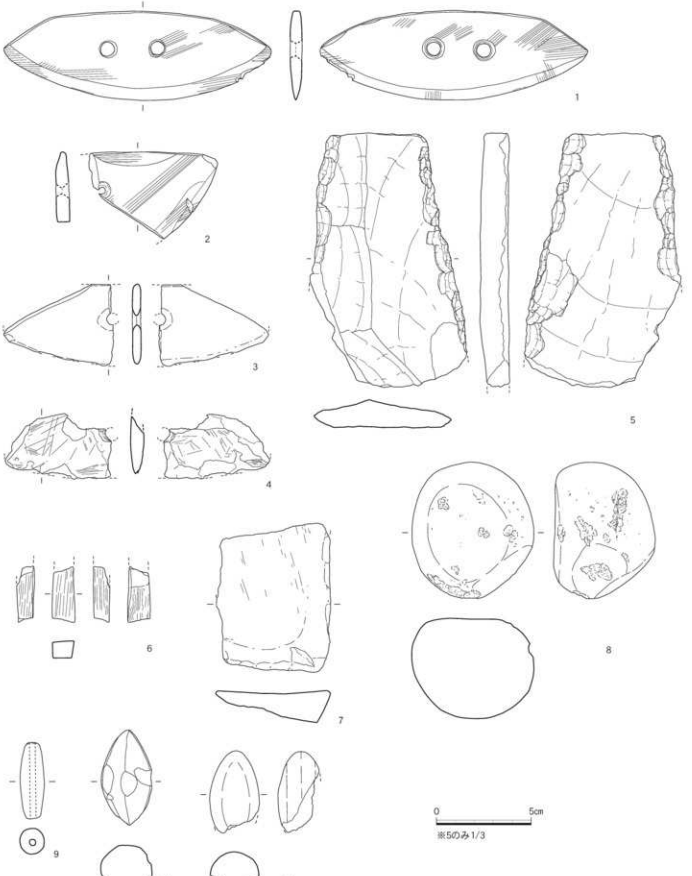


第40図　表採遺物実測図（1/4）

出土石器（第41図）

2次調査で出土した石器を一括して解説する。1次に比較してその数量が少なく、或いは整理段階で混在している可能性もあるが、ここでは所在の判明する遺物に関して報告する。なお、出土遺構については観察表を参照いただきたい。

1～4は石庖丁である。1はほぼ完形の杏仁形である。2つの両面穿孔が施されており、口縁部付近には使用痕と思われる擦痕が見られる。2～4は破片であり、2は半月で3は杏仁形か。4は破損が著しく詳細不明である。3が砂岩である以外は何れも輝緑凝灰岩製である。5は打製石斧で



第41図　出土石器・土製品実測図（1/2）

ある。比較的大型のもので刃部が欠損しており、多孔質安山岩製である。6は小型の砥石で、7は大型の砥石である。8は敲石か。複数個所に敲打痕が見られる。9は土錘である。10・11は投弾である。また、そのほか概報第21図10に掲載されているGⅡ区1号貯蔵穴出土のスクレイパーについては所在不明となっており、原図も所在不明であることから、概要報告書より転載する。

第42図　概報第21図掲載石器（転載）

第3節　小結

これまでの整理・保管によって遺物や図面・写真などの一部が所在不明となっているものの、残された資料をもとに可能な限り事実報告を行った。以下2次調査の概要についてまとめる。

大きく5地点で検出された遺構総数は詳細不明であるものの、調査時の遺構名に従うならば住居跡5軒、竪穴状遺構9基、貯蔵穴9基、土坑13基、甕棺墓3基、小児用甕棺墓1基、土坑墓2基を数える。

BⅡ区は台地西側の一角で、表面検出に留めるものの中期初頭から須玖Ⅱ式頃の遺構が検出されると共に、相当の遺構密度が認められ、この一角まで相当の遺構が広がっていたものと想定される。

D・E01・02区では各グリッドから住居跡などが多数検出されている。E01・02区の3つのグリッドから3・4軒ほどの住居跡の痕跡が確認されている。時期が分かるE01-2グリッドでは中期後半頃の時期が想定される。D01区の7つのグリッドからも2軒の住居跡と3基の貯蔵穴、5基の土坑や小児用甕棺墓などが検出されている。4・5グリッドの住居跡はいずれも中期後半頃と想定され、3グリッドの小児用甕棺墓も須玖Ⅱ式古段階頃の中期後半と想定されることから、この一帯に中期後半頃の住居跡群が展開しその周辺に小児棺が埋納されたものと想定される。これに対し、3グリッドなどの貯蔵穴や土坑は概ね前期後半から中期初頭頃に相当することから、やや時期を違えて遺構が変遷するものと想定されよう。また、3グリッドの一括遺物には後期後半頃の遺物が多数含まれることも注目される。近接する1次調査Ⅰ区とほぼ同時期の遺構がかなり広範囲に展開していた可能性を示唆している。

F・GⅡ・Ⅲ区は生活遺構と墳墓群が検出されている。生活遺構ではFⅡ区1トレンチで貯蔵穴が5基検出されている。出土遺物のある1号貯蔵穴は城ノ越式期の中期初頭と判断されることから、その他の貯蔵穴もほぼ同時期のものであろうか。また、第3トレンチでもその他の遺構が多数検出されている。GⅡ区第1トレンチでは貯蔵穴や土坑が検出されており、概ね板付Ⅱ式の前期後半代頃に相当する。そのほかの遺構については未掘で詳細が不明であるが、ほぼ同時期頃のものであろうか。以上の点から、この一帯の生活遺構については前期後半から中期初頭頃に相当するものと思われる。

次に墳墓群であるが、3基の甕棺墓が検出されている。3号甕棺墓は未掘のため詳細不明であるが、1・2号甕棺墓はほぼ全掘している。1号甕棺墓は掘方がかなり小型であるが、合口の甕棺である。2号甕棺も小型の掘り方で単棺であろうか。何れも口縁部を打ち欠くタイプの甕棺墓で、胴部に2重の断面台形状の突帯が巡る。これらは、9次調査B地点の2・3・4号甕棺墓、6次調査

5号甕棺墓などに類似する。9次調査B地点のものは豊前系の口縁部が直線的に開く大型の壺を打ち欠いたものであるが、1・2号甕棺墓は底部がシャープに窄まらない点などの特徴が異なることから、時期的にこれら後期後半よりも後出するものであろうか。さらに、いずれも器壁外面にハケ目などが残存していることなどからも、時期的にやや新しいものと捉えておきたい。以上の点から立岩式期で中期末頃の橋口氏のKⅢcと考えておきたい。

また、この特徴的な卵型の器形であるが、6次調査5号甕棺墓や9次B地点5号石棺甕棺併用墓などが最も類似する器形である。しかし、5号石棺甕棺併用墓のように豊前系の甕以外に、後迫遺跡2区1号甕棺墓のように鰭先口縁を呈し、頸部が絞まる卵型の器形を呈する筑後川系の甕棺も類似することから、一概にどちらの系統であるとは断定しがたい。単純にこれらの甕棺が在地なのか非在地なのかといった議論はここでは差し控えておきたい。

さて、この2基の甕棺墓の特徴は、副葬品の出土にある。1号では内部に赤色顔料が塗布されているのみならず、鉄刀の破片が出土し、2号甕棺墓からは硬玉製の勾玉も出土している。残念ながら勾玉は所在不明となっており、詳細な観察はかなわないが、青銅製武器や南海産貝輪などが出土した6次調査区以外に市内では、中期末から後期初頭にかけての時期で副葬品を有する墳墓が検出されているものは、2次調査のみである。

この2次調査区FⅡ区第1トレンチからやや離れた9次調査B地点、10次調査区では、4基の成人用甕棺墓と木棺墓・土壙墓が10基、小児用甕棺墓6基で構成される墓群が検出されているが、列状というよりは、やや集塊状である。1・4次調査の石棺墓群も同様に集塊状と想定すると、集塊状の墓群が点在しながらも、台地南西側の一部に大きな帯（列）状の墓域が形成されていたものと考えられる。6次調査区のような豪華な副葬品を有する少数の成人墓のみで形成される墓域とは構成が異なることが想定される。このような、特定集団墓と列状墓が1つの集落内に付随する様相は、溝口氏[註1]が指摘する、複数の居住集団から選択された人物が葬られる「区画墓」と、居住集団に隣接した通常の成員が葬られる墓地（列墓）が見られる佐賀県吉野ヶ里遺跡や福岡県隈・西小田遺跡などの事例に類似するものである。とすれば、吹上遺跡も日田地域における中核的集落であった可能性が高いと推察される。また、それぞれの墓域から副葬品が出土していることは、異なる墓域の構造や階層などを検討するための貴重な資料と言えよう。

そのほか、HI区では2本のトレンチを設定しているが、遺構は密集して切りあっている。概ね須玖Ⅰ式期の範囲で捉えられ、I・J05からは遺物が出土していないことから詳細は不明である。

以上のように2次調査の結果を見てきたが、ほぼ1次調査の結果を追認するとともに、副葬品を有する甕棺墓が検出されていることが大きな特徴である。今後は台地上の複数の墳墓群の違いについて検討を進め、集落変遷などと共に吹上遺跡の全体像を把握する必要があるものと考える。

註1　溝口孝司　2008　「弥生時代中期北部九州の区画墓の性格」『九州と東アジアの考古学』上巻　九州大学考古学研究室

《参考報告書》

『佐寺原遺跡・尾虎遺跡群・有田塚ヶ原古墳群』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書9　大分県教育委員会　1998

『後迫遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書18　大分県教育委員会　2001

『後迫遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第35集　日田市教育委員会　2002

『吹上遺跡1・3～5次調査の記録』日田市埋蔵文化財調査報告書第42集　日田市教育委員会　2003

『吹上遺跡Ⅱ・9～11次調査の記録』日田市埋蔵文化財調査報告書第52集　日田市教育委員会　2004

『吹上遺跡Ⅳ・6次調査の記録』　日田市埋蔵文化財報告書第70集　日田市教育委員会　2006

《時期比定参考文献》

片岡宏治　1984『板付Ⅱ式土器の細分と編年について』『三沢蓮ヶ浦遺跡』福岡県教育委員会

田崎博之　1985『須玖式土器の再検討』『史淵』35号　九州大学文学部

常松幹雄　1992『伊都国の土器、奴国の土器』『古代探叢Ⅱ』

橋口達也　1979『甕棺の編年的研究』『九州縦貫道自動車関係埋蔵文化財調査報告書　XXXⅠ中巻』福岡県教育委員会

平　美典　2004『北部九州における中期から後期前半の土器と併行関係』『弥生中期土器の併行関係』埋蔵文化財研究会

平尾和久　2001『浮羽郡内における弥生時代後期の土器について』『仁右衛門畑遺跡Ⅱ』福岡県教育委員会

第１表　出土土器観察表①

図	番号	調査区	グリッド名	遺構名	種別	器種	法量（cm）			調整		胎土	焼成	色調				写真図版	備考
							口径	器高	底径	内面	外面			内面		外面			
4	1	B2区	-	2住	弥生	甕				不明	不明	C	良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4		
4	2	B2区	-	1住	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR6/4	橙	5YR6/6		
4	3	B2区	-	1住	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CAD	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄褐	10YR4/3		
4	4	B2区	-	2住	弥生	甕				不明	不明	BCAD	良	にぶい橙	7.5YR7/4	にぶい橙	7.5YR7/4		
4	5	B2区	-	2住	弥生	甕			(7.3)	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR6/3	橙	5YR6/6		
9	1	D01区	1G	一括	弥生	甕				不明	不明	BC	良	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3		
9	2	D01区	2G	一括	弥生	甕			(6.3)	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	CAD	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
9	3	D01区	2G	一括	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙	10YR6/3		
9	4	D01区	4G	住居跡	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CA	良	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3		
9	5	D01区	4G	住居跡	弥生	甕			7.4	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	BCA	良	にぶい橙	5YR7/4	にぶい橙	5YR7/4		
9	6	D01区	4G	住居跡	弥生	甕				不明	不明	BC	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
9	7	D01区	4G	住居跡	弥生	甕			6.6	ﾅﾃﾞ	丹塗り	BCD	良	浅黄橙	10YR8/3	赤	10R5/6		
9	8	D01区	5G	一括	弥生	甕	(21.6)	(5.6)		ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	CADE	良	灰黄	2.5YR6/2	灰黄	2.5YR6/2		
9	9	D01区	5G	一括	弥生	壺				丹塗り	丹塗り	A	良	灰白	10YR8/2	赤	10R4/6		
9	10	D01区	5G	一括	弥生	壺				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CA	良	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3		
9	11	D01区	5G	一括	弥生	高坏				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CAD	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
9	12	D01区	6G	一括	弥生	底部		(5.2)	7.5	ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	ﾅﾃﾞ	AB	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
9	13	D01区	6G	一括	弥生	甕			(6.8)	ﾅﾃﾞ	ﾊｹのちﾅﾃﾞ	CA	良	にぶい橙	7.5YR7/4	にぶい橙	7.5YR7/4		
9	14	D01区	6G	一括	弥生	底部		(4.4)	6.4	ﾅﾃﾞ,指頭圧痕後ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	ABE	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
9	15	E01区	2G	ピット	弥生	高坏				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CBAD	良	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3		
12	1	D01区	3G	1住	弥生	甕	(29.1)	(7.5)		ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	指押え,沈線,ﾊｹ	CA	良	淡橙色		淡黄橙色			
12	2	D01区	3G	1住	弥生	甕	(22.6)	(6.2)		ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,沈線,ﾊｹ	A	良	淡黄橙色		灰黄褐色		9図6	
12	3	D01区	3G	1住	弥生	甕		(10.8)		ミガキ,指頭圧痕,工具痕	ﾊｹ後ﾖｺﾅﾃﾞ,ミガキ	AC	良	淡赤褐色		淡赤褐色			
12	4	D01区	3G	1住	弥生	甕		(11.7)		指頭圧痕,ﾊｹ後ﾅﾃﾞ,ミガキ	ﾖｺﾅﾃﾞ,指頭圧痕,ﾊｹ	AC	良	橙色		淡橙色			
12	5	D01区	3G	1住	弥生	甕		(8.2)		ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ﾊｹ後ﾅﾃﾞ,ﾊｹ	CA	良	淡橙色		淡褐色			
12	6	D01区	3G	1住	弥生	甕	(26.4)	(13.2)		指押え,表面剥落	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ,沈線	ABCH	良	淡黄橙色		淡黄褐色		9図4	
12	7	D01区	3G	1住	弥生	甕？	(21.4)	(6.5)		ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,キザミ目,ﾊｹ	AC	良	浅黄橙色		灰黄褐色		9図5	
12	8	D01区	3G	1住	弥生	甕	(16.6)	(7.3)		ﾅﾃﾞ?	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ	ACD	良	淡橙色		淡黄橙色			
12	9	D01区	3G	1住	弥生	底部		(6.6)	7.2	剥落	ﾅﾃﾞ?,指頭圧痕	ABEDH	良	橙色		橙色		9図7	
12	10	D01区	3G	1住	弥生	底部		(6.0)	6.1	指ﾅﾃﾞ	ﾊｹ,摩耗の為不明	AC	良	褐灰色		淡橙色			内面スス付着
12	11	D01区	3G	1住	弥生	底部		(7.5)	(8.2)	ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ,接合痕	ABDH	良	黒褐色		橙色			内面スス付着？
12	12	D01区	3G	1住	弥生	甕底部		(5.8)	8.1	ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ABDH	良	灰黄褐色		橙色			
12	13	D01区	3G	1住	弥生	壺底部		(7.5)	5.7	ﾅﾃﾞ?,指頭圧痕	ﾅﾃﾞ?	BADH	良	橙色		橙色		9図8	外面スス付着？
12	14	D01区	3G	1住	弥生	壺底部		(5.7)	(9.0)	工具ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	工具ﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ	ACD	良	灰黄色		明灰黄色			
12	15	D01区	3G	1住	弥生	壺底部		(4.8)	(7.8)	ﾅﾃﾞ,剥離	ミガキ?	DC	良	浅黄色		浅黄色			
12	16	D01区	3G	1住	弥生	器台	6.9	5.6	4.4	指ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	ACDE	良	淡橙色		淡橙色		9図9	
12	17	D01区	3G	1住	弥生	底部		(4.1)	(4.4)	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ後ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	AC	良	黄灰色		黄灰色			
14	1	D01区	3G	2住	弥生	甕	(34.0)	(26.1)		ﾅﾃﾞ,ﾊｹ残存	ﾊｹのちﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ	ACD	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
14	2	D01区	3G	2住	弥生	鉢	(18.8)	(13.0)		ﾊｹ,表面剥落	表面剥落,指押え,ﾊｹ	BCAH	良	淡褐色		橙色		9図2	
14	3	D01区	3G	2住	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CA	良	にぶい黄橙	10YR5/3	にぶい黄橙	10YR5/3		
14	4	D01区	3G	2住	弥生	甕	(28.3)	(10.3)		不明	ﾖｺﾅﾃﾞ?,ﾊｹ(不明瞭)	AC	良	淡黄橙色		灰黄褐色			
14	5	D01区	3G	2住	弥生	甕	(17.2)	(2.8)		ﾅﾃﾞ?	ﾅﾃﾞ	AC	良	黄灰色		淡橙色			
14	6	D01区	3G	2住	弥生	壺		(20.3)	5.9	指押え,ﾅﾃﾞ	ミガキ,ﾅﾃﾞ	BAGH	良	橙色		橙色			黒斑
14	7	D01区	3G	2住	弥生	甕			(6.5)	指押え,ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	ACF	良	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙	10YR6/3		
14	8	D01区	3G	2住	弥生	底部		(4.3)	7.1	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ACD	良	褐色		褐色			
14	9	D01区	3G	2住	弥生	底部		(4.2)	5.0	ﾅﾃﾞ?,指頭圧痕	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ACBH	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
16	1	D01区	3G	1甕	弥生	甕	29.5	35.3	8.4	指頭圧痕,ﾅﾃﾞ,工具痕	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ	ABD	良	淡黄褐色		淡黄褐色		12図1	底部黒斑
16	2	D01区	3G	1甕	弥生	壺		(42.1)	9.9	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ,指頭圧痕ﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ	ﾊｹ後ﾅﾃﾞ,ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ACBE	良	淡黄橙色		淡橙色		12図2	黒斑
19	1	D01区	3G	2・3土	弥生	甕	(17.6)	(7.2)		指押え後ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,沈線,ﾊｹ	ACD	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
19	2	D01区	3G	2・3土	弥生	甕	(23.3)	(8.4)		剥離	指頭圧痕後ﾅﾃﾞ,ﾊｹ	ACDH	良	淡橙色		淡橙色			

※法量の単位はcm。（）は残存と復元値を示す。網掛けの遺物は所在不明の遺物。
胎土：A角閃石　B石英　C長石　D赤色粒子　E白色粒子　F黒色粒子　G雲母　I砂粒子　H灰色粒子

第２表　出土土器観察表②

図	番号	調査区	グリッド名	遺構名	種別	器種	法量（cm） 口径	器高	底径	調整 内面	外面	胎土	焼成	色調 内面		外面		写真図版	備考
19	3	DⅢ区	3G	2・3土	弥生	甕		(10.1)		表面剥落	表面剥落	AH	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
19	4	DⅢ区	3G	2・3土	弥生	底部		(10.7)	6.4	摩耗の為調整不明	一部ﾊｹ	ADH	良	浅黄橙色		橙色			
19	5	DⅢ区	3G	2・3土	弥生	底部		(6.4)	(8.2)	ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	ﾅﾃﾞ,工具ﾅﾃﾞ	ABDH	良	浅黄橙色		浅黄褐色			
19	6	DⅢ区	3G	一括	弥生	甕	(25.8)	(29.9)		ﾊｹ,摩耗の為不明	摩耗の為不明瞭	ACH	良	浅黄橙色		浅黄橙色			黒斑
19	7	DⅢ区	3G	一括	弥生	甕	(19.6)	(15.1)		ﾊｹ,指頭圧痕	摩耗の為不明	ACH	良	浅黄橙色		浅黄橙色			黒斑
19	8	DⅢ区	3G	一括	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR5/4	にぶい黄橙	10YR5/4		
19	9	DⅢ区	3G	一括	弥生	甕	(13.2)	(14.3)		指頭圧痕後ﾅﾃﾞ,ﾊｹ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ	ACE	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
19	10	DⅢ区	3G	一括	弥生	壺		(13.0)		指ｵｻｴ後ﾊｹ	ﾊｹ,突帯	BH	良	褐灰色		浅黄橙色			黒斑
19	11	DⅢ区	3G	一括	弥生	壺	14.5	(11.6)		ﾊｹ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ,指頭圧痕	ACH	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
19	12	DⅢ区	3G	一括	弥生	高坏		(17.9)	(17.4)	ﾊｹ,ケズリ	ﾊｹ,ﾖｺﾅﾃﾞ	ACH	良	浅黄橙色		浅黄橙色			穿孔４ヶ所
19	13	DⅢ区	3G	一括	弥生	器台	7.6	11.0	11.8	指ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ?	ACH	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
19	14	DⅢ区	3G	一括	弥生	器台底部		(6.2)	11.9	シボリ痕後ケズリ	指頭圧痕後ﾅﾃﾞ	ACD	良	淡橙色		淡橙色			
19	15	DⅢ区	3G	一括	弥生	鉢	(9.2)	5.1	5.0	ﾅﾃﾞ(指頭圧痕)	ﾅﾃﾞ(指頭圧痕)	C	良	灰白色		灰白色			底部黒斑
23	1	FⅢ区	1トレ	1甕	弥生	甕棺		(50.0)	(14.8)	指頭圧痕のちﾅﾃﾞ(工具痕)	ﾊｹ,ﾖｺﾅﾃﾞ	AC	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		黒斑
23	2	FⅢ区	1トレ	1甕	弥生	甕棺		80.4	13.4	工具ﾅﾃﾞ,打ち欠き	ミガキ,ﾖｺﾅﾃﾞ	ABC	良	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙	10YR6/3		黒斑
26	1	FⅢ区	1トレ	2甕	弥生	甕棺		(70.4)	12.4	工具ﾅﾃﾞ,接合痕,打ち欠き	ﾅﾃﾞ,ﾊｹ,ﾖｺﾅﾃﾞ	ABC	良	にぶい黄橙	10YR6/4	橙	7.5YR7/6		黒斑
30	1	FⅢ区	1トレ	1貯	弥生	甕	(15.2)	(7.0)		ﾅﾃﾞ	指頭圧痕,ﾊｹ後ﾅﾃﾞ	ACE	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
30	2	FⅢ区	1トレ	1貯	弥生	甕	(1.5)			タタキ	不明	BCA	不良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4		
30	3	FⅢ区	1トレ	1貯	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CA	良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4		
30	4	FⅢ区	1トレ	1貯	弥生	甕			(7.2)	ﾅﾃﾞ	ﾊｹのちﾅﾃﾞ	CA	良	にぶい橙	2.5YR6/4	にぶい橙	2.5YR6/4		
30	5	FⅢ区	1トレ	一括	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	タタキのちﾊｹ,ﾅﾃﾞ	BCAD	良	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3		
33	1	GⅢ区	1トレ	1貯	弥生	甕	(25.6)	27.6	(8.4)	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	BCA	良	橙色		橙色			
33	2	GⅢ区	1トレ	1貯	弥生	甕？	(23.0)	(12.2)		ﾊｹ,表面剥落	ﾖｺﾅﾃﾞ,刻み目,沈線,ﾊｹ	BACH	良	浅黄褐色		浅黄褐色		21図4	
33	3	GⅢ区	1トレ	1貯	弥生	甕	(22.6)	(16.3)		ﾊｹ後ﾖｺﾅﾃﾞ,ミガキ	ﾊｹ後ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ	ACE	良	淡橙色		淡橙色			黒斑
33	4	GⅢ区	1トレ	1貯	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCAD	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
33	5	GⅢ区	1トレ	1貯	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCAD	良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4		
33	6	GⅢ区	1トレ	1貯	弥生	甕口縁		(9.2)		ﾅﾃﾞ?	ﾅﾃﾞ?	ABC	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
33	7	GⅢ区	1トレ	1貯	弥生	甕	(33.8)	(8.8)		ﾊｹ	調整不明,ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ	AC	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい橙	7.5YR6/4		
33	8	GⅢ区	1トレ	1貯	弥生	口縁	(18.0)	(11.3)		ﾊｹ後ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	ﾊｹ後ミガキ	AC	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
33	9	GⅢ区	1トレ	1貯	弥生	壺		(12.5)		摩耗のため不明,ミガキ	指頭圧痕,ミガキ？	ABCD	良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4		黒斑
33	10	GⅢ区	1トレ	1貯	弥生	壺		(16.4)		ﾅﾃﾞ,ミガキ,指頭圧痕	ﾖｺﾅﾃﾞ,ミガキ,	BA	良	橙色		橙色		21図1	
33	11	GⅢ区	1トレ	1貯	弥生	底部		(9.6)	8.7	ﾅﾃﾞ,剥離	ﾊｹ?,ﾅﾃﾞ	BE	良	淡橙色		淡赤褐色			
33	12	GⅢ区	1トレ	1貯	弥生	底部		(6.4)	8.7	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ?,ﾅﾃﾞ	HA	良	淡橙色		淡橙色			
34	1	GⅢ区	1トレ	2貯	弥生	甕	(42.6)	(27.5)		ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ	ABE	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
34	2	GⅢ区	1トレ	2貯	弥生	甕	(36.4)	(18.2)		ﾅﾃﾞ・ミガキ,指頭圧痕	ﾖｺﾅﾃﾞ,指頭圧痕,ﾊｹ	ACEH	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
34	3	GⅢ区	1トレ	2貯	弥生	甕	(37.4)	(19.5)		ﾅﾃﾞ,指頭圧痕,ミガキ？	ﾖｺﾅﾃﾞ,指頭圧痕,ﾊｹ	AC	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
34	4	GⅢ区	1トレ	2貯	弥生	甕	(24.8)	(17.6)		ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ	CAE	良	浅黄橙色		浅黄橙色		21図9	
34	5	GⅢ区	1トレ	2貯	弥生	甕	(21.3)	23.1	7.0	指ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	ﾊｹ,調整不明	ACE	良	淡橙色		淡橙色			
34	6	GⅢ区	1トレ	2貯	弥生	底部		(5.3)	8.8	ﾅﾃﾞ,一部ミガキ？	ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	AC	良	淡橙色		淡橙色			
34	7	GⅢ区	1トレ	2貯	弥生	底部		(6.2)	(7.6)	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ(工具痕),ﾅﾃﾞ	AB	良	浅黄橙色		橙色			
34	8	GⅢ区	1トレ	2貯	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCD	良	にぶい黄橙	10YR6/4	にぶい黄橙	10YR6/4		
34	9	GⅢ区	1トレ	2貯	弥生	甕	(17.8)	(6.4)		指押え後ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,表面剥落	ACE	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
34	10	GⅢ区	1トレ	1土	弥生	体部～底部		(15.5)	7.3	指ﾅﾃﾞ?指頭圧痕	ミガキ,ﾅﾃﾞ	EB A	良	灰褐色		橙色			
34	11	GⅢ区	1トレ	2土	弥生	甕	(26.1)	(12.3)		ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ(ミガキ風?)	ﾖｺﾅﾃﾞ,刻目,ﾊｹ後ﾅﾃﾞ,ﾊｹ	BCAH	良	浅黄橙色		浅黄橙色			
34	12	GⅢ区	1トレ	2土	弥生	壺	9.2	12.6	5.0	ミガキ後ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	ﾅﾃﾞ	BG	良	淡橙色		淡橙色			黒斑
35	13	GⅢ区	1トレ	一括	弥生	甕	(18.6)	(5.4)		表面剥落	表面剥落	EBCA	良	浅黄橙色		橙色			
35	14	GⅢ区	1トレ	一括	弥生	甕口縁		(8.2)		指頭圧痕,ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,指頭圧痕	BAD	良	浅黄橙色		浅黄橙色		21図8	
35	15	GⅢ区	1トレ	一括	弥生	支脚上部	6.6	(7.2)		ﾅﾃﾞ	ケズリ後ﾅﾃﾞ	AH	良	淡橙色		淡橙色			
35	16	GⅢ区	1トレ	一括	弥生	甕		(33.3)		ﾅﾃﾞ,ﾊｹ	ﾅﾃﾞ,ﾊｹ	ACE	良	黒色		浅黄橙色			
35	17	GⅢ区	2トレ	一括	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	不明	CAD	良	にぶい黄橙	10YR6/4	にぶい黄橙	10YR6/4		

※法量の単位はcm。（）は残存と復元値を示す。網掛けの遺物は所在不明の遺物。
胎土：A角閃石　B石英　C長石　D赤色粒子　E白色粒子　F黒色粒子　G雲母　F砂粒子　H灰色粒子

第3表　出土土器観察表③

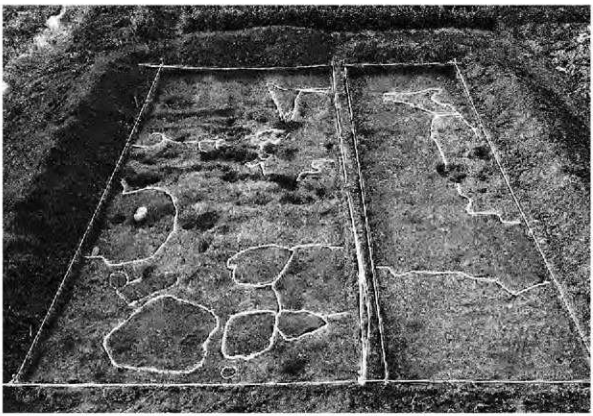
図	番号	調査区	グリッド名	遺構名	種別	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	調整 内面	外面	胎土	焼成	色調 内面		外面		掲載図版	備考
35	18	GⅡ区	2トレ	一括	弥生	甕			(7.4)	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	CA	良	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3		
37	1	H01区	1トレ	一括	弥生	口縁	(36.8)	(10.8)		ﾊｹ後ミガキ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ	ACBE	良	黄灰色		淡黄色			
37	2	H01区	1トレ	一括	弥生	底部		(13.6)	10.0	ﾅﾃﾞ?	ﾅﾃﾞ,ﾊｹ	HE	良	淡黄褐色		淡黄褐色			
37	3	H01区	2トレ	一括	弥生	甕口縁		(7.9)		ﾅﾃﾞ	指頭圧痕,ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ACE	良	褐色		褐色			
37	4	H01区	2トレ	一括	弥生	甕			(8.1)	不明	ﾊｹ	A	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
37	5	H01区	2トレ	一括	弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4		
37	6	H01区	2トレ	一括	弥生	壷				丹塗り	丹塗り	CG	良	にぶい黄橙	10YR7/3	赤橙	10R6/6		
37	7	H01区	2トレ	一括	弥生	甕			(6.5)	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BCA	良	にぶい黄橙	10YR7/3	浅黄橙	10YR8/3		
39	1	GⅠ区	ゴボウ畑	表採	弥生	甕	(32.6)	(27.5)		ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ	ACD	良	淡黄橙色		淡黄橙色			黒斑
39	2	GⅠ区	ゴボウ畑	表採	弥生	甕	13.2	(11.7)		ﾊｹ,指頭圧痕後ﾅﾃﾞ	指頭圧痕,ﾊｹ後ﾅﾃﾞ	CEB	良	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙	10YR6/3		
39	3	GⅠ区	ゴボウ畑	表採	弥生	甕	(22.6)	(7.7)		ﾅﾃﾞ,指頭圧痕	ﾊｹ後ﾅﾃﾞ,ﾊｹ	CDB	良	にぶい黄橙	10YR7/2	にぶい黄橙	10YR7/2		
39	4	GⅠ区	ゴボウ畑	表採	弥生	甕		(10.4)		ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾅﾃﾞ	CADE	良	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙	10YR6/3		
39	5	GⅠ区	ゴボウ畑	表採	弥生	甕		(29.9)	8.8	指頭圧痕,工具ﾅﾃﾞ	ﾊｹ,指頭圧痕,ﾅﾃﾞ	ACH	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
39	6	GⅠ区	ゴボウ畑	表採	弥生	甕		(30.0)	6.0	指頭圧痕,ﾊｹ,ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ,ﾊｹ,焼成後穿孔	ABCH	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		黒斑
40	1	表採			弥生	甕	(18.4)	(5.6)		指頭圧痕,ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,指頭圧痕,ﾊｹ	CA	良	淡黄橙色		灰黄褐色			
40	2	表採			弥生	甕	(13.6)	(10.0)		工具ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,タテ方向のﾅﾃﾞ	A	良	淡黄橙色		淡黄橙色			
40	3	表採			弥生	甕	(16.6)	13.9	6.0	指頭圧痕,ﾅﾃﾞ,ﾊｹ	合成復元,ﾊｹ残存	ACBD	良	浅黄橙	10YR8/3	浅黄橙	10YR8/3		黒斑
40	4	表採			弥生	甕	(28.8)	19.2	9.1	指頭圧痕,ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ	ACBH	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		
40	5	表採			弥生	甕				ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	BCA	良	にぶい橙	5YR6/4	にぶい橙	5YR6/4		
40	6	表採			弥生	壷		(10.2)		ミガキ,ﾖｺﾅﾃﾞ	摩滅,ﾖｺﾅﾃﾞ	CA	良	にぶい黄橙色	10YR7/3	浅黄橙色	7.5YR8/4		丹塗り
40	7	表採			弥生	壷	(15.1)	(8.8)		ﾖｺﾅﾃﾞ,摩滅	ﾊｹ,摩滅	BCA	良	浅黄橙色	10.0YR8/4	浅黄橙色	10.0YR8/4		
40	8	表採			弥生	壷	17.8	(7.0)		ﾊｹ後ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,ﾊｹ	ACED	良	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4		
40	9	表採			弥生	甕	(19.7)	(13.5)		ﾅﾃﾞ	ﾊｹ,ﾖｺﾅﾃﾞ	CG	良	にぶい黄褐色	10.0YR5/3	にぶい橙色	10.0YR7/3		
40	10	表採			弥生	高杯	(24.4)	(7.0)		ミガキ,赤彩	摩耗不明	ACED	良	赤褐	2.5YR4/6	にぶい黄橙(表面剥落)	10YR7/4		内面に赤彩
40	11	表採			弥生	高杯	27.0	20.3	(17.1)	ﾊｹ,ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ,穿孔	AEBG	良	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6		ｽｶｼ3,3孔,2対穴
40	12	表採			弥生	鉢	(7.6)	(6.3)	(4.0)	指頭圧痕・ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ,指頭圧痕・ﾅﾃﾞ	AC	良	にぶい黄橙	10YR7/2	にぶい黄橙	10YR7/2		黒斑
40	13	表採			弥生	小型甕	12.8	9.5	6.2	ﾅﾃﾞ,ミガキ	粘土突帯,摩耗不明	ACD	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/3		黒斑
40	14	表採			弥生	器台	(10.0)	(14.2)		工具ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	BDA	良	浅黄橙	7.5YR8/4	浅黄橙	7.5YR8/4		
40	15	表採			弥生	壺	(21.2)	14.3	7.0	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ後ミガキ,ﾅﾃﾞ	ミガキ,ﾅﾃﾞ,ﾊｹ	ACE	良	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい橙	5YR7/4		黒斑
40	16	表採			須恵器	高杯	(14.0)	(5.2)		ﾅﾃﾞ,回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ,ヘラケズリ,透かし	E	やや不良	灰白	5YR7/1	灰白	5YR7/1		

※法量の単位はcm。（）は残存と復元値を示す。網掛けの遺物は所在不明の遺物。
胎土：A角閃石　B石英　C長石　D赤色粒子　E白色粒子　F黒色粒子　G雲母　F砂粒子　H灰色粒子

第4表　出土石器・玉類・土製品観察表

図版	番号	調査区	グリッド名	遺構名	種別	材質	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重さ(g)	胎土	色調	調整	掲載図版	備考
24	1	FⅡ区	1トレンチ	1溝	鉄刀	鉄	7.60	3.30	1.20	51.7				16図1	
24	2	FⅡ区	1トレンチ	1溝	砥石	砂岩	3.20	1.20	0.90	5.4				16図2	
24	3	FⅡ区	1トレンチ	2溝	勾玉	翡翠	2.50	1.50	0.88					16図3	
41	1	D01区	3グリット	一括	石庖丁	輝緑凝灰岩	4.80	13.10	0.70	70.9					
41	2	D01区	3グリット	一括	石庖丁	輝緑凝灰岩	4.60	6.80	0.80	26.4					
41	3	GⅡ区	一括		石庖丁	砂岩	4.30	5.80	0.45	17.7					
41	4	GⅡ区	2トレンチ	一括	石庖丁	凝灰岩	3.45	5.65	0.70	20.5					
41	5	H01区	2トレンチ	一括	打製石斧	安山岩	20.25	12.45	2.35	674.0					
41	6	D01区	3グリット	3土	砥石	粘板岩	2.95	1.20	0.90	5.4					
41	7	GⅡ区	2トレンチ	一括	砥石	安山岩	7.85	6.00	4.70	89.4					
41	8	FⅡ区	1トレンチ	1溝	タタキ石	安山岩	7.20	6.45	5.40	353.3					
41	9	GⅡ区	1トレンチ	一括	土錘	土製品	4.10	1.30	–	6.9	AC	にぶい黄橙	良		
41	10	FⅡ区	4トレンチ	一括	投弾	土製品	5.00	2.60	2.20	23.2	C	にぶい橙	良		
41	11	GⅡ区	一括		投弾	土製品	4.30	2.60	2.60	19.0	CE	暗灰色	良		

※法量の単位はcm。（）は残存と復元値を示す。網掛けの遺物は所在不明の遺物。
胎土：A角閃石　B石英　C長石　D赤色粒子　E白色粒子　F黒色粒子　G雲母　F砂粒子　H灰色粒子



BⅡ区１トレンチ（東から）

E01・E02・D01区グリッド遠景（東から）

E02区１グリッド（西から）

E01区１グリッド（西から）

E01区２グリッド（西から）

E01区６グリッド（西から）

D01区１・２・４・５グリッド（北東から）

D01区２・３・５グリッド（北から）

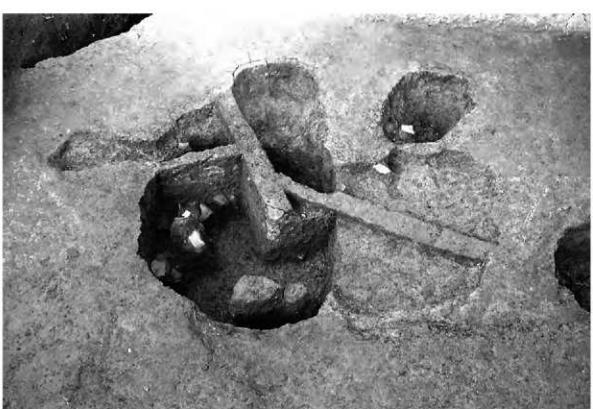
D01区３グリッド（南から）

D01区３グリッド（北から）

D01区 3 グリッド 1 号貯蔵穴土層

D01区 3 グリッド 1 号貯蔵穴拡大

D01区３グリッド２号貯蔵穴（北から）



D01区３グリッド１～３号土坑（南から）

D01区３グリッド１号甕棺墓検出状況（北から）

D01区３グリッド１号甕棺墓検出状況（西から）

D01区 3 グリッド 1 号甕棺墓検出状況（東から）

D01区 3 グリッド 1 号甕棺墓完掘（真上から）

FⅡ区全景（西から）

FⅡ区１トレンチ全景（東から）

FⅡ区１トレンチ１・２号甕棺墓検出状況（東から）

FⅡ区１トレンチ１・２号甕棺墓検出状況（北から）

FⅡ区１トレンチ１号甕棺墓（北から）

FⅡ区１トレンチ２号甕棺墓（北から）

FⅡ区３トレンチ（南から）

GⅡ区全景（南から）※手前２トレンチ、奥１トレンチ

GⅡ区１トレンチ（東から）

GⅡ区１トレンチ１号貯蔵穴（西から）

GⅡ区１トレンチ１号貯蔵穴土器出土状況

GⅢ区１トレンチ（西から）

H I 区トレンチ（東から）

I・J01区トレンチ（東から）

9-12

12-6

12-13

9-14

12-7

12-14

12-1

12-8

12-15

12-2

12-9

12-17

12-3

12-10

14-1

12-4

12-11

14-2

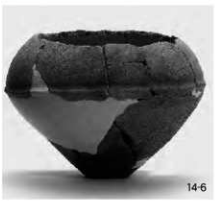
12-5

12-12

14-4

写真図版18

14-5


14-6

14-8

14-9

16-1

16-2

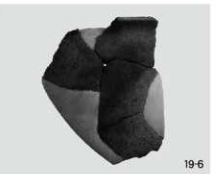
19-1

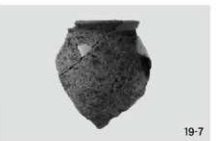
19-2

19-3

19-4

19-5


19-6


19-7

19-9

19-10

19-11

19-12

19-13

30-1

33-2

19-14

33-1

33-3

19-15

33-6

23-1

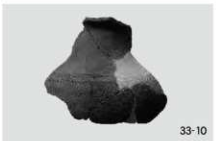
23-2

26-1

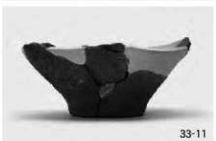
24-1

写真図版20

33-8


33-10

33-12


33-11

34-1

34-3

34-4

34-5

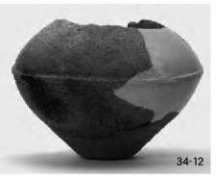
34-6

34-7

34-9

34-10

34-11


34-12

35-13

35-14

35-15

35-16

37-1

37-2

37-3

39-1

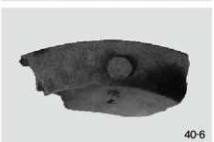
39-5

39-6

40-1

40-2

40-4


40-6

40-7

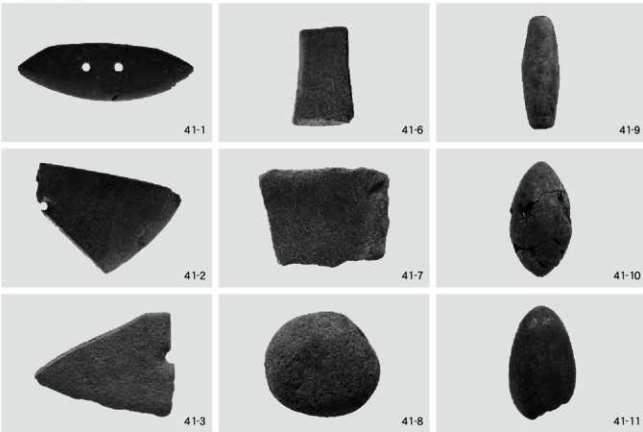
40-9

40-11

40-13

40-15

写真図版22



報 告 書 抄 録

ふりがな	ふきあげ5
書名	吹上V
副書名	1・2次調査の記録
巻次	
シリーズ名	市内遺跡発掘調査報告・日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	12・第110集
編著者名	渡邉隆行
発行機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601　日田市田島2-6-1
発行年月日	2013年3月29日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
吹上遺跡	大分県日田市大字渡里・吹上友田	44204-6	204088	33°18′08″	130°92′64″	(1次) 790820～791017	517㎡	農業基盤整備
						(2次) 801117～810129	538㎡	

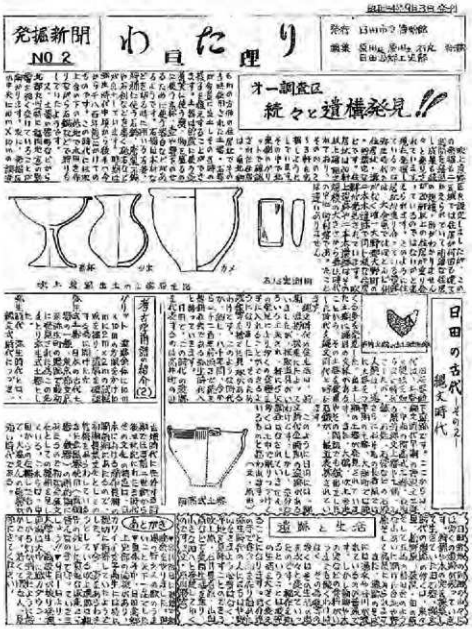
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吹上遺跡	集落跡 墳墓群	弥生時代	住居跡、溝、貯蔵穴、土坑、ピット、石棺墓、甕棺墓	甕棺、鉄刀、ガラス小玉、弥生土器、石剣など	

要約

吹上遺跡は日田盆地北部の通称吹上原台地上に位置する市内を代表する弥生集落遺跡で、これまで11次の調査が行われている。なかでも、6次調査区は、青銅製武器類や南海産貝輪などの豪華な副葬遺物を有する甕棺墓・木棺墓などの墳墓群が検出されており、日田地域を治めた有力者層の特定集団墓と目される。

1・2次調査は、昭和54・55年度に農業基盤整備事業に対応した事前調査として、台地全体を対象として調査を実施した。調査は確認調査として実施しているため、未掘箇所が多く、詳細不明ではあるものの、概ね弥生時代前期後半から終末期までの住居跡、竪穴状遺構、貯蔵穴、溝、土坑などの多数の生活遺構が検出された。また、弥生中期末から後期にかけての成人用甕棺墓3基や石棺墓5基などの墳墓群も検出され、甕棺墓からは鉄刀や勾玉などの副葬遺物が出土した。

弥生時代全時期を通じて継続する生活遺構の存在と、副葬品を有する墳墓群の存在によって、吹上遺跡が日田盆地の中心となる拠点的集落であることが特徴付けられる成果を得たと言える。


発掘新聞
NO 2
わ 員 た 理 り
オー調査区
続々と遺構発見!!
日田の古代 その2
縄文時代
遺跡と生活

吹上遺跡１・２次調査中に発行した発掘調査速報新聞（全７回）

※No.１・７は吹上Ⅰ・Ⅲに掲載

吹上Ⅴ

－１・２次調査の記録－

市内遺跡発掘調査報告12

日田市埋蔵文化財調査報告書第110集

平成25年３月29日

発　行　日田市教育委員会
大分県日田市田島2-6-1

印　刷　尾花印刷有限会社
大分県日田市田島本町8-8

日田市

VEGETABLE OIL INK